

# 宝達志水町役場庁舎改修工事

図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
	[ 意 匠 ]		[ 構 造 ]		[ 電 気 設 備 ]		[ 機 械 設 備 ]
A－01	建築改修工事特記仕様書（1）	S－01	構造設計標準仕様書	E－01	工事仕様書（電気設備）1	M－01	工事仕様書（機械設備）1
A－02	建築改修工事特記仕様書（2）	S－02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）	E－02	工事仕様書（電気設備）2	M－02	工事仕様書（機械設備）2
A－03	建築改修工事特記仕様書（3）	S－03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）	E－03	工事仕様書（電気設備）3	M－03	給排水衛生設備 1階平面図（改修）
A－04	建築改修工事特記仕様書（4）	S－04	鉄骨構造標準図	E－04	受変電設備 単線結線図	M－04	給排水衛生設備 1階平面詳細図（改修）
A－05	配置図・付近見取図	S－05	露出型弾性固定柱脚工法設計施工標準図	E－05	電気設備 1階平面図	M－05	給排水衛生設備 2階平面図（改修）
A－06	仕上表・面積表・建具表	S－06	合成床版設計施工標準図	E－06	電気設備 2階平面図	M－06	給排水衛生設備 2階平面詳細図（改修）
A－07	1階改修平面図	S－07	地質調査図	E－07	電気設備 3階平面図	M－07	給排水衛生設備 3階平面図（改修）
A－08	2階改修平面図	S－08	E V棟 杭伏図・基礎伏図	E－08	電気設備 P H階平面図	M－08	給排水衛生設備 3階平面詳細図（改修）
A－09	3階改修平面図	S－09	E V棟 1階伏図・2階伏図			M－09	給排水衛生設備 屋上平面図（改修）
A－10	南側立面図	S－10	E V棟 3階伏図・R階伏図			M－10	空調調和設備 1階平面図（改修）
A－11	西側立面図	S－11	E V棟 軸組図（1）			M－11	空調調和設備 2階平面図（改修）
A－12	1階改修天井伏図	S－12	E V棟 軸組図（2）			M－12	空調調和設備 3階平面図（改修）
A－13	2階改修天井伏図	S－13	E V棟 部材リスト			M－13	空調調和設備 屋上平面図（改修）
A－14	3階改修天井伏図	S－14	E V棟 雑詳細図・鉄骨架構詳細図				
A－15	改修矩計図	S－15	既設部材リスト（1）				
A－16	エントランス・階段ホール既設平面詳細図	S－16	既設部材リスト（2）				
A－17	エントランス・階段ホール改修平面詳細図						
A－18	エントランス・階段ホール展開図						
A－19	1階BWC展開図						
	2階町長室平面詳細図・展開図						
A－20	2・3階北側WC改修詳細図						
	2・3ファンコイルカバー改修詳細図						
A－21	エレベーター詳細図1						
A－22	エレベーター詳細図2						
A－23	エレベーター詳細図3						
A－24	エレベーター詳細図4						

[illegible]

排出ガス対策型建設機械

次に掲げる指定建設機械は、排気ガス対策型とする。  
1) バックホウ  
2) トラクタショベル  
3) 発動発電機  
4) 空気圧縮機  
5) ローラ類  
6) ホイールクレーン

創意工夫等

工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。

保険の付与及び事故の補償

1) 受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。  
2) 受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任を適切に補償をしなければならない。(法定外の労災保険を含む)  
3) 受注者は、建設業退職金共済制度の対象労働者数及び就労予定日数を的確に把握し、その掛金収納書の写しを工事請負契約締結1ヶ月以内及び工事完成時に、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。

電子納品

・行う(「電子納品仕様書」による。) ・行わない 選択可能  
なお、情報共有システムを利用する場合の、登録料及び利用料については受注者負担とする。(但し、工事請負金額500万円以上の工事)  
電子納品仕様書  
1 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。  
ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。  

名 称	
営繕工事電子納品要領(令和3年版)	
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】(令和3年版)	

基準・要領類のダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild\_tk2\_000017.html  
2 工事関係書類の最終完成品を、従来の紙での納品と別にCD-R、DVD-R又はBR-Dで1部納品する。  
3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。  
4 発注者が行うCALS/EC電子納品に関する調査について協力を行うものとする。

騒音振動の防止

低騒音〔G〕、低振動型建設機械を使用する。

隣接建物又は工作物の調査

※行う ・行わない

敷地の状況確認

着工に先立ち地下に埋設されたガス管、電話ケーブル、給排水管及び架設物がない関係機関の協力を得て確認し、報告するとともに事故を未然に防ぐよう留意する。

総合評価時における技術提案

「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、受注者は「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出のうえ、履行状況の確認を受ける。  
なお、受注者の責任以外の理由等により、変更等の必要が生じた場合は、事前に監督員と協議する。

ダンプトラック等による過積載等の防止

1) 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。  
2) さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。  
3) 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受けること等、過積載を助長することのないようにすること。  
4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。  
5) 建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び資材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。  
6) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」(昭和42年8月2日法律第131号。)の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体への加入者の使用を促進すること。  
7) 1から6につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。

景観への配慮

当該工事は、景観に配慮した工事施工に努める。

⑥

既存部分の養生

既存部分の養生方法  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等  
・ ※ビニールシート等

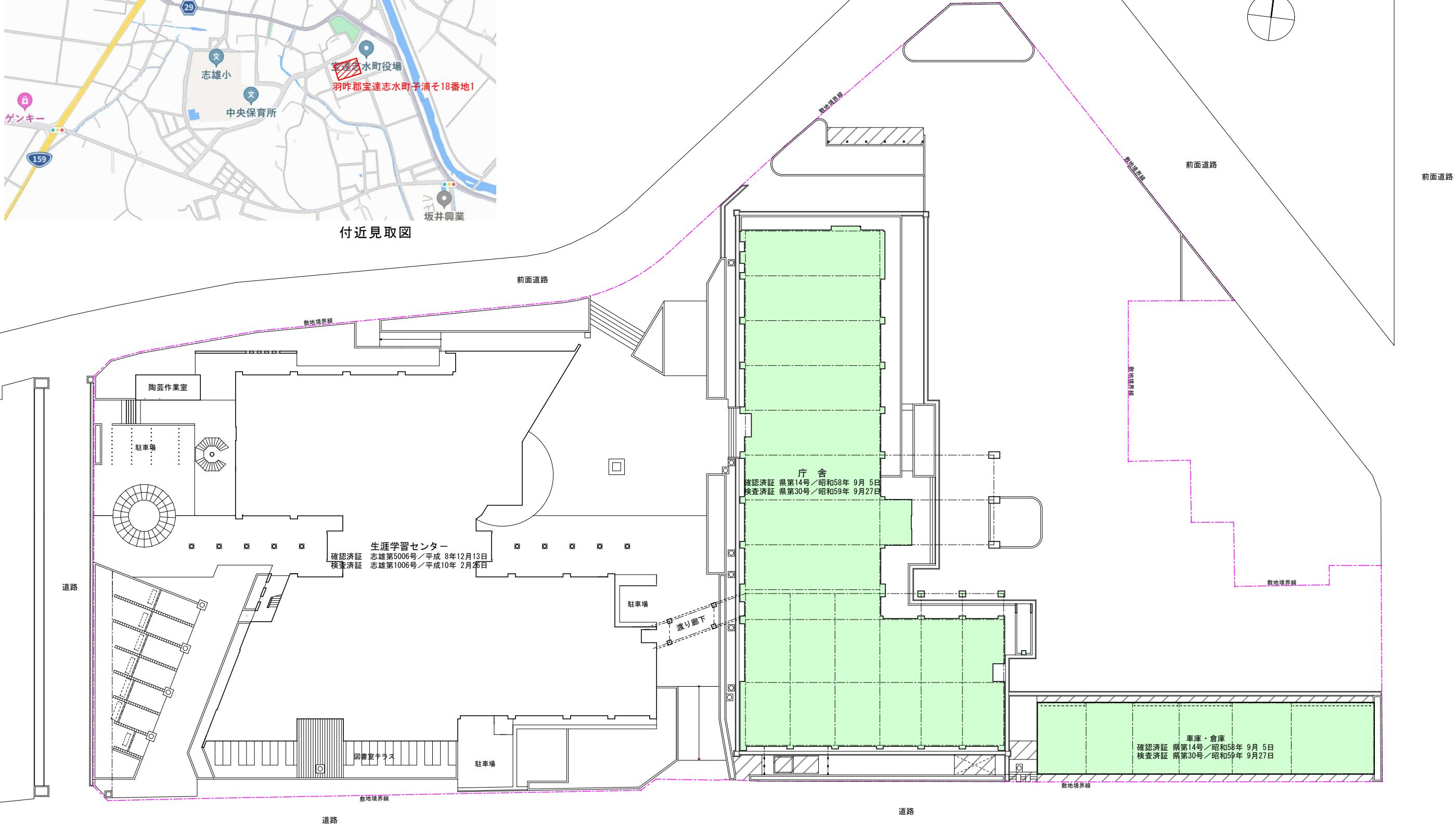
4	浮き部改修工法	モルタルを撤去しない場合	[4.1.4][4.3.5][4.3.11~16][表4.3.5~6]				④見本の製作等 ・建具見本の製作 (建具番号) ・特殊な建具の仮組 (建具番号) ⑤建具回り等の充填モルタル 防水剤 (モルタルに混入する防水剤の品質)	[5.1.5]	14	軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ・上部電動式 (手動併用) [5.12.2][表5.12.1] 外部に面するシャッターの耐風圧強度 耐風圧性能 ( ) N/m <sup>2</sup> [5.12.2] スラット 厚さ (mm) ※0.5 ・0.8 [5.12.3][表5.12.2] 材質 ※ JISG3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板又は鋼帯) ・ JISG3322 (塗装溶融55%亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) 形状 ※ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 [5.12.4] ガイドレール等 ※鋼板製 ・ステンレス製SUS304 (厚さ1.5mm) [表5.12.2]								
			改修工法の種類	7ヶパシンの本数 (本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )						充填量 又は注入量 (ml/箇所)							
				一般部	指定部	一般部							指定部						
			・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25								※25	[6.15.3]					
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12						※20	※25						
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12						※20	※50	[5.1.6]					
			・注入口付7ヶパシンの部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16								※25						
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9						※16	※25	[5.1.2][5.2.4][表5.2.1]					
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9						※16	※50						
			・アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5]															
4章-4 タイル張り仕上げ外壁改修工事																			
1	既存タイル張りの撤去	・外壁タイル張り全面 ・図示の範囲 撤去範囲 ※下地モルタルまで ・張付けモルタルまで	[4.1.4][4.2.5][4.4.5~6]				3	網戸	5	鋼製建具	1) 簡易気密型の簡易気密型ドアセット性能値 ※適用する (適用箇所は建具表による) 2) 外部に面する建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 3) 材料 ※JIS G3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) 4) 鋼板厚の厚さ (1枚の戸の有効開口幅 950mm、又は有効高さ 2,400mmを超える場合) ※下表以外は表5.4.2による								
			※樹脂注入工法	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)						[5.4.2][表5.4.1]							
													※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~1.0以下	※200~300	※			
			・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3以下	※50~100	※40						[5.4.2][表5.4.1]							
			・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5超え~1.0以下	※150~250	※130													
			[4.4.5]																
			※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A6024低粘度形又は中粘度形) 検査 (コア抜取り) ※行わない ・行う (抜取り部の補修方法: )									[4.2.5]							
			・ウカットシール材充填工法 (既存タイル張り撤去面)																
			[4.1.4][4.2.4][4.2.6]																
			[4.2.4]																
3	欠損部改修工法	・タイル部分張替え工法 張付け材料 ※ポリマーセメントモルタル ・接着剤 (JIS A 5557)に基づく一液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系) ・タイル張替え工法 張付け材料 ・張付けモルタル (・現調合 ・既調合) ・接着剤 (JIS A 5557)に基づく一液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系)	[4.1.4][4.4.5][4.4.9~15]				6	標準型鋼製建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による ・適用する (適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性										
			改修工法の種類	7ヶパシンの本数 (本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )				充填量 又は注入量 (ml/箇所)									
				一般部	指定部	一般部					指定部								
			・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25						※25	[5.4.2][表5.4.1]							
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※25								
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※50	[5.4.2][5.6.2][表5.4.1][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16						※25								
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※25	[5.4.2][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※50								
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※50	[5.4.2][表5.2.1]							
・アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5]																		
4章-5 仕上塗り仕上げ外壁改修工事																			
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 工法 処理範囲 ひび割れ部等の補修 ※サンダー工法 ※既存仕上げ面全体 ・ ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 浮き部改修工法 ・塗膜はく離剥工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体	[4.5.4][4.5.4~7]				7	鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による ・適用する (適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性										
			改修工法の種類	7ヶパシンの本数 (本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )				充填量 又は注入量 (ml/箇所)									
				一般部	指定部	一般部					指定部								
			・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25						※25	[5.4.2][表5.4.1]							
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※25								
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※50	[5.4.2][5.6.2][表5.4.1][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16						※25								
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※25	[5.4.2][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※50								
			・アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5]															
4章-5 仕上塗り仕上げ外壁改修工事																			
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 工法 処理範囲 ひび割れ部等の補修 ※サンダー工法 ※既存仕上げ面全体 ・ ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 浮き部改修工法 ・塗膜はく離剥工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体	[4.5.4][4.5.4~7]				7	鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による ・適用する (適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性										
			改修工法の種類	7ヶパシンの本数 (本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )				充填量 又は注入量 (ml/箇所)									
				一般部	指定部	一般部					指定部								
			・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25						※25	[5.4.2][表5.4.1]							
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※25								
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※50	[5.4.2][5.6.2][表5.4.1][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16						※25								
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※25	[5.4.2][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※50								
			・アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5]															
4章-5 仕上塗り仕上げ外壁改修工事																			
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 工法 処理範囲 ひび割れ部等の補修 ※サンダー工法 ※既存仕上げ面全体 ・ ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 浮き部改修工法 ・塗膜はく離剥工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体	[4.5.4][4.5.4~7]				7	鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による ・適用する (適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性										
			改修工法の種類	7ヶパシンの本数 (本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )				充填量 又は注入量 (ml/箇所)									
				一般部	指定部	一般部					指定部								
			・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25						※25	[5.4.2][表5.4.1]							
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※25								
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※50	[5.4.2][5.6.2][表5.4.1][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16						※25								
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※25	[5.4.2][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※50								
			・アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5]															
4章-5 仕上塗り仕上げ外壁改修工事																			
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 工法 処理範囲 ひび割れ部等の補修 ※サンダー工法 ※既存仕上げ面全体 ・ ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 浮き部改修工法 ・塗膜はく離剥工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体	[4.5.4][4.5.4~7]				7	鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による ・適用する (適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性										
			改修工法の種類	7ヶパシンの本数 (本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )				充填量 又は注入量 (ml/箇所)									
				一般部	指定部	一般部					指定部								
			・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25						※25	[5.4.2][表5.4.1]							
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※25								
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※50	[5.4.2][5.6.2][表5.4.1][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16						※25								
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※25	[5.4.2][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※50								
			・アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5]															
4章-5 仕上塗り仕上げ外壁改修工事																			
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 工法 処理範囲 ひび割れ部等の補修 ※サンダー工法 ※既存仕上げ面全体 ・ ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 浮き部改修工法 ・塗膜はく離剥工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体	[4.5.4][4.5.4~7]				7	鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による ・適用する (適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性										
			改修工法の種類	7ヶパシンの本数 (本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )				充填量 又は注入量 (ml/箇所)									
				一般部	指定部	一般部					指定部								
			・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25						※25	[5.4.2][表5.4.1]							
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※25								
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※50	[5.4.2][5.6.2][表5.4.1][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16						※25								
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※25	[5.4.2][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※50								
			・アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5]															
4章-5 仕上塗り仕上げ外壁改修工事																			
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 工法 処理範囲 ひび割れ部等の補修 ※サンダー工法 ※既存仕上げ面全体 ・ ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 浮き部改修工法 ・塗膜はく離剥工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体	[4.5.4][4.5.4~7]				7	鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による ・適用する (適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性										
			改修工法の種類	7ヶパシンの本数 (本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )				充填量 又は注入量 (ml/箇所)									
				一般部	指定部	一般部					指定部								
			・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25						※25	[5.4.2][表5.4.1]							
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※25								
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※50	[5.4.2][5.6.2][表5.4.1][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16						※25								
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※25	[5.4.2][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※50								
			・アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5]															
4章-5 仕上塗り仕上げ外壁改修工事																			
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 工法 処理範囲 ひび割れ部等の補修 ※サンダー工法 ※既存仕上げ面全体 ・ ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 浮き部改修工法 ・塗膜はく離剥工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体	[4.5.4][4.5.4~7]				7	鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による ・適用する (適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性										
			改修工法の種類	7ヶパシンの本数 (本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )				充填量 又は注入量 (ml/箇所)									
				一般部	指定部	一般部					指定部								
			・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25						※25	[5.4.2][表5.4.1]							
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※25								
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※50	[5.4.2][5.6.2][表5.4.1][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16						※25								
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※25	[5.4.2][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※50								
			・アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5]															
4章-5 仕上塗り仕上げ外壁改修工事																			
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 工法 処理範囲 ひび割れ部等の補修 ※サンダー工法 ※既存仕上げ面全体 ・ ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 浮き部改修工法 ・塗膜はく離剥工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体	[4.5.4][4.5.4~7]				7	鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による ・適用する (適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性										
			改修工法の種類	7ヶパシンの本数 (本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )				充填量 又は注入量 (ml/箇所)									
				一般部	指定部	一般部					指定部								
			・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25						※25	[5.4.2][表5.4.1]							
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※25								
			・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12				※20	※50	[5.4.2][5.6.2][表5.4.1][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16						※25								
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※25	[5.4.2][表5.2.1]							
			・注入口付7ヶパシンの全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9				※16	※50								
			・アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5]															
4章-5 仕上塗り仕上げ外壁改修工事																			
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 工法 処理範囲 ひび割れ部等の補修 ※サンダー工法 ※既存仕上げ面全体 ・ ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 浮き部改修工法 ・塗膜はく離剥工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体																	



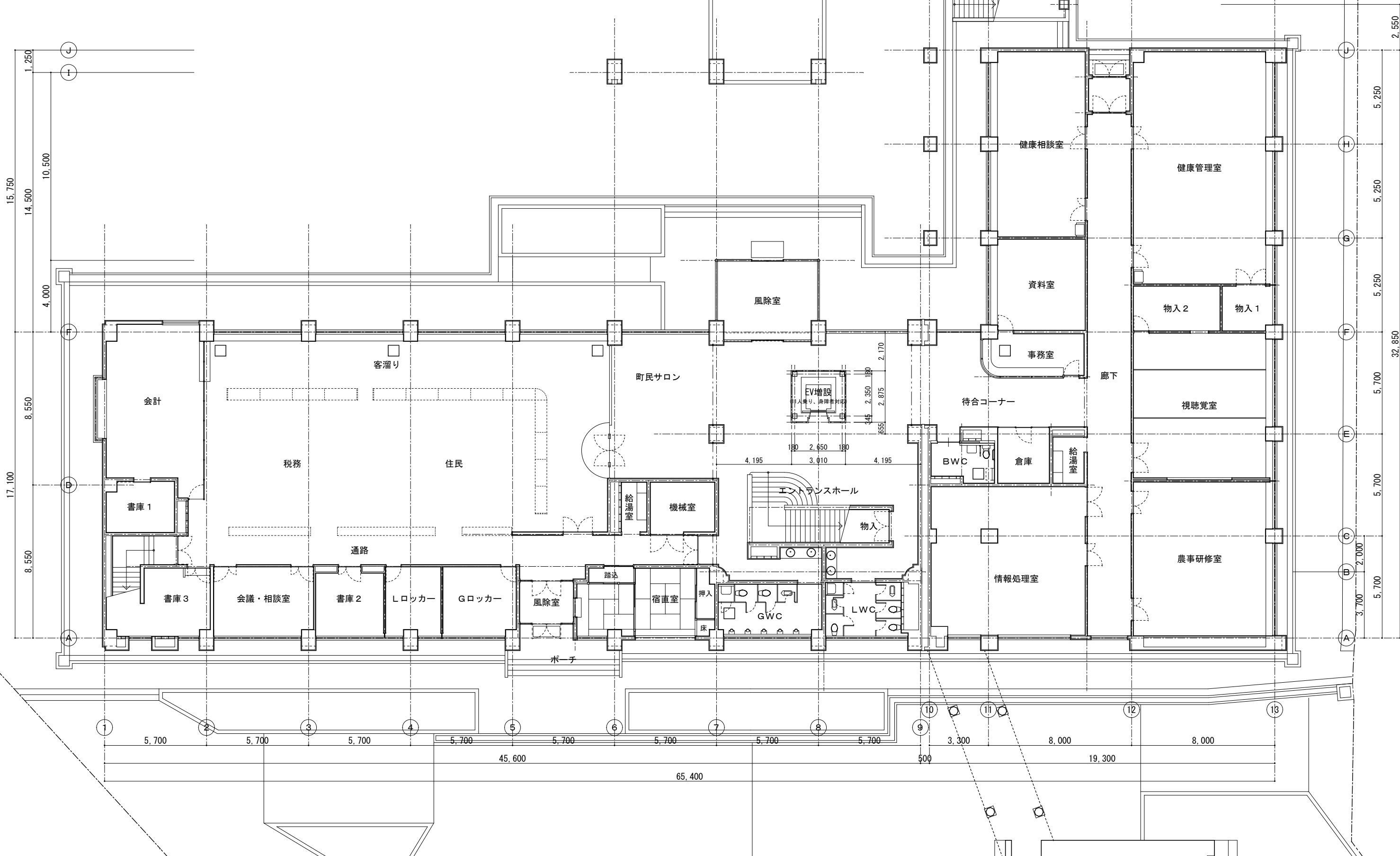
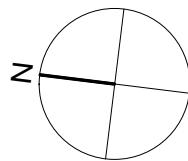
[illegible]

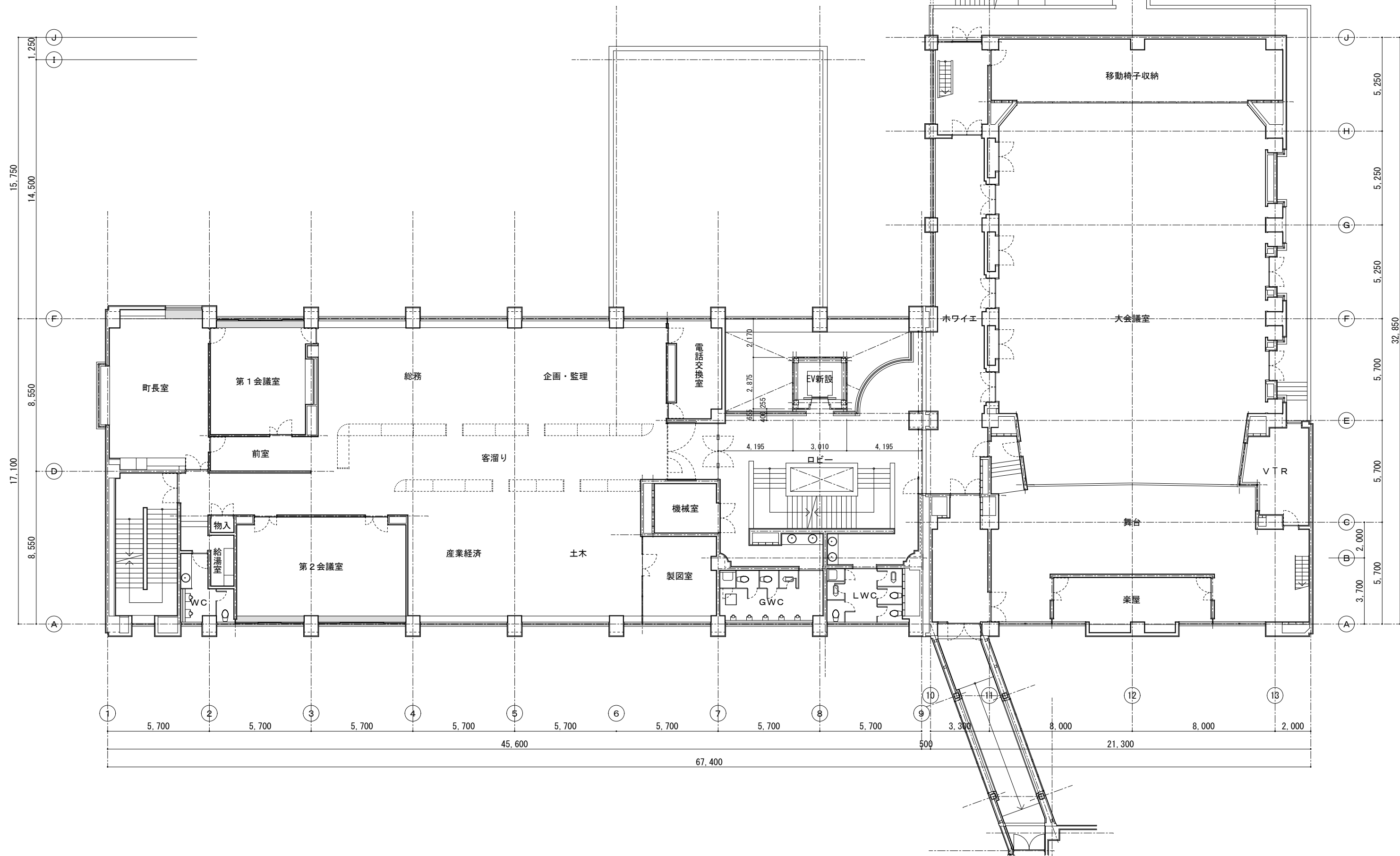
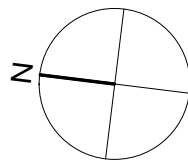


付近見取図

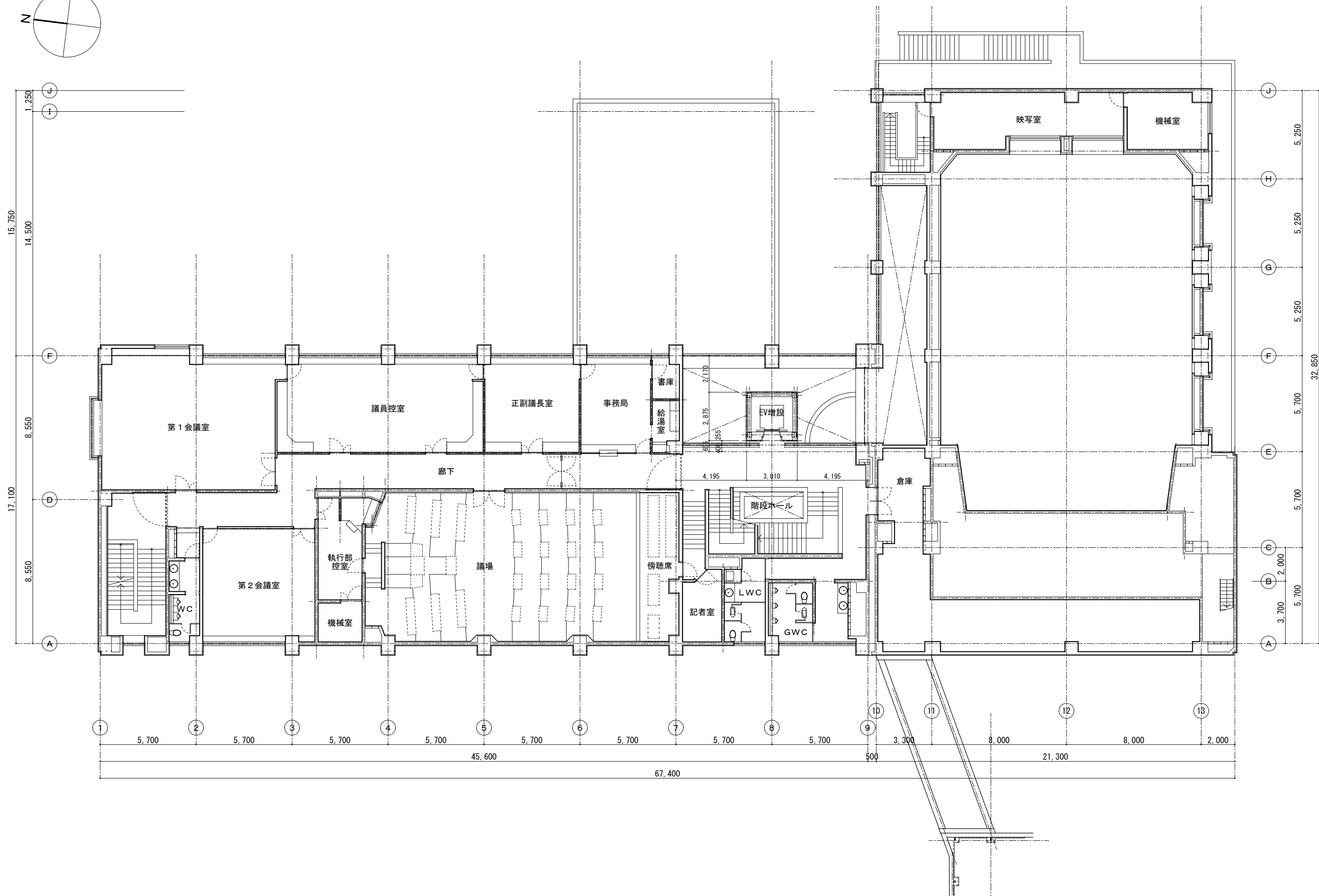
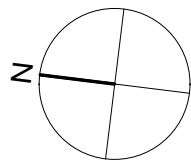


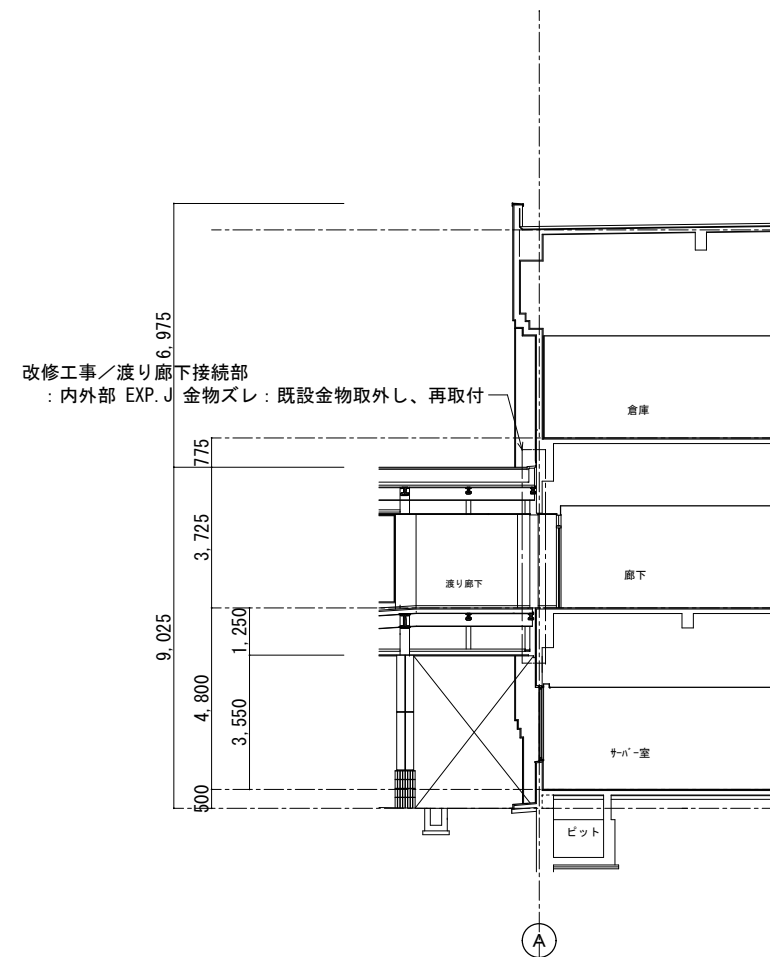
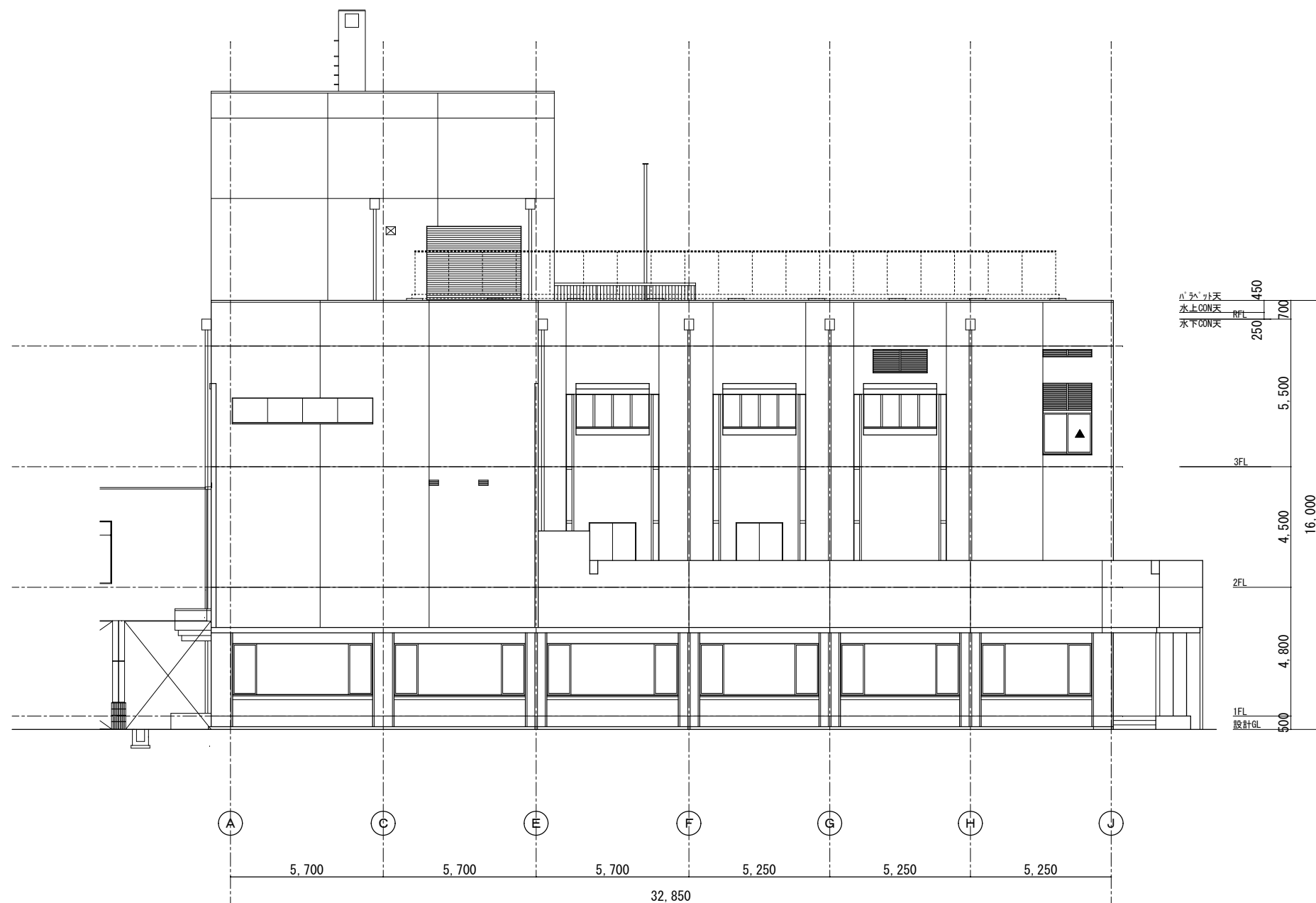
◆ 特記事項 ◆				◆ 耐火・防火材料 ◆																				
・ 内部使用建材（下地、接着剤共）：全てF☆☆☆☆品とする。 ・ 天井下地は全て鋼製とし、天井内高さが屋外H≧1,000、屋内H≧1,500となる場合は、水平補強及びブレースにて振れ止めを設置のこと。 ・ 設備工事に関わる下地補強や開口補強は、建築工事で対応すること。				・ ビニールクロスの等級はA A級とする。（塗装クロスは除く） ・ カーペット・カーテン等は防災加工品とする。 ・ 天井点検口：450角 アルミ製とし、特記なき限り目地タイプとする。 ・ 室内の土に接する床スラブ下及び土間下： t 0.15 防湿ポリエチレンフィルム敷、t 30 ポリスチレンボード敷とする。				GB-R GB-S GB-D GB-NC		NM-8619/QM-9828 NM-9639/QM-9826 NM-0441/QM-9824 NM-0441		岩綿吸音板（t 9.0 以上） FK（t 6.0 以上） GW 化粧GW吸音板		NM-8599 NM-8578 NM-8604 NM-8610		ビニールクロス カラーガルバリウム鋼板 EP、SOP塗装		NM-0391-0846/QM-9405～9449 NM-8697 基材同等品		床 1時間耐火：デッキスラブ 、山上 t 90 コンクリート 外壁1時間耐火： ：押出成型中空セメント板 t 60		FP060FL-9095  FP060NE-9037		
◆ 内部仕上表 ◆																								
階	室 名		床			巾 木		壁		天 井		廻 縁	天井高	カーテン類 BOX	カーテン ブラインド	室名札	備 考							
			下 地	仕 上	FL	仕 上	H	下 地	仕 上	下 地	仕 上													
1 階	エントランス ホール	既設	コンクリートスラブ、モルタル塗 →一部撤去	珪器質タイル貼 →一部撤去	±0			モルタル塗 →一部撤去	珪器質タイル貼 →一部撤去	LGS下地、t 9.0 GB-R捨貼 →一部撤去	t 15.0 立体成形岩綿吸音板貼 、ポーター：t 9.0 岩綿吸音板貼 →一部撤去	ビニール	12,000				アルミサッシ →一部撤去							
		改修	撤去部：コンクリートスラブ打設 、モルタル塗	t 3.0 ホモジニアスタイル貼	↑	EVシャフト ：t 1.5 ステンレス成形 、HL仕上	100	EVシャフト ：t 60 ECP縦貼 （一部デザインパネル）	EP塗	LGS下地（吊ボルト～既設利用） 、t 9.5 GB-NC捨貼	t 15.0 立体成形岩綿吸音板貼 、ポーター：t 9.0 岩綿吸音板貼	↑	↑				アルミサッシ：カバー工法新設							
	町民サロン	既設	モルタル塗	珪器質タイル貼 →撤去	-150			モルタル塗		LGS下地、t 9.0 GB-R貼	t 15.0 立体成形岩綿吸音板貼 、ポーター：t 9.0 岩綿吸音板貼	ビニール	1FL+3,100				上框：御影石 →一部撤去							
		改修	下地調整 、t 50 ポリスチレンフォーム敷 、H80 嵩上げコンクリート 、モルタル塗	t 3.0 ホモジニアスタイル貼	±0			↑	↑	↑	↑	↑	↑											
	BWC	既設	モルタル塗 通路：モルタル塗	t 2.8 ビニルシート貼 →撤去 通路：珪器質タイル貼 →一部撤去	±0	ビニール巾木 →撤去	100	モルタル塗	EP塗 →撤去	LGS下地→撤去 通路：LGS下地 →一部撤去 、t 9.0 GB-R貼 →一部撤去	t 5.0 FK目透貼、VP塗 →撤去 通路：t 9.0 岩綿吸音板貼 →一部撤去	ビニール→撤去	2,500 通路：2,700				戸袋付き片引戸・下りRC壁 →撤去							
		改修	下地調整	t 2.5 ビニルシート貼	↑	ビニール巾木	100	下地調整、一部LGS下地 、t 12.5 GB-S貼 、t 12.5+12.5 GB-S貼	ビニールクロス貼 t 3.0 メラミン不燃化粧板貼	LGS下地（吊ボルト～既設利用） 、t 9.5 GB-NC捨貼	t 9.0 岩綿吸音板貼	ビニール	2,500				ライニング壁：t 3.0 メラミン不燃化粧板貼 ライニング天板：W120×t 20 ポストフォーム（先端R付き） 衛生器具・手摺：取外し、再取付（機械設備工事）							
2 階	階段ホール	既設	モルタル塗	t 2.8 ビニルシート貼	±0	タイル貼	200	モルタル塗	珪器質タイル貼	LGS下地、t 9.0 GB-R捨貼	t 15.0 立体成形岩綿吸音板貼 、ポーター：t 9.0 岩綿吸音板貼	ビニール	2,700				吹抜け手摺：トップ～60×60 ステンレス、t 10.0 自立式強化ガラス →撤去 手摺脚部：W260×H200 タイル貼 →撤去							
		改修	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑				吹抜け手摺：トップ・支柱～100×50 ステンレスHL仕上 、四方ガラス留め～25×25 ステンレスHL仕上、t 6.0 強化ガラス 手摺脚部：W260×H100 花崗岩本磨き							
	町長室	既設	モルタル塗	t 8.0 フェルト敷、絨毯敷 →撤去	±0	堅木縁付、CL塗	100	LGS下地、t 12.0 GB-R貼 t 12.0 GB-R直貼	天然木縁付合板貼、CL塗	LGS下地、t 9.0 GB-R貼	ビニールクロス貼→撤去	ビニール	2,700											
		改修	薄塗モルタル塗	t 6.0 アンダーレイシート貼 、t 6.5 タイルカーベット貼	↑	CL塗替え	↑	↑	CL塗替え	↑	ビニールクロス貼	↑	↑											
3 階	階段ホール	既設	モルタル塗	t 2.8 ビニルシート貼	±0	タイル貼	200	モルタル塗	珪器質タイル貼	LGS下地、t 9.0 GB-R捨貼	t 15.0 立体成形岩綿吸音板貼 、ポーター：t 9.0 岩綿吸音板貼	ビニール	2,700				吹抜け手摺：トップ～60×60 ステンレス、t 10.0 自立式強化ガラス →撤去 手摺脚部：W260×H200 タイル貼 →撤去							
		改修	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑				吹抜け手摺：トップ・支柱～100×50 ステンレスHL仕上 、四方ガラス留め～25×25 ステンレスHL仕上、t 6.0 強化ガラス 手摺脚部：W260×H100 花崗岩本磨き							
◆ 床面積表 ◆				◆ 建具表 ◆																				
	既設庁舎	EV増設	合 計	符号・種類	AD 01	片開き・片引き・FIX戸 →枠以外撤去	見込 100	AD 01	両袖片開き戸・FIX窓	見込 100	LSD 01	片引きハンガー戸 →撤去	枠見込 220 扉見込 40	LSD 01	片引きハンガー戸	枠見込 135 扉見込 40								
1 階	1,386.15 m <sup>2</sup>		1,386.15 m <sup>2</sup>	数・場所	1	1階エントランスホール		1	1階エントランスホール		1	1階BWC		1	1階BWC									
2 階	1,396.00 m <sup>2</sup>	9.42 m <sup>2</sup>	1,405.42 m <sup>2</sup>	材料	アルミ	アルミ					枠：t 1.6 スチール、扉：t 0.8 スチール、芯材：ペーパーハニカム					枠：t 1.6 スチール、扉：t 0.8 スチール、芯材：ペーパーハニカム								
				仕上	電解着色	電解着色：既存合わせ					焼付塗装					SOP塗								
3 階	779.83 m <sup>2</sup>	9.42 m <sup>2</sup>	789.25 m <sup>2</sup>	金物	付属金物	丁番、レバーハンドル錠、ドアチェック					付属金物					自閉式吊戸装置、シリンダー表示錠錠、全開時ストッパー、引手（L600 樹脂製）								
				硝子	熱線吸収ガラス ランマ：t 3.0・t 5.0、戸：t 8.0、FIX：t 10.0	強化ガラス ランマ：t 5.0、戸・FIX：t 8.0					t 4.0 型ガラス（150×600）					F 4.0（120×1,800）								
PH階	134.27 m <sup>2</sup>		134.27 m <sup>2</sup>	備考		カバー工法																		
合計	3,696.25 m <sup>2</sup>	18.84 m <sup>2</sup>	3,715.09 m <sup>2</sup>																					
EV増設 求積図 （2、3階共通）  3,010 3,130				姿図																				
◆ 建築面積表 ◆																								
EV増設／内部 → 既設のまま			1,696.59 m <sup>2</sup>																					
JOB NO. 124337	2025 年 月	宝達志水町役場庁舎改修工事										設計	・	・	標準	仕上表・面積表・建具表			縮尺	A1:1/50 A3:1/100	図番	A-06		

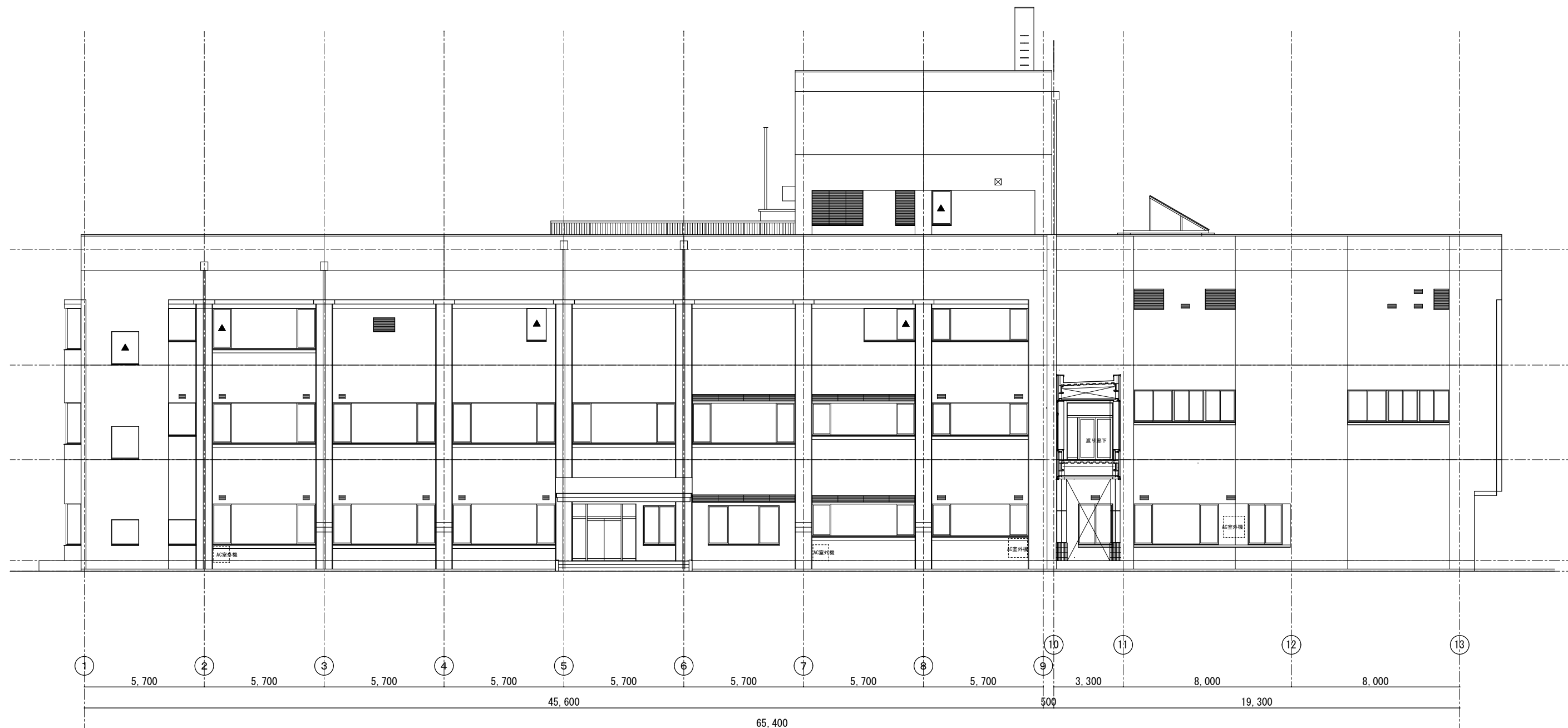


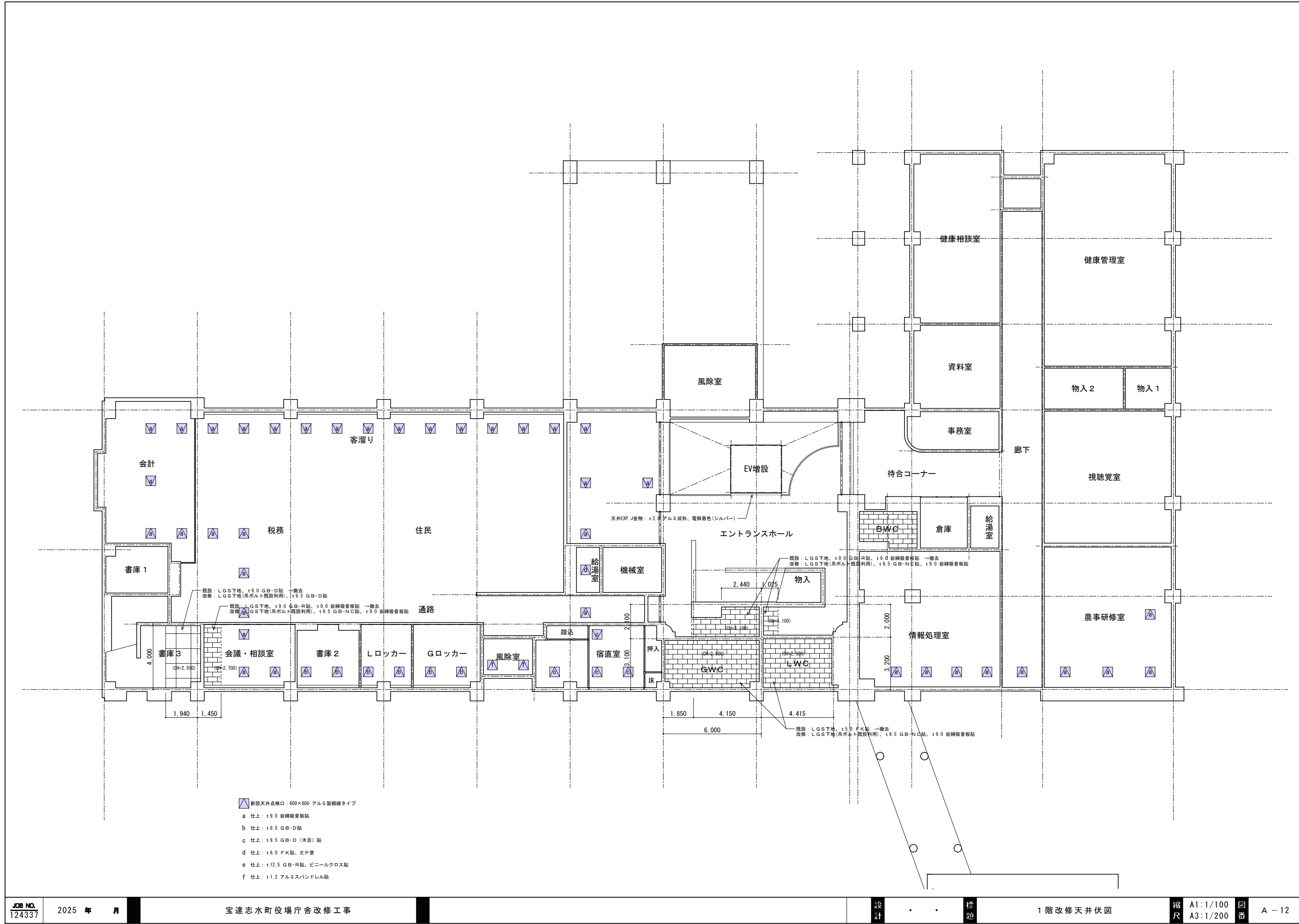


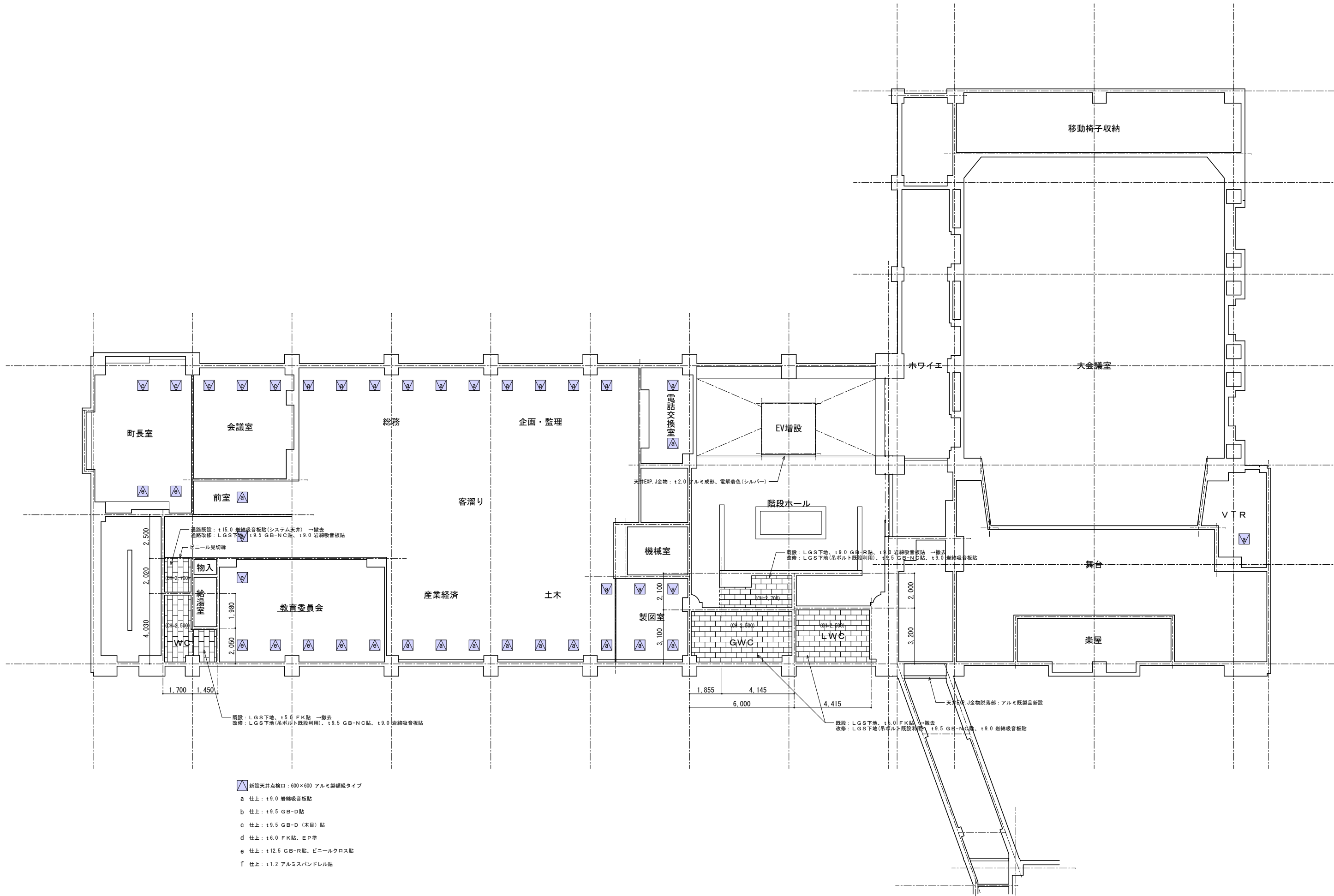










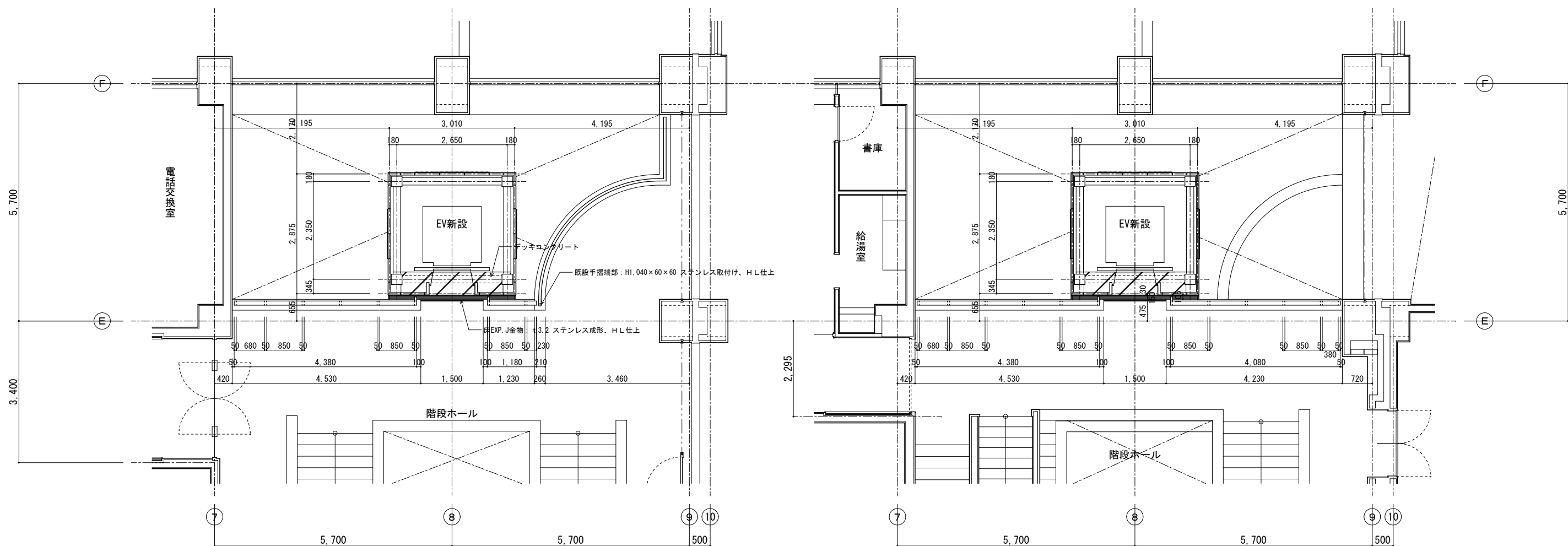
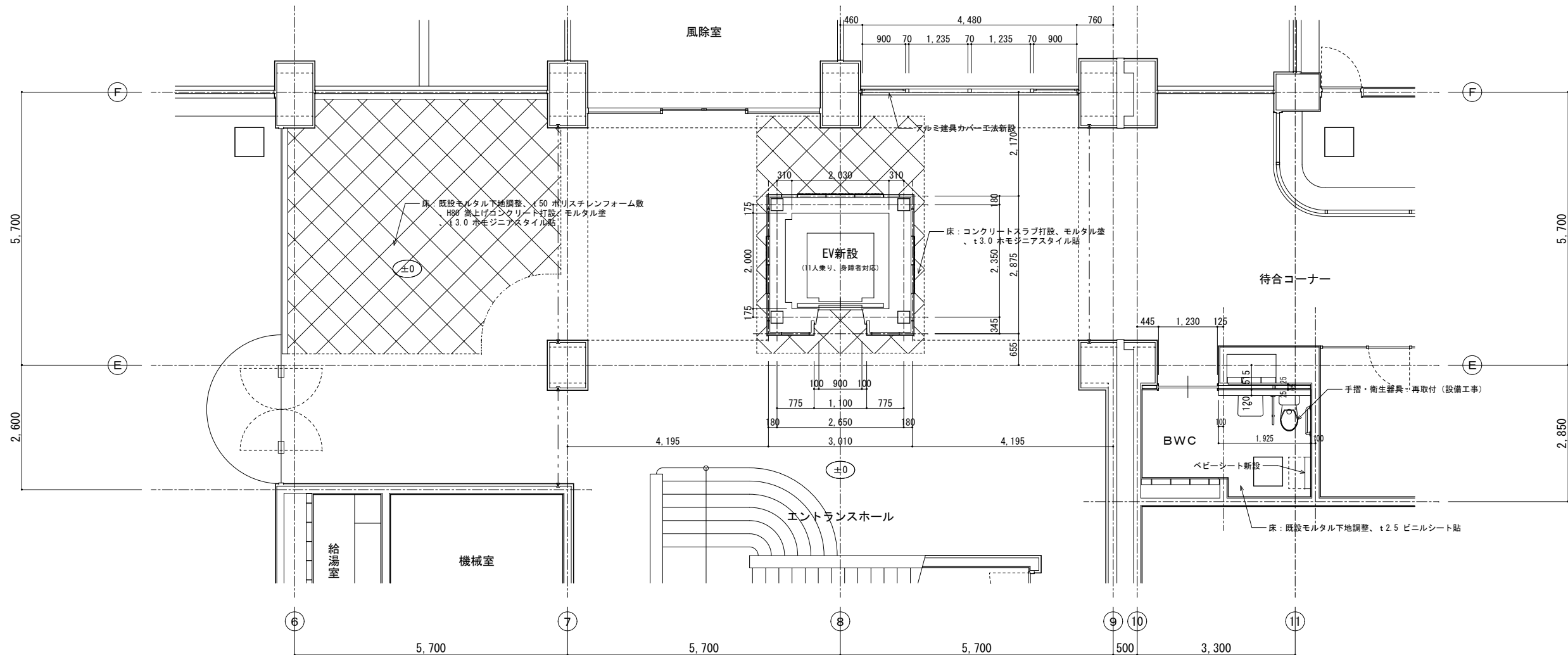


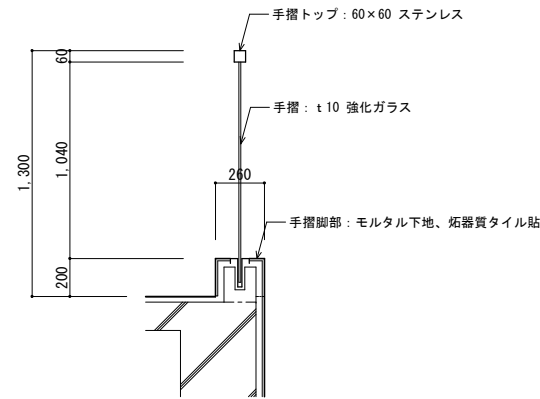




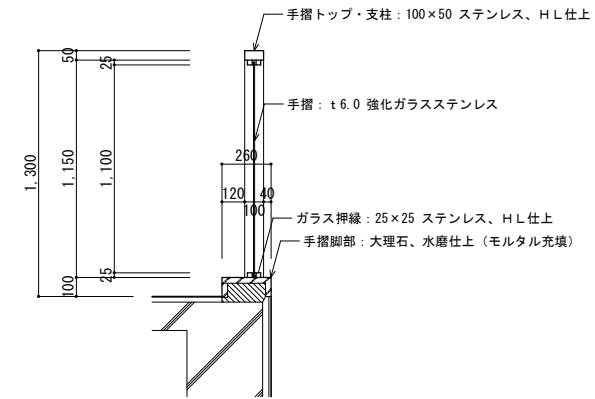




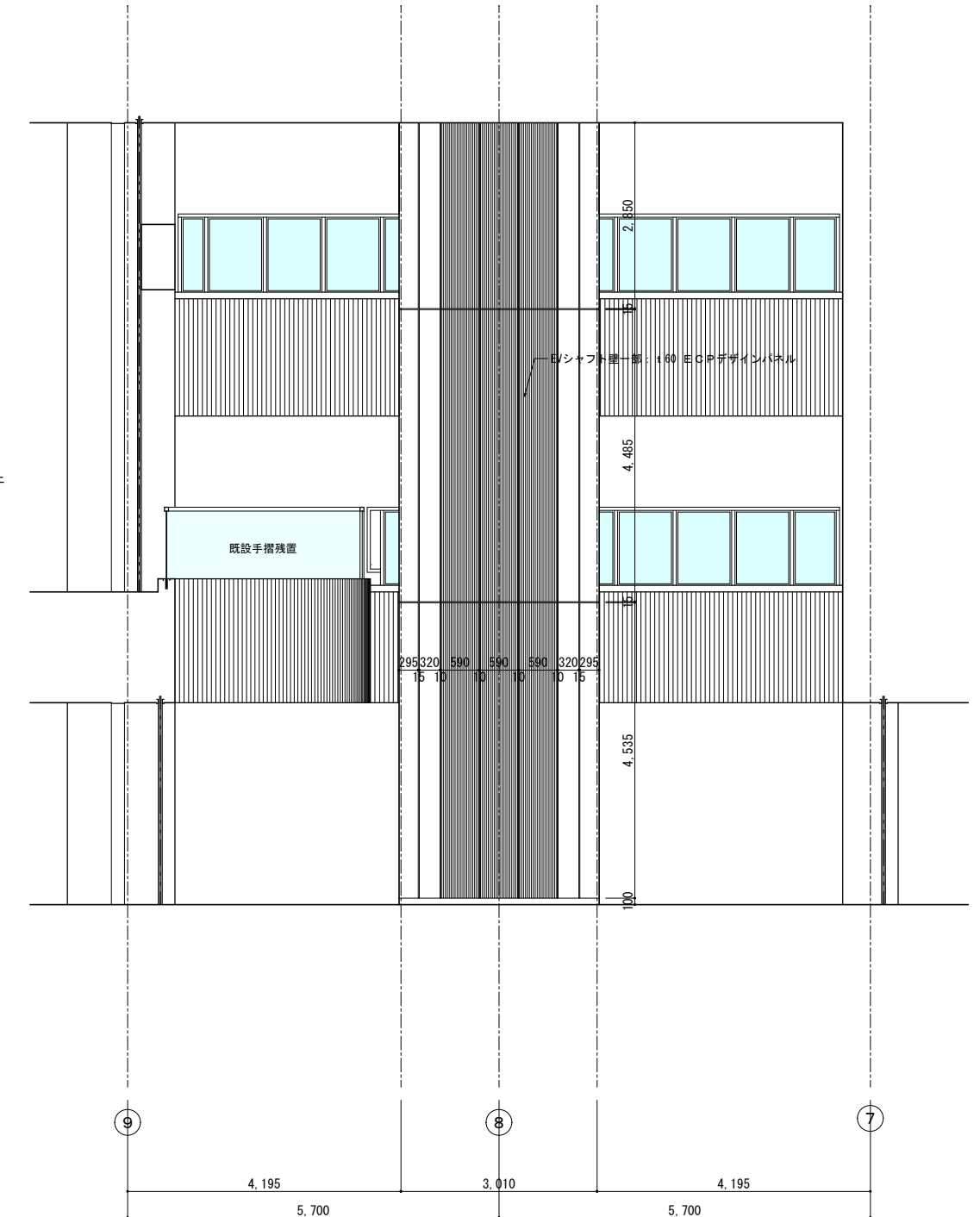
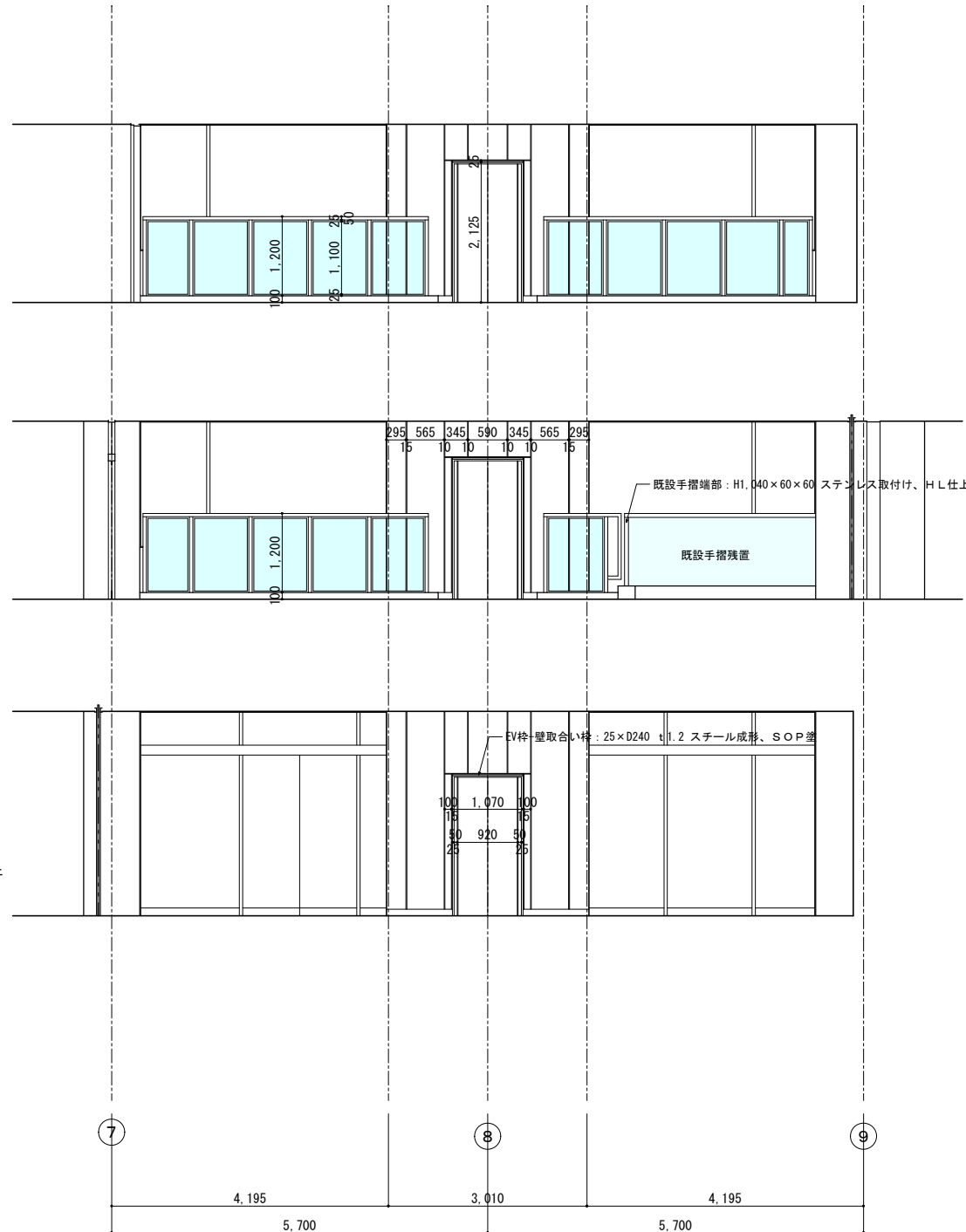
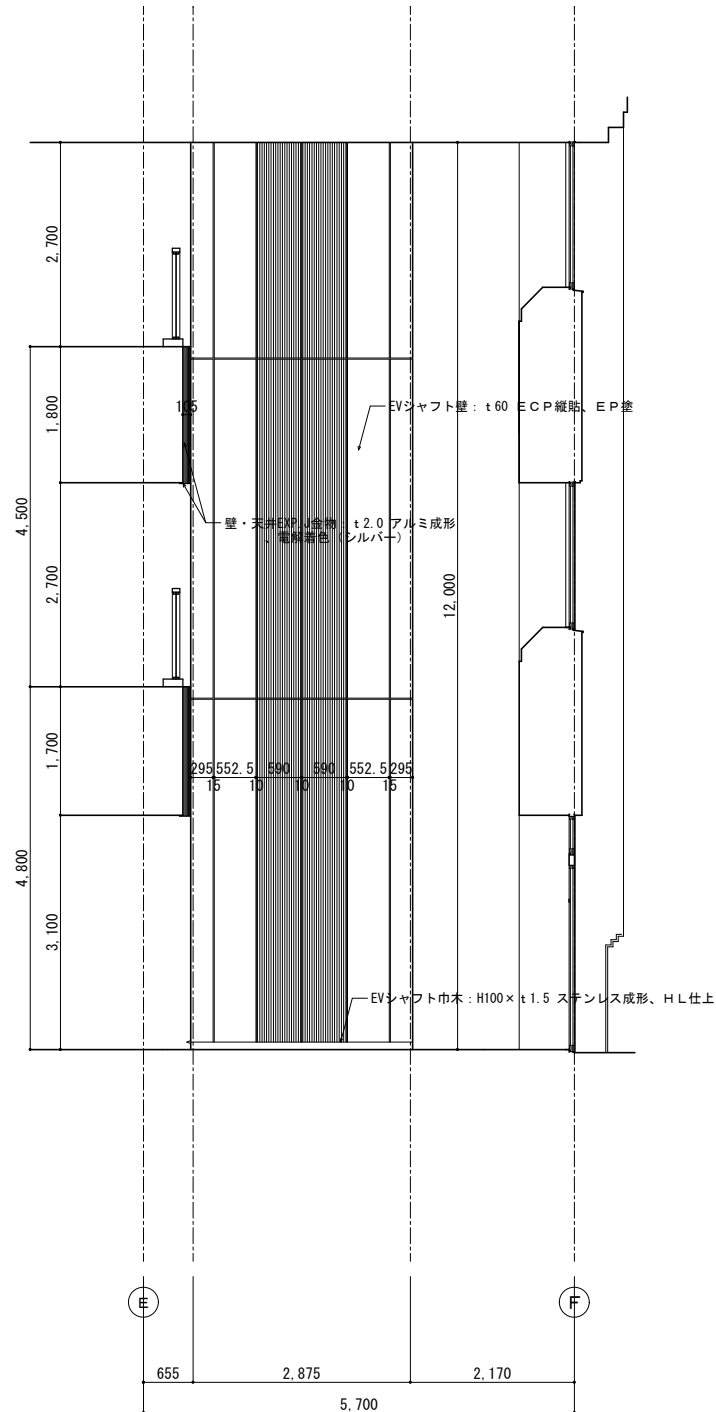




既設手摺詳細図 S=1/20

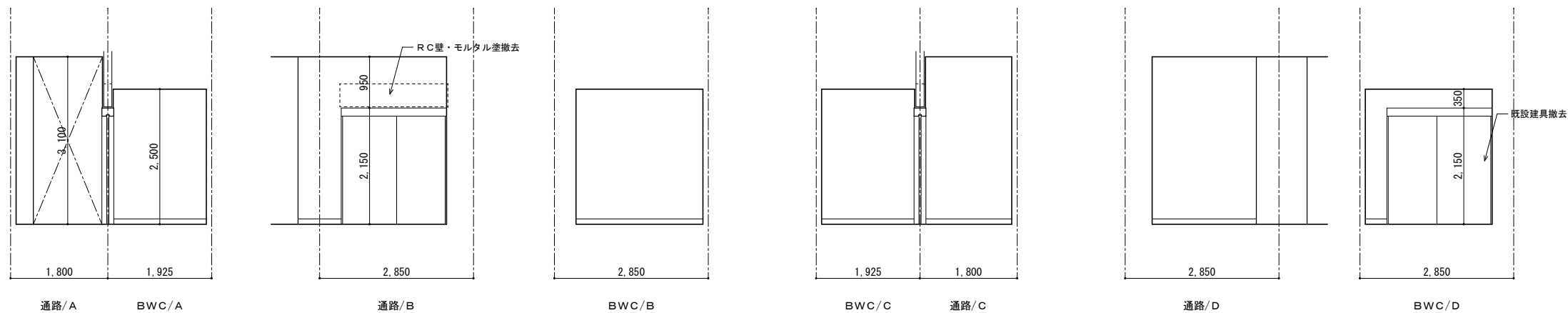


改修手摺詳細図 S=1/20

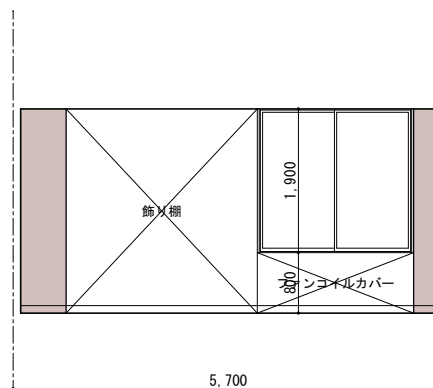
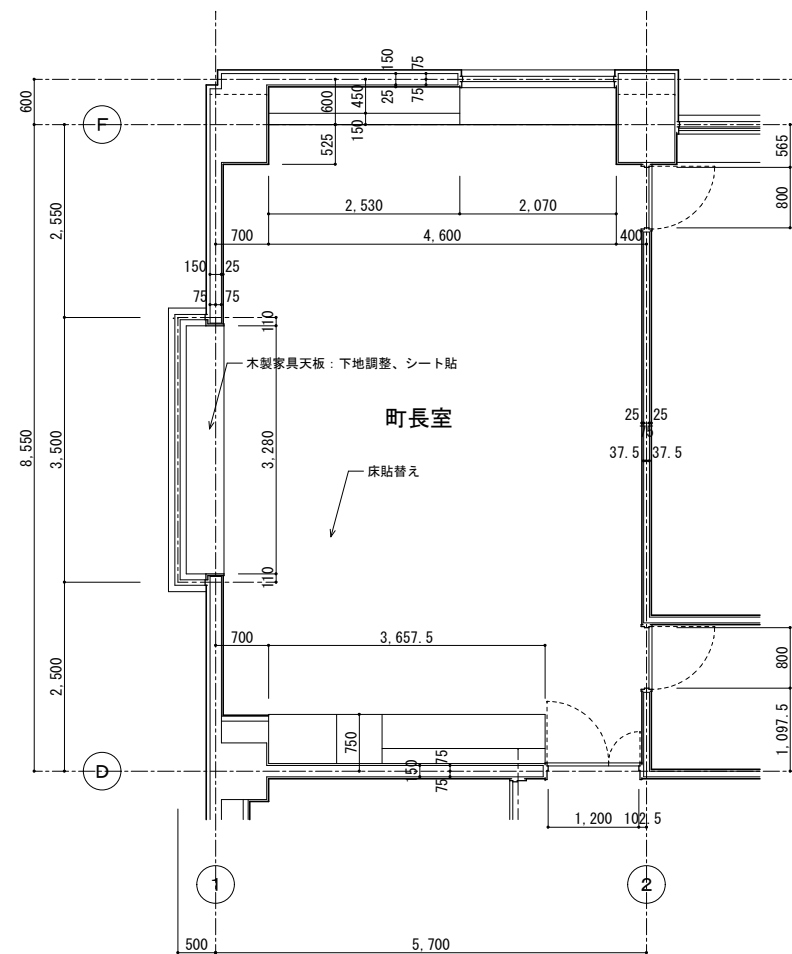
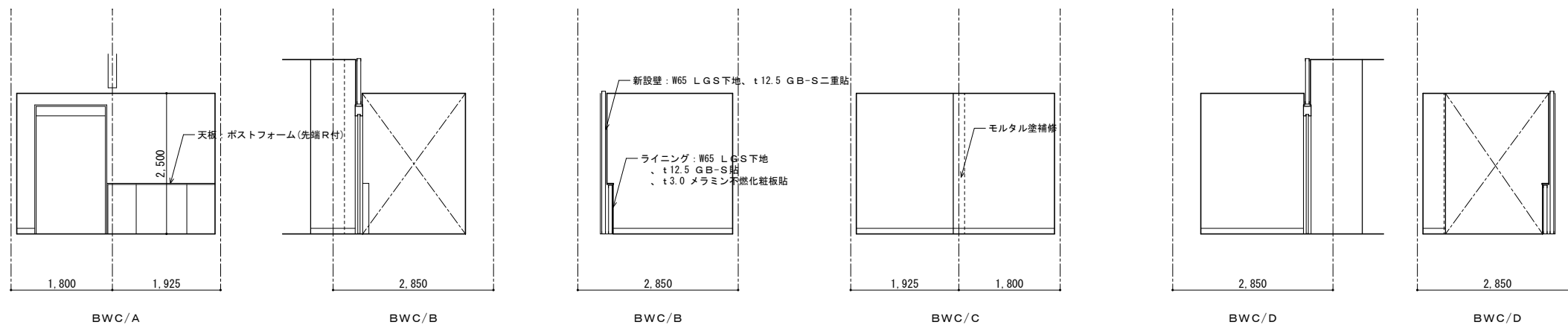




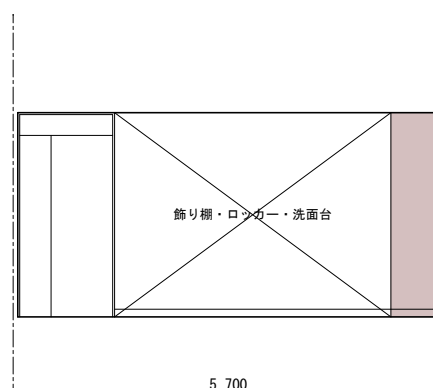
既設／通路・BWC



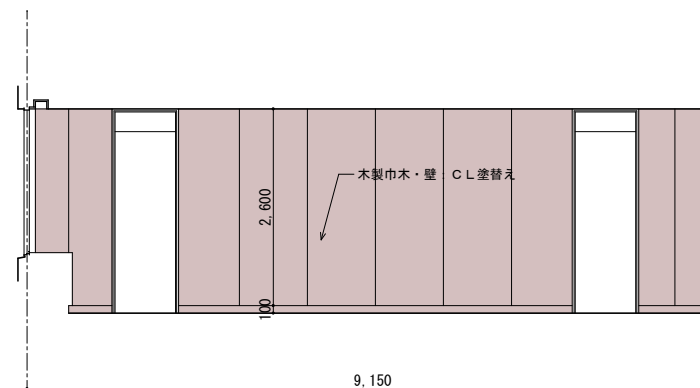
改修／BWC



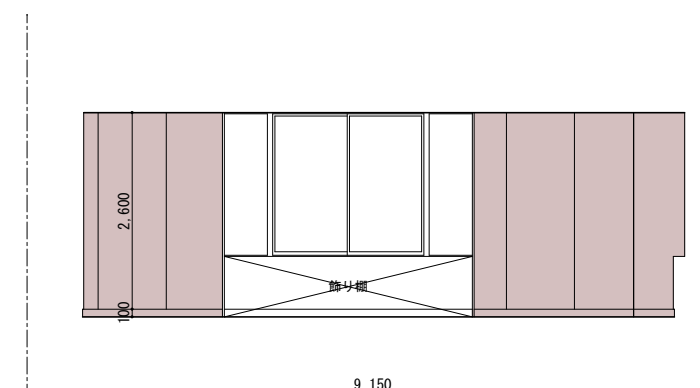
A



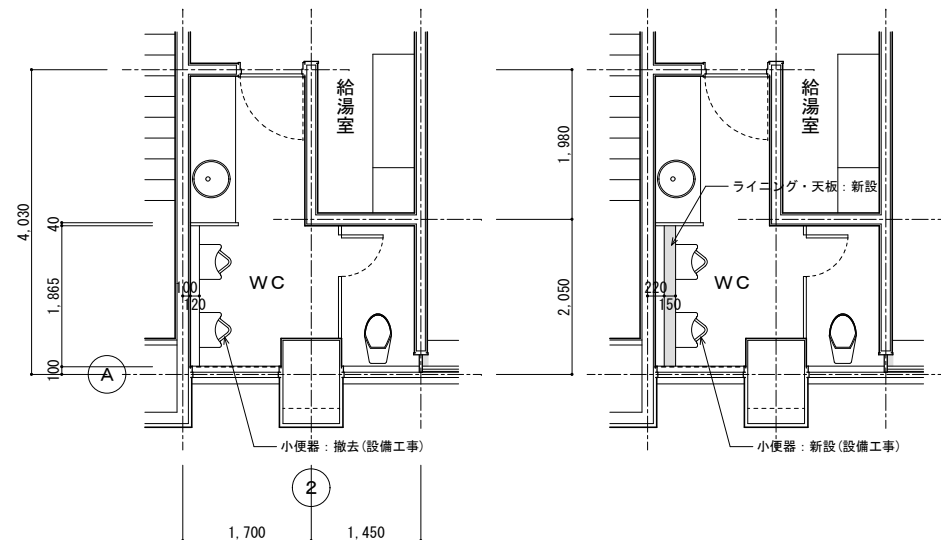
C



B

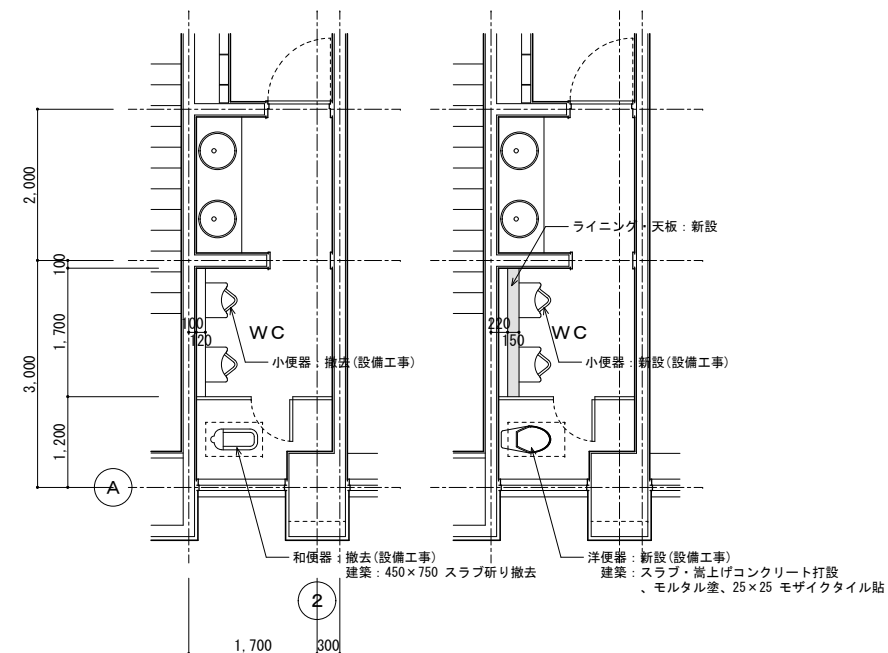


D



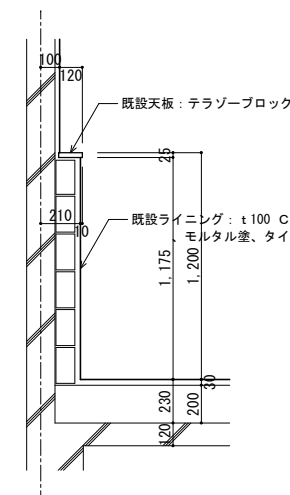
既設2階北側WC

改修2階北側WC

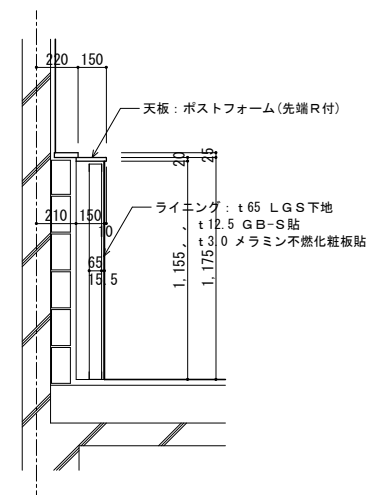


既設3階北側WC

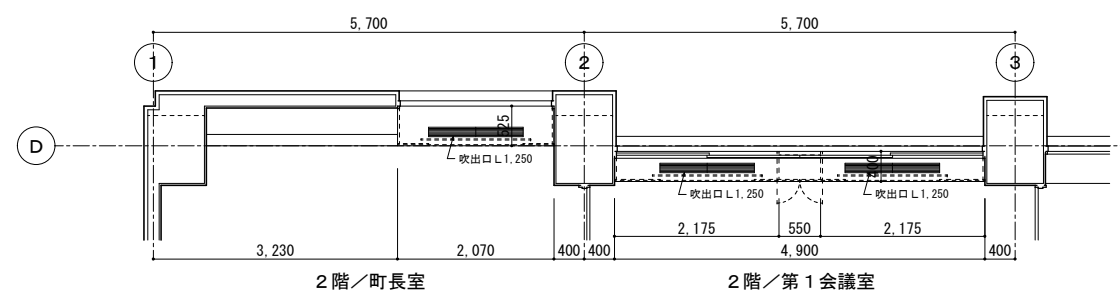
改修3階北側WC



既設WCライニング詳細図 S=1/20

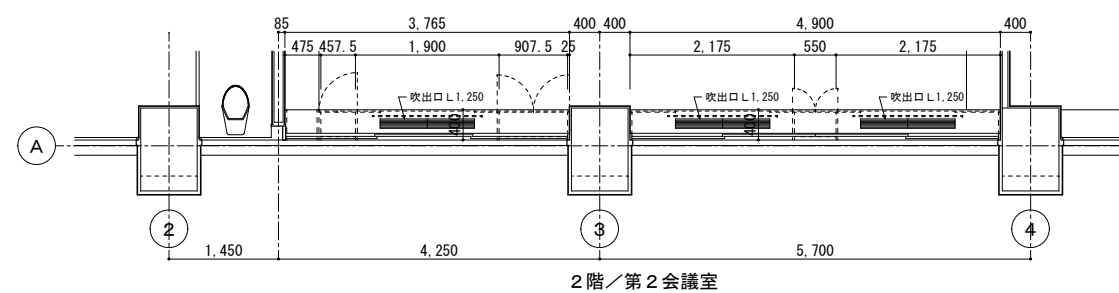


改修WCライニング詳細図 S=1/20

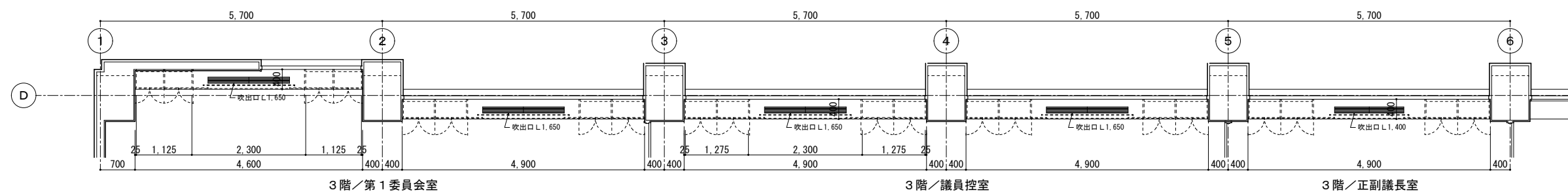


2階/町長室

2階/第1会議室



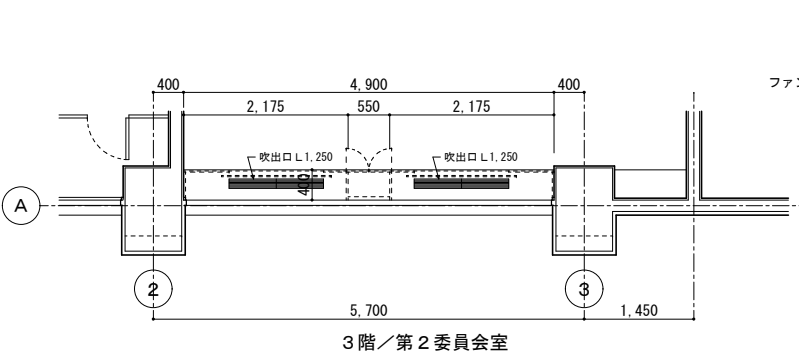
2階/第2会議室



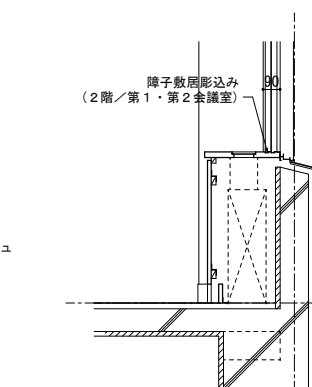
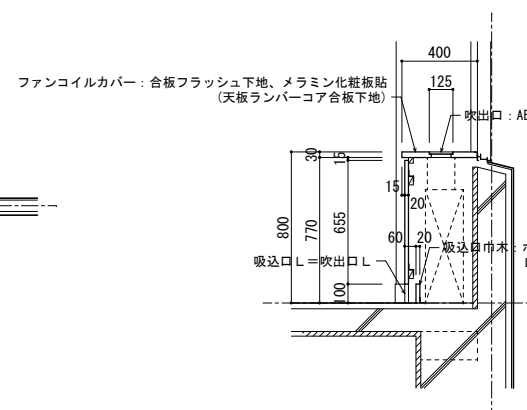
3階/第1委員会室

3階/議員控室

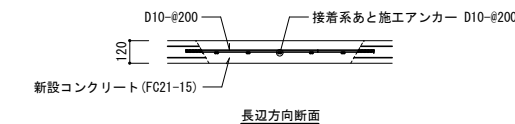
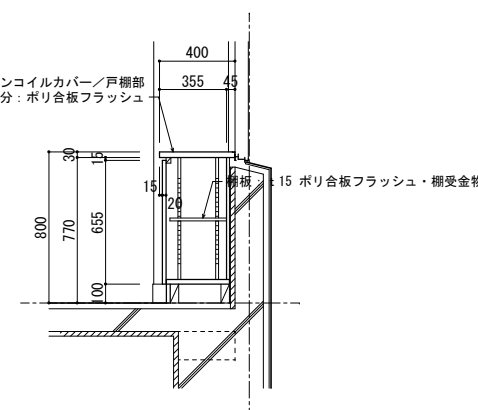
3階/正副議長室



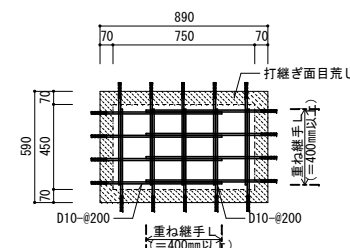
3階/第2委員会室



木製ファンコイルカバー改修詳細図 S=1/20: 既設(戸棚なし)撤去

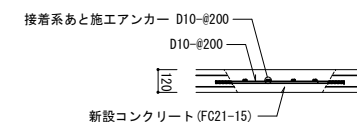


長辺方向断面



配筋詳細図 1/20

※スラブ打ち継ぎ断面は60度勾配をつけ施工することとする。



短辺方向断面

接着系あと施工アンカー仕様		
接着系あと施工アンカー		
(長辺) D10: 突出長 610mm	横向	有効埋込み長
(短辺) D10: 突出長 460mm	8	70mm以上
	10	70mm以上

仕 様 一 覧												
		号 機		—		三方弁		全備	大枠 ステンレスヘアライン仕上			
		用 途		乗用（車いす仕様）		基 板						
		機 種		X10R（エクシオール／機械室レス）X10Z								
		制御方式		インバータ制御方式（電力回生無し）		扉		全備	鋼板塗装仕上			
		運転操作方式		乗合全自動方式		煙煙乗場ドア		●：1-3階				
		積 載		750	k g	11	防犯窓	—				
		速 度		60	m / m i n		数 居	全備	硬質アルミ製			
		動力用電源		三相3線	200	V	60	H z				
		照明用電源		単相	100	V	60	H z				
		巻上電動機		4.6		k W						
		停止階及び数		(正面)	1-3	階	3	箇所	表示機器	全備	液晶表示（温度度表示付）／押ボタン組込	
				(背面)	階		箇所		押ボタン	全備	35φ抗菌樹脂ボタン／非接触呼登録（一体型）	
		かご内法		(開口)	1400	mm	(奥行)	1350	mm	(高さ)	2250	mm
		出入口寸法		(開口)	900	mm	(高さ)		2100	mm		
		戸の方式		2枚 両引き（電動式）								
		おもり		50	kg		フェースプレート	全備	樹脂製			
		荷重条件		※1	250	kg以下						
管 制 運 転	地震時管制運転		●：（P・S波）リスタート運転機能付									
	火災時管制運転		●									
	停電時自動着床		●									
	冠水時管制運転		●									
	自家発電時管制運転		—									
	緊急地震速報運動		—									
セーフティ機能	長期期地震時管制運転		—									
	カードポケットセンサー		—									
	光電式ドアニク		—									
	光電式多光軸ドアセンサー		●									
ユニバーサルデザイン	ドアエッジセンサー		—									
	ドアウインカー		—									
社 対 応	車いす仕様		●									
	音声案内装置		●：四ヶ国語対応（通常時：日英、緊急時：日英中韓）									
	視覚障がい者仕様（点字）		●									
	聴覚障がい者仕様		●									
	(応答付インターホン呼びボタン)		●									
	発音機能付タクトイルボタン		●									
特 記 仕 様	走行お知らせ音		●									
	数居間隔 10mm		●									
	kirlon 非接触ボタン（一般用主操作盤、車いす用操作盤、インジケータ非ボタン）		抗菌仕様ボタン（乗場／かご）									
	絶縁トランス盤		インターホンボックス									
高調波対策	かごドア両側セーフティ付		先行先キャンセル機能									
	放送用スピーカー		—									
	監視盤		—									
	EMIフィルタ 電相リアクトル（標準）		—（回路分類NO. 31 換算係数Ki＝3.4）									
高調波対策	標準＋ACリアクトル		—（回路分類NO. 32 換算係数Ki＝1.8）									
	標準＋DCリアクトル		●（回路分類NO. 33 換算係数Ki＝1.8）									
	標準＋AC・DCリアクトル		—（回路分類NO. 34 換算係数Ki＝1.4）									

※昇降路内温度の制約

下記いずれかの場合は、「換気上有効な開口部、換気設備又は空気調和設備」を設ける必要があります。	
・昇降路内温度が40℃を超える場合 （エレベータ機器の発熱や昇降路外からの入射熱等による）	
・エレベータ機器発熱量による昇降路内温度上昇が7℃を超える場合	
エレベータ機器発熱量 (かご閉止時)＝	582 W
エレベータ機器発熱量による 昇降路内温度上昇	7℃以下

※エレベータ機器の発熱や昇降路外からの入射熱等により、  
昇降路内温度が40℃を超えないかご確認ください。

基本仕様
最寄階放出運転
戸開き不能時放出運転
乗り過ぎ検出（警報ブザー及び音声案内）
各階強制停止運転（各停運転）
昇降機耐震設計・施工指針（2016年版）対応
戸開走行保護装置
イオンフル（プラスマクラスター技術搭載/シャープ（株）商標）
耐震クラス（ A14）

エコロジー機能
かご天井 LED照明（液晶インジケータのバックライトもLED化）
シックハウス対策（法令（建築）に基づいたシックハウス対策に対応）
かご照明の自動休止

NEWゴールドメンテナンス契約により有効となる機能
地震管制後の自動診断・恢復后運転
メンテナンス用カメラによる、遠隔映像監視・遠隔閉込退出対応
24時間リモート点検
建売障がい者仕様、応答液晶表示（仕様が付加された場合、契約に関わらず有効）

※1 4輪手押し台車等で荷物を積み込む場合は、台車の重量を含んで、 荷重条件以下に付けて積み込みください。

車いす仕様	
乗 場	車いす専用乗場ボタン
かご内室	車いす専用かご主制御装置（主側のみインジケータ付） 段 手すり
セーフティ機能	戸開放時間の延長 戸閉速度の低減 自動着床修正装置 光電式多光軸ドアセンサー

遮煙エレベータ乗場ドア
認定番号 CAS-0599（国住指第4106号）
1~3 階 乗場ドアは、上記認定品とする。
認定条件通り 停電時自動着床装置と火災管制運転（自動）を合わせて設置しております。

遮煙エレベータ乗場ドア設置上の注意事項
・遮煙エレベータ乗場ドア設置条件として、建物の火災感知信号をエレベータ制御盤へ供給いただく必要があります。
・建物側で自動火災報知設備の設置義務が無い場合においても、 遮煙エレベータ乗場ドア設置階のエレベータホールに煙感知器などの火災感知器を設置の上 火災感知信号をエレベータ制御盤へ供給願います。

エレベータ除外工事

建築工事
1. 昇降路の築造工事。 （コンクリート打ち振壁により必要となるはつりまたは肉付け工事） ・昇降路のコンクリート強度は 21N/mm <sup>2</sup> （FC21）以上。 ・昇降路のコンクリート壁厚は 150mm 以上。 ・昇降路の壁（囲い）は、5cm の任意の面に直角方向の外力（300N）が作用しても15mmを超える変形及び塑性変形を生じない構造とする。 2. 各階出入口（インジケータ、押加用孔含む）の孔あけ工事。 3. 各階乗場出入口時間帯のモルタル詰め もしくはロックウール詰め工事。 4. 乗場復旧後の出入口廻りの壁、床及び建築物補修仕上工事。 5. 壁上・開放廊下等遮煙外気を捨てる乗場における雨水よけ設置工事。 （排水口、水勾配、底など） 6. ビット内防水仕上工事、およびビットが深い場合の埋め戻し工事。 （エレベータ工事の着工前に完了のこと） ・防水厚は 25mm 以下。 7. 昇降路頂部の吊りり用ビーム（ k 鋼）設置工事。 8. 鉄骨構造の昇降路に於ける鉄骨材の耐火処理工事及び耐火材の飛散防止処理工事。 9. レール支持用（ファスナープレート）の設置工事。 10. 鉄骨受材設置工事。

設備工事
1. エレベータ受電箱までの動力電源・照明電源・接地線の引込み、並びにつなぎ込み工事。 2. 昇降路外のインターホン・非常ベル、その他エレベータに必要な配管配線工事。 3. ビット点検用コンセント設置工事。 4. 昇降路頂部の煙感知器設置工事。（昇降路頂部より点検可能な事） 5. エレベータ遠隔監視用電話線（電話交換機から監視ユニット設置場所まで）の配管配線工事。

注意事項
1. 昇降路内に他の用途の配管、ダクトを設けないように願います。昇降機に必要な配管設備にあつては、昇降機の機能に支障無きようお願いします。 また、昇降路壁には、エレベータ以外の電気・水道等の配管・器具類を埋め込まないで下さい。 2. エレベータ受電場における電源電圧の変動は±5%以内、照明用は±2%以内、電圧不平衡率は5%以内に保つよう電源を設置下さい。 3. 昇降路内温度は40℃、湿度は月平均90%・日平均95%を超えないようにして下さい。 4. 昇降路には有毒ガスや蒸だしい煙あしい等が入らないようにして下さい。 5. 昇降路および出入口は風雨に直接さらされたり、塩分の影響を受けないようにして下さい。 6. エレベータ機器の搬入に支障のない経路を確認願います。 （必要に応じてコンクリート孔あけ、および埋戻し工事） 7. 復旧工費用放電源、試運転用電力、砂、セメント、水等は無償供給願います。 8. 工事現場におけるエレベータ部品、据付材料の保管場所を無償貸し願います。

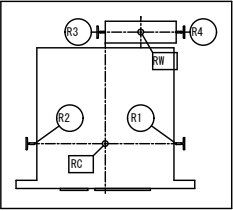
電源設備（1台当たり）【電気工事】					
記号	種別	線種等	引込み高さ	引出し長さ	
	動力用電源	3φ 3W AC 200V H種	H種	500 mm	
		幹線サイズ (mm) <sup>2</sup>			
		幹線こう長 (m)			
		電気室ブレーカ (A)			
		接地線 (mm) <sup>2</sup>			
		電源設備容量 (kVA)			
		全負荷定速時電流 (A)			
		全負荷加速時電流 (A)			
	自家発動力用電源	-	H種	500 mm	
		1φ 2W AC 100V			
	照明用電源	1φ 2W AC 100V H種	H種	500 mm	
		照明用電源容量 (kVA)	1.0		
	ピットコンセント	AC100V 10A 1個	H種	200 mm	
	電話用線用配線	別途打合せによる	H種	400 mm	
	弱電関係用配線	別途打合せによる	H種	800 mm	

高調波（高周波ノイズ）への注意事項  
電源側遮断器に漏電遮断器等を設置する場合は、下記対応を実施願います。  
1. 漏電遮断器等を設置する場合は「インバータ対応型」とし、  
感度電流値は昇降機1台あたり50mA（感度設定値100mA相当）の  
漏れ電流として設定下さい。  
2. 昇降機と同一電源トランスを使用している機器の漏電遮断器、漏電警報機にも  
「インバータ対応型」を使用して下さい。  
また高周波漏れ電流と高周波ノイズの影響を低減するため、下記対策を推奨します。  
1. 昇降機の動力線と弱電機器の電源・信号線は、平行に配線しないで下さい。  
やむを得ず平行配線する場合は、1m以上離して下さい。  
2. 昇降機の電源トランスと弱電機器の電源トランスを分離して下さい。  
3. 昇降機のアース線と弱電機器のアース線は、各々独立して配線のうえ、接地下さい。  
4. 昇降機の昇降路と動力線の近くにラジオや通信機器のアンテナを設置しないで下さい。

a	20kN 吊りビーム	(建築工事)
b	PL-12t	
b'	PL-12t (9tリブ付)	
e	L-90×90×7	
f	L-65×65×6	
e	L-90×90×7	

A	巻上機	(EV工事)
B	制御盤	
C	受電箱・ピットタラップ	
D	地震感知器	
G	絶縁トランス盤	

P	インジケータ
Q	一般用押釦芯
R	車いす用押釦芯
S	インターホンボックス（1Fのみ）



ピット部反力 (kN) : 長期荷重

R1	R2	R3	R4
20	21	36	16

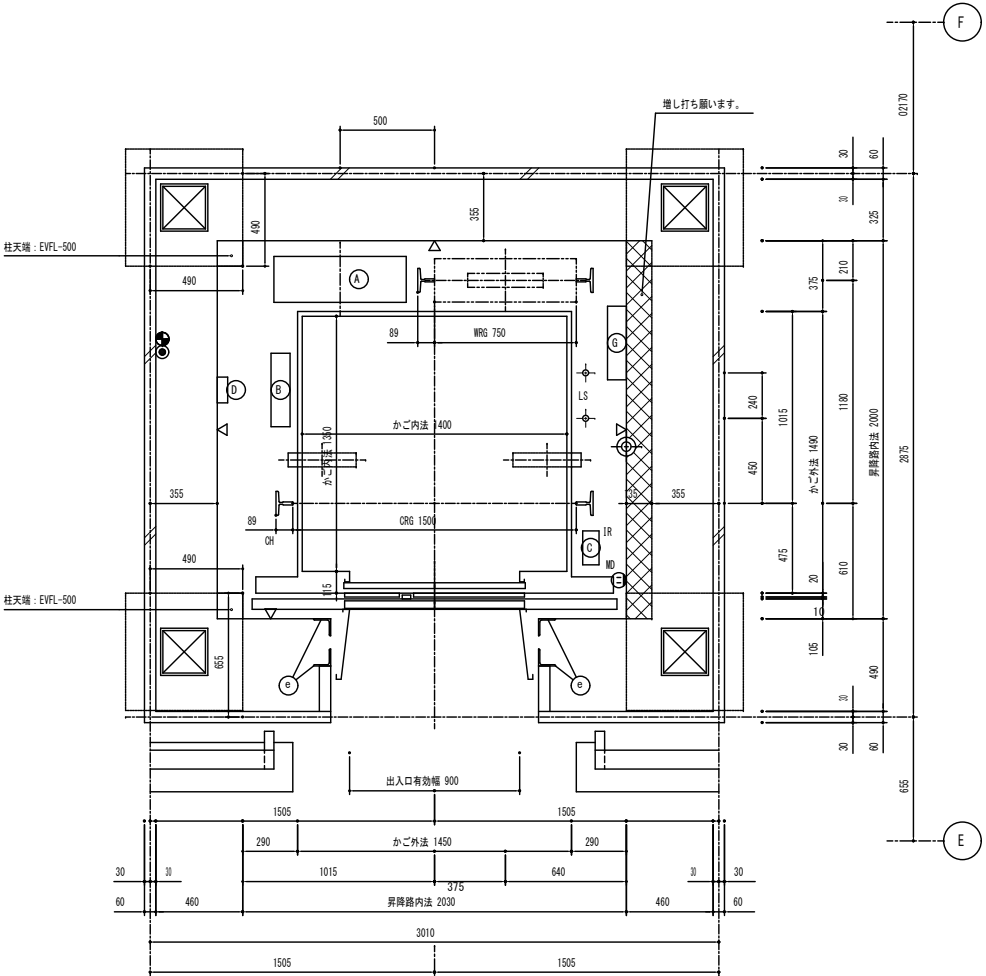
ピット床衝撃力 (kN) : 短期荷重

RC	RW
83	74

レールに作用する荷重値 (kN)

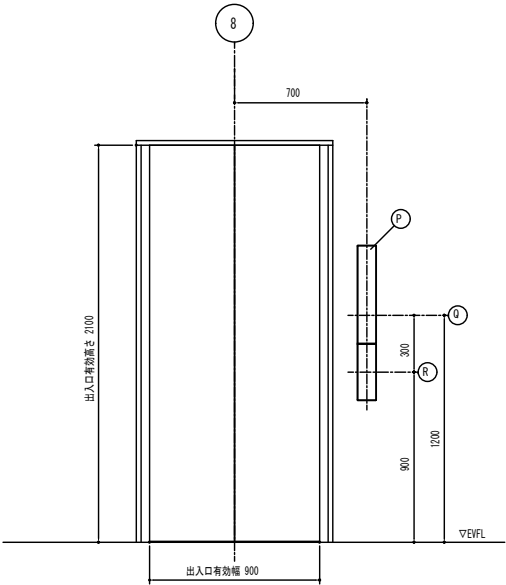
P <sub>y</sub>		P <sub>x</sub>	P <sub>y</sub>
	かご	4.9	3.3
	おもり	7.2	3.6

短期荷重による建築部材のたわみは  
5mm以下としてください

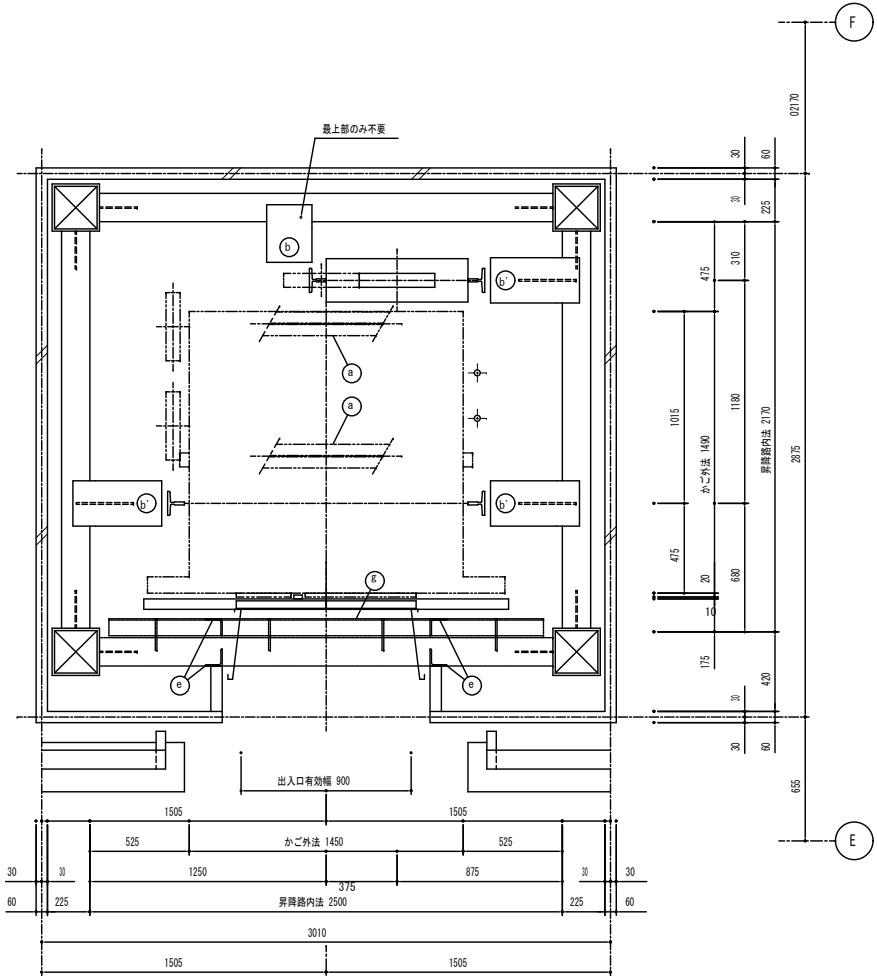


U(1F) 昇降路平面図

注：ピット内は、遮断防水上願います。  
△：防水仕上面を示す。

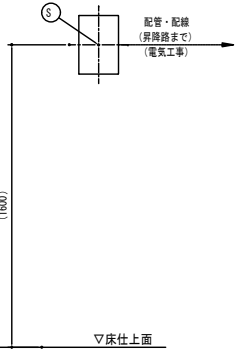


U出入口正面図



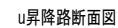
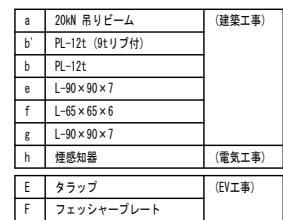
U(2, 3F) 昇降路平面図

※耐火被覆無し

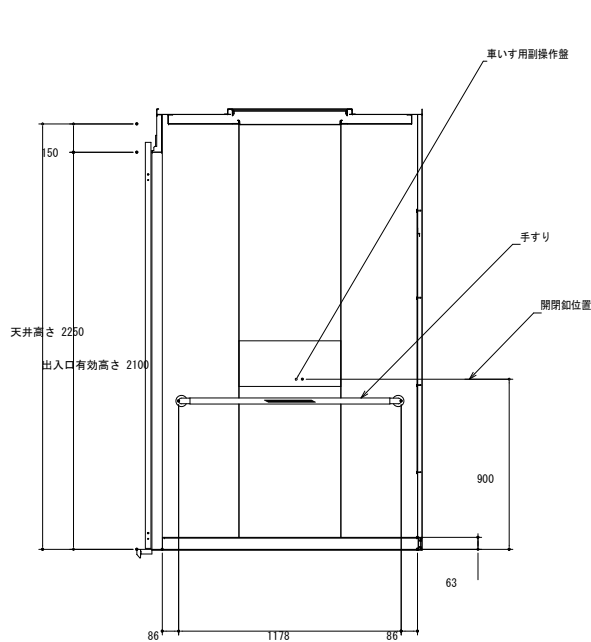


インターホン正面図

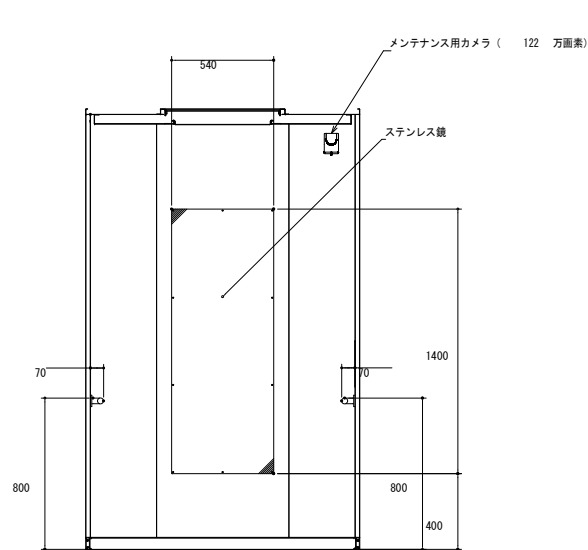
※取付位置は別途打ち合わせ要



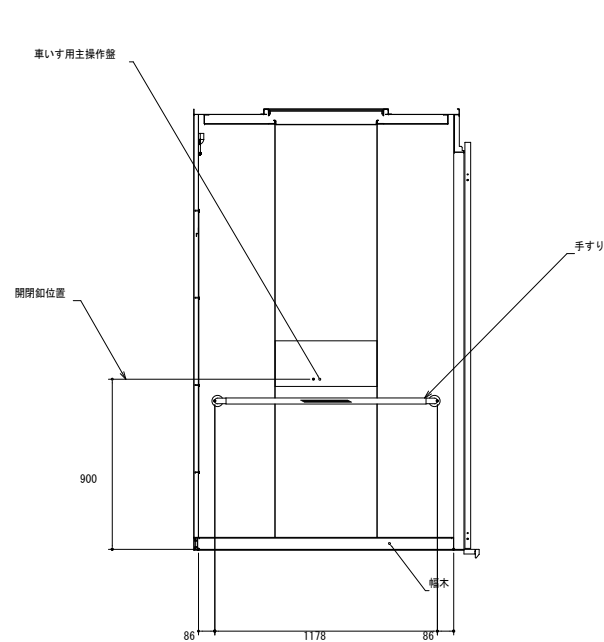




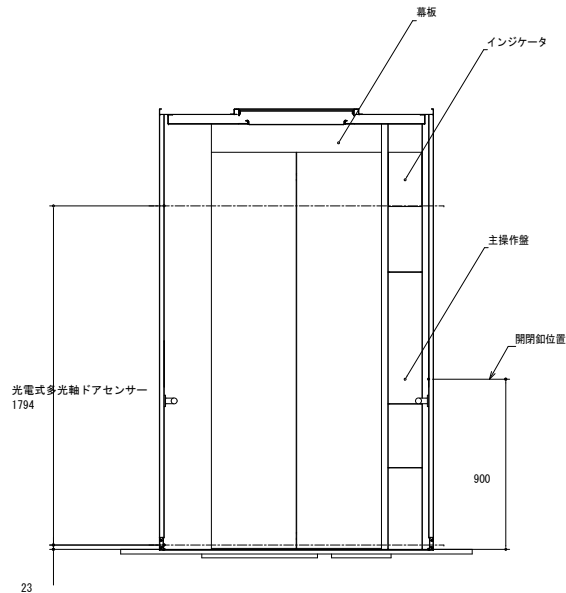
U矢視 A



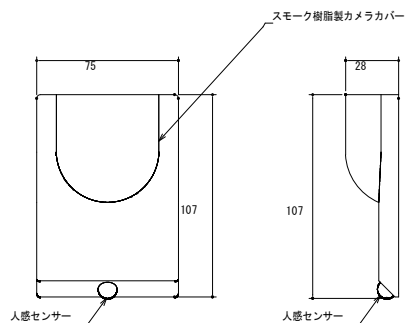
U矢視 B



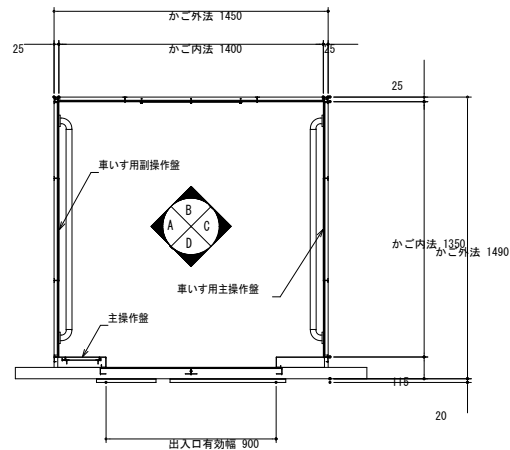
U矢視 C



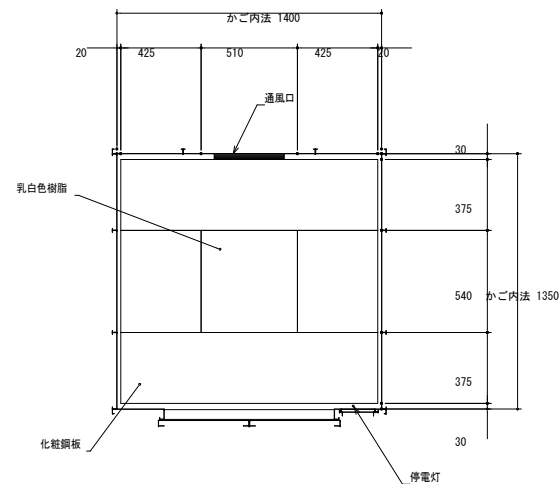
U矢視 D



カメラ詳細図



Uかご平面図



U天井見上図

項目	意匠内容
かご内法	間口 1400 mm × 奥行 1350 mm
出入口寸法	幅 900 mm × 高さ 2100 mm
積載	積載 750 kg / 定員 11 名
側壁	化粧鋼板
幕板	化粧鋼板
扉	化粧鋼板
天井	スタンダードタイプ (SC-01)
袖壁	ステンレスパイプレーション仕上 (入口柱一体)
幅木	アルミアルマイト仕上
床	t=2.0 ビニールタイル
敷居	硬質アルミ製
照明	LED照明
停電灯	LED
換気装置	クロスフローファン (イオンフル付)
手すり	32φ ステンレスヘアライン仕上 (端部: 30φ 亜鉛ダイカスト塗装仕上)
鏡	ステンレス鏡面仕上 (ビス止め)
付属品	音声案内装置 放送用スピーカー 光電式多光軸ドアセンサー 両側セーフティシュー 点字 保護幕 (磁石式) 床マット メンテナンス用カメラ (122万画素)



鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

- (１) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。  
(２) 記号  
d-異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D-部材の成 R-直径  
@-間隔 r-半径 C-中心線 L<sub>o</sub>-部材間の内法距離 h<sub>o</sub>-部材間の内法高さ  
S-T-あばら筋 H-O-P-帯筋 S-H-O-P-補強帯筋 φ-直径または丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

(１) 鉄筋末端部の折り曲げの形状

折り曲げ角度	180°	135°	90°	折り曲げ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイプのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(≠4d以上)	8d以上(≠4d以上)	

折り曲げ内法寸法Rは、SR235、SR295、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は3d以上、D19以上は4d以上

※片持スラブの上端部の先端、壁筋の自由端側の先端

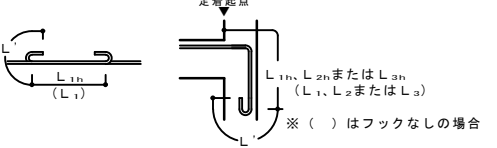
(２) 鉄筋中間部の折り曲げの形状 鉄筋の折り曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のり寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235 SD295A SD295B SD345	D16(16φ)以下 D19(19φ)以上	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235 SD295A SD295B SD345	D16(16φ)以下 19φ~25φ D19~D25 28φ~32φ D29~D38	6d以上 8d以上

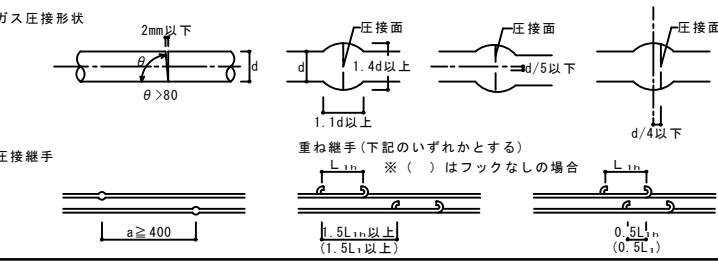
(３) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度: F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	フックなし				フックあり			
		L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>		L <sub>1h</sub>	L <sub>2h</sub>	L <sub>3h</sub>	
SD295A SD295B	18	45d	40d			35d (40d)	30d (40d)		
	21	40d	35d (40d)			30d (40d)	25d (40d)		
	24, 27	35d (40d)	30d (40d)			25d (40d)	20d (40d)		
	30, 33, 36	30d (40d)	25d (40d)			20d (40d)	15d (40d)		
SD345	18	50d	40d	20d	150mm かつ 10d 以上	35d (40d)	30d (40d)	10d	—
	21	45d	35d (40d)			30d (40d)	25d (40d)		
	24, 27	40d	35d (40d)			25d (40d)	20d (40d)		
	30, 33, 36	35d (40d)	30d (40d)			20d (40d)	15d (40d)		

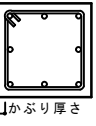
- 定 着 １．（ ）は、柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さを示す。ただし、軽量コンクリートを除く。  
２．L<sub>1</sub>、L<sub>1h</sub>：３．から５．以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。  
３．L<sub>2</sub>、L<sub>2h</sub>：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ、フックあり定着の長さ。  
４．L<sub>3</sub>：小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。  
５．L<sub>3h</sub>：小梁下端筋のフックあり定着の長さ。  
６．フックあり定着の場合は、下図に示すようにフック部分L'を含まない。  
また、中間部での折曲げは行わない。  
７．軽量コンクリートの場合は、F<sub>c</sub> 36 N/mm<sup>2</sup>の軽量コンクリートとSD490以外の異形鉄筋を対象に表の値に5dを加えたものとする。定着起点



- 継 手 １．末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない。  
２．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。  
３．直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする。  
４．D 35以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。  
５．鉄筋径の差が5mmを越える場合は、圧接としてはならない。



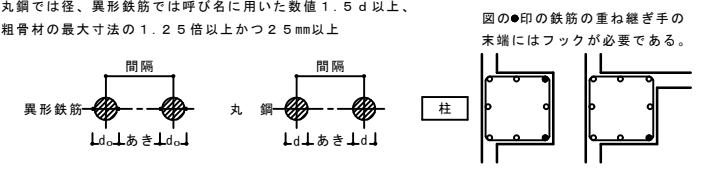
- (４) かぶり厚さ  
ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所については、防錆処置を施した鉄筋を使用するか、目地部から必要なかぶり厚さを確保する。



部 位		設計かぶり厚さ(mm)		最小かぶり厚さ(mm)
		屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内 屋外	
土に接しない部分	柱 はり 耐力壁		屋内 40 屋外 50	30(20) 40(30)
	擁壁、耐圧スラブ		50	40
土に接する部分	柱、梁、床スラブ、耐力壁		50	40(※)
	基礎、擁壁、耐圧スラブ		70	60(※)

〔注〕(１) (※)部 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。  
(２) ( )内は、耐久性上有効な仕上げを施す場合。

(５) 鉄筋のあき



(６) 鉄筋のフック

- (a-fに示す鉄筋の末端部にフックをつける。)  
a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋、幅止め筋 c. 煙突の鉄筋  
d. 柱、梁(基礎梁は除く)の出隅部分の鉄筋(右図参照)  
e. 単純梁の下端筋  
f. その他、本配筋標準図に記載する箇所

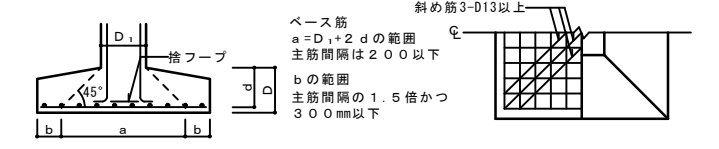
３．杭 地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること

(１) P C杭、または P H C杭の全てに補強を行う。

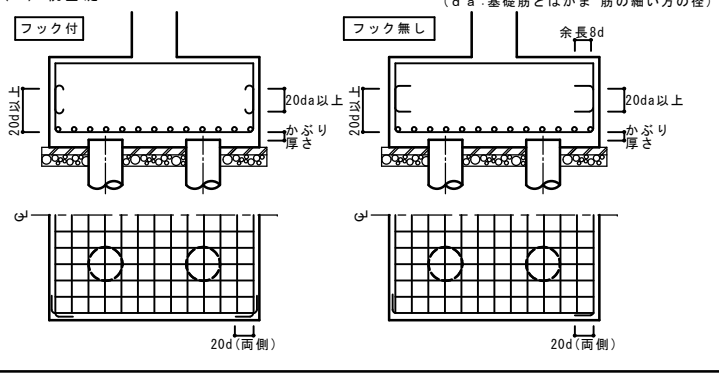
所定の位置に止まった場合			所定より低く止まった場合		
杭 径	300φ, 350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D13	10-D13
H O O P筋	D10-@150		D10-@150		

４．基礎

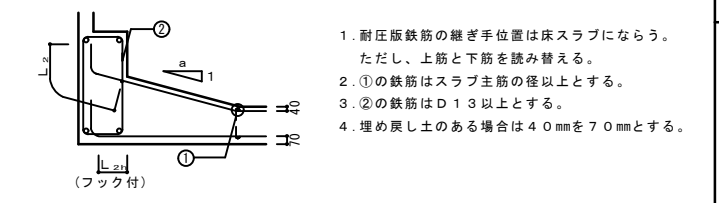
(１) 直接基礎



(２) 杭基礎

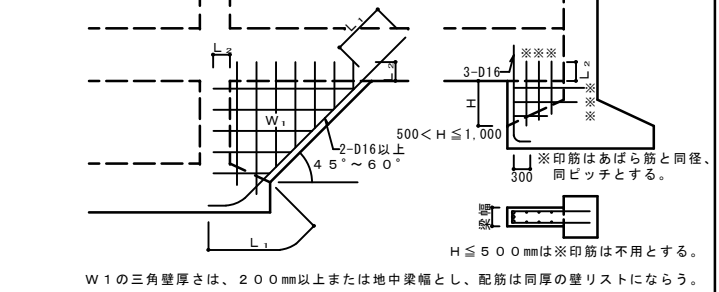


(３) べた基礎



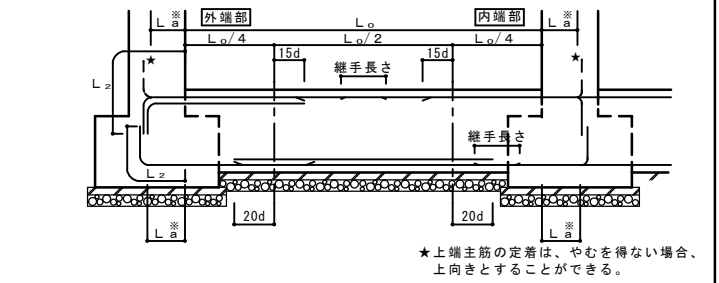
- １．耐圧版鉄筋の継ぎ手位置は床スラブにならう。ただし、上筋と下筋を読み替える。  
２．①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする。  
３．②の鉄筋はD13以上とする。  
４．埋め戻し土のある場合は40mmを70mmとする。

(４) 基礎接合部の補強

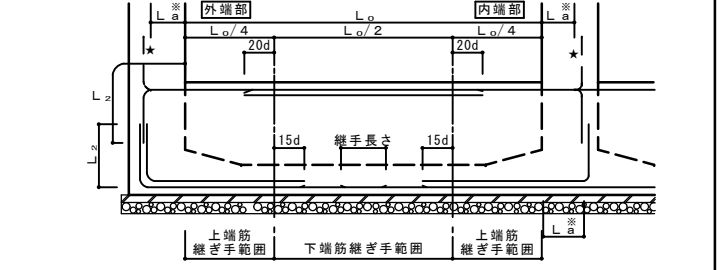


５．地中梁

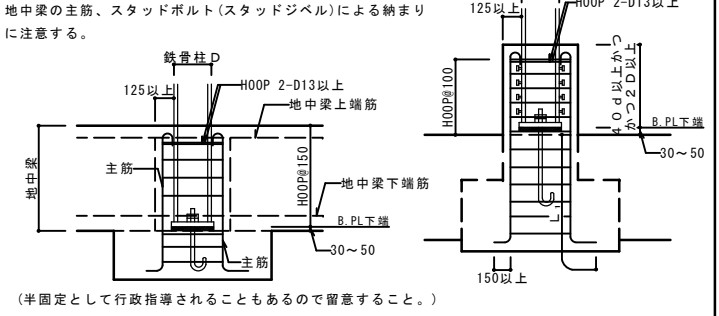
(１) 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付く場合（定着、継ぎ手）



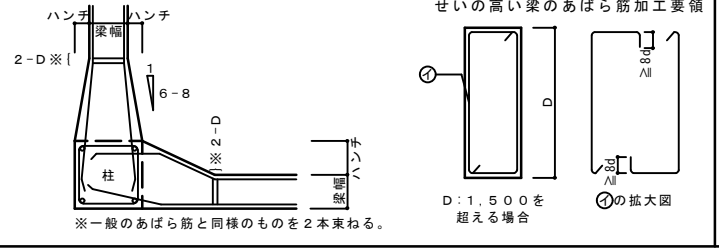
(２) 布基礎、べた基礎の場合（定着、継ぎ手）



(３) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

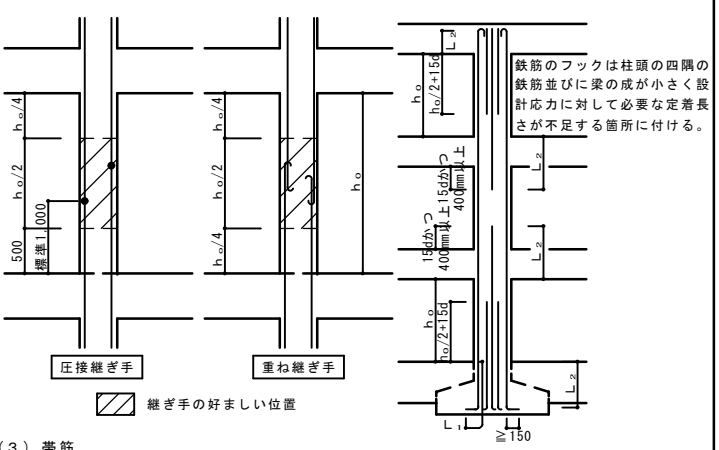


(４) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (５) 梁の上下にスラブが付く場合かつせいの高い梁のあばら筋加工要領

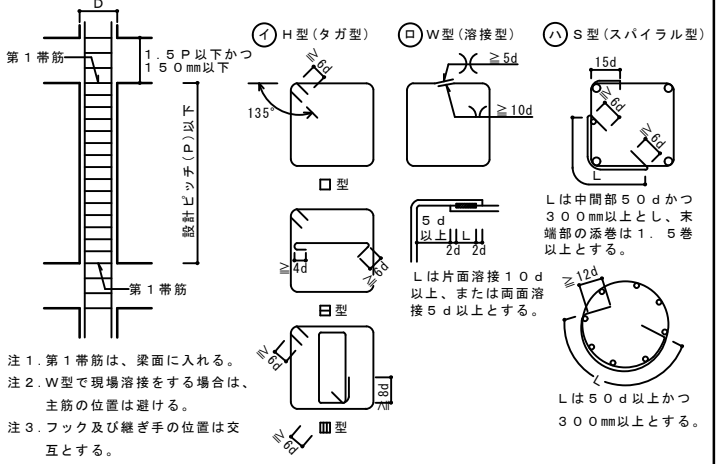


６．柱

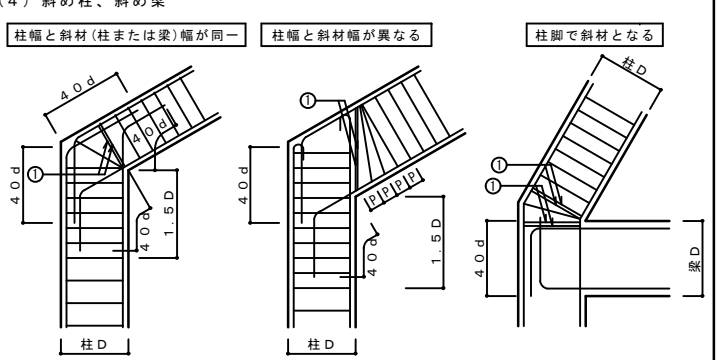
(１) 柱主筋の継ぎ手 (２) 柱主筋の定着



(３) 帯筋

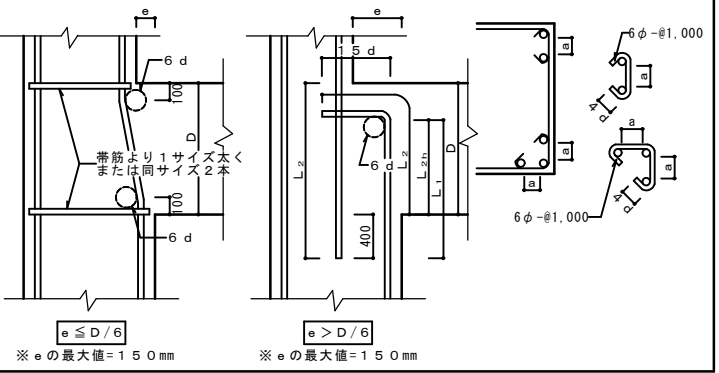


(４) 斜め柱、斜め梁



- 注 １．1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太い物か、またはダブル巻きとし@100以下とする。  
注 ２．①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする。

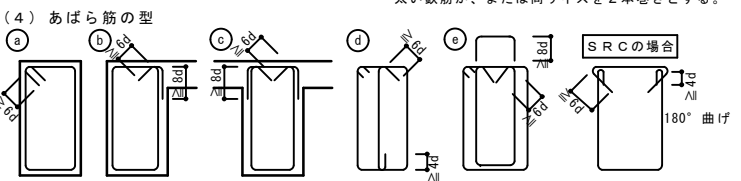
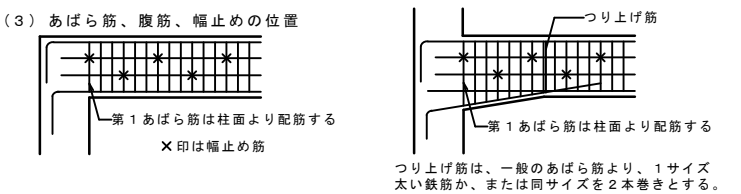
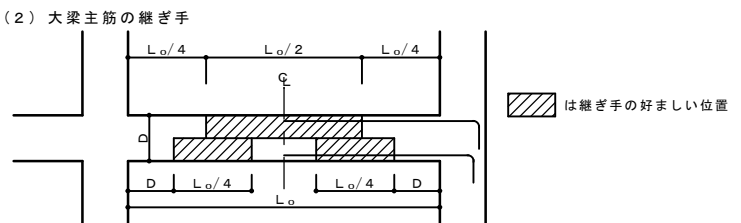
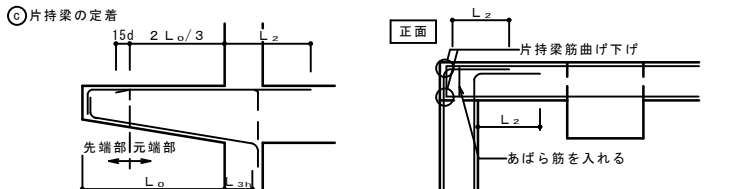
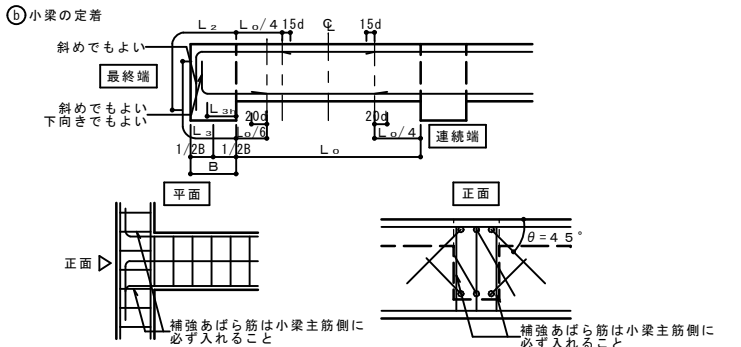
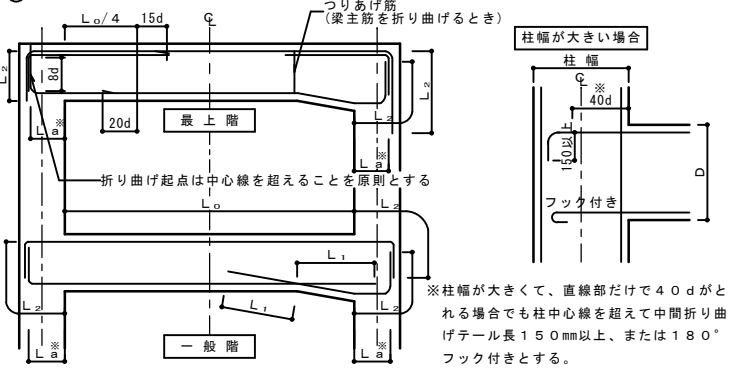
(５) 絞り



## 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

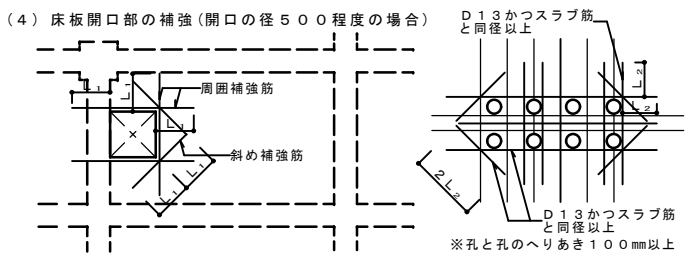
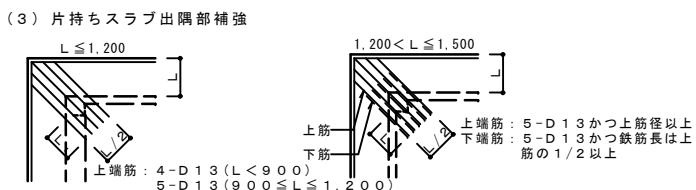
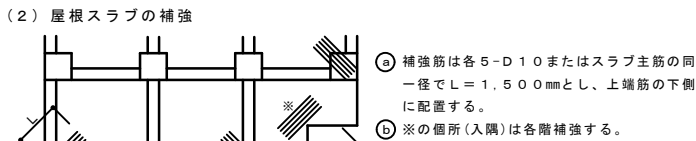
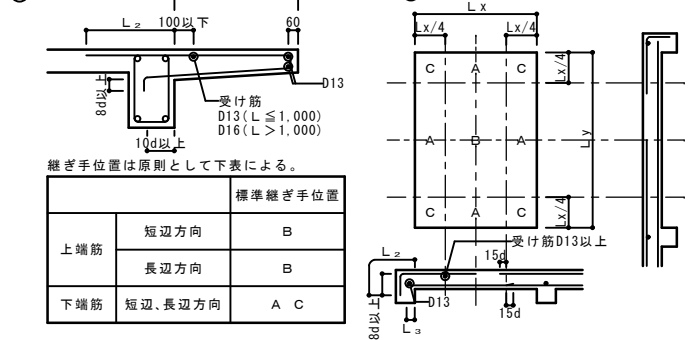
※L＝鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）の２～（３）による。

## ７．大梁、小梁、片持梁

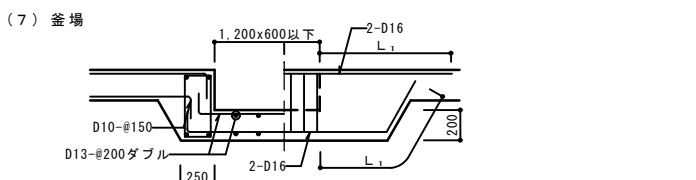
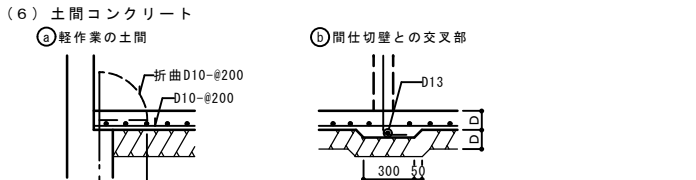
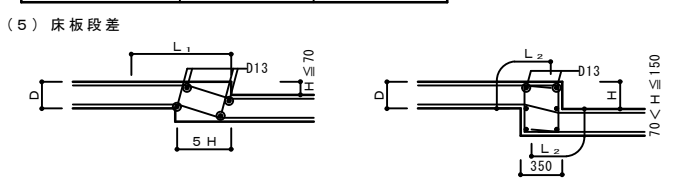
(１) 定着  
⑧ 大梁(イ)原則として㊦のフック先曲げとする。片側床版付(L型)梁で㊦、両側床版付(T型)梁で㊦または㊦とすることができる。  
(ロ)フックの位置は㊦にあっては交互、㊦にあってはスラブ側とする。

腹筋及び幅止め筋の本数、加工	
D<600	不要
600≦D<900	2-D10:1段
900≦D<1,200	4-D10:2段
1,200≦D	D10-@300以内
幅止め筋	D10-@1,000以内で割り付ける

## ８．床版

(１) 定着及び継ぎ手  
⑨ 片持床スラブ

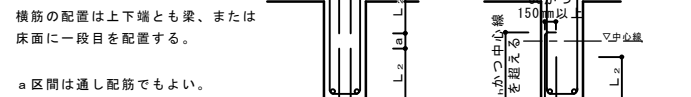
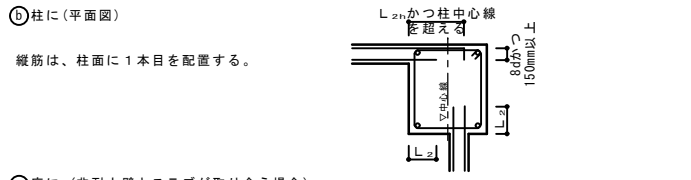
床板厚さD	周 囲	斜 め
D<150	各2-D13	各1-D13
150≦D≦200	各2-D13	各2-D13
200<D≦300	各2-D19	各2-D16

(８) 打継ぎ補強(ダマ穴打継ぎについて)  
●設計配筋間隔の1/2ピッチ、長さ2L<sub>1</sub>以下  
●無筋部分D10-@200、長さ800mm以上

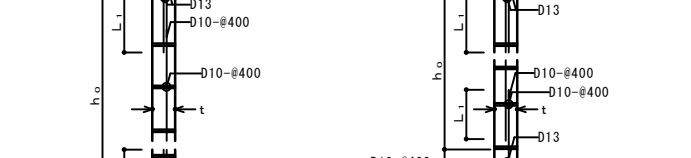
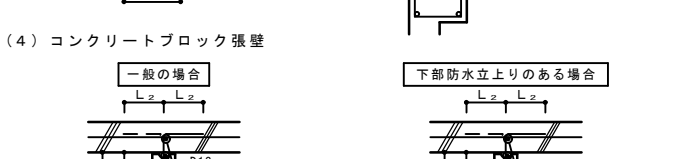
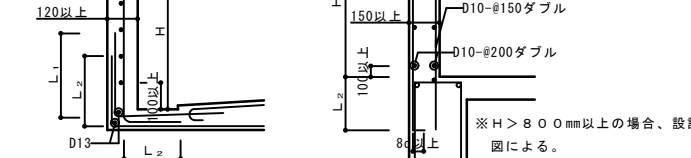
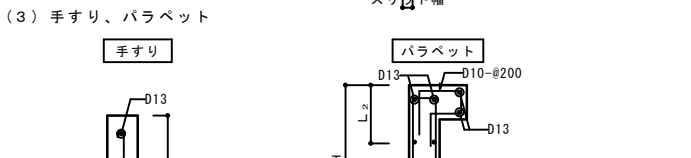
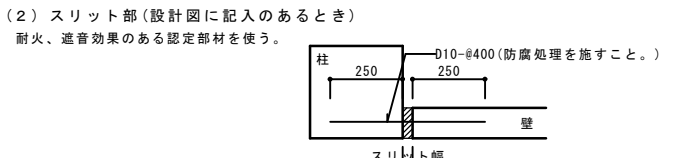
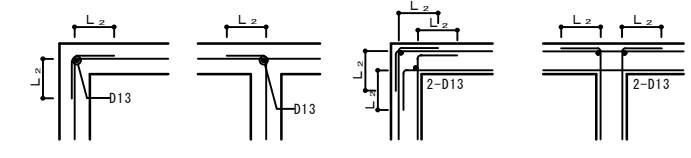
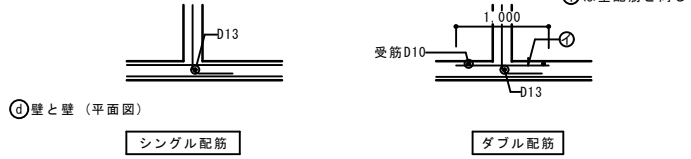
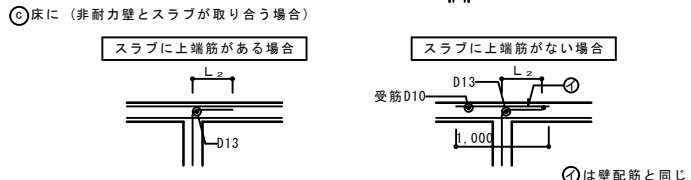
## ９．壁

(１) 定着

⑩ 梁に(断面図)

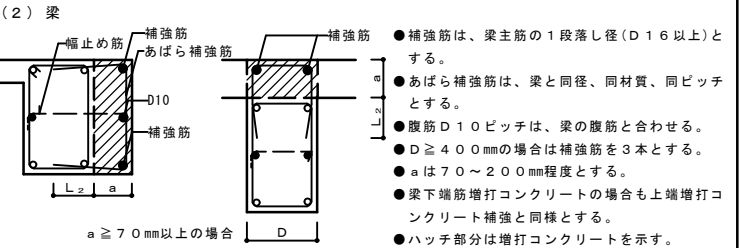
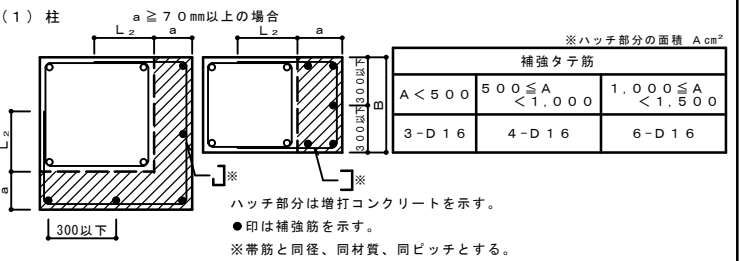
横筋の配置は上下端とも梁、または床面に一段目を配置する。  
a 区間は通し配筋でもよい。

縦筋は、柱面に1本目を配置する。

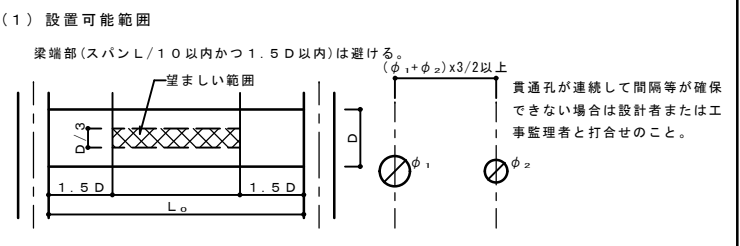
注) h<sub>0</sub>≦25 tかつ3,500mm以下とする。ただし直行方向25 t以内に壁、または柱がある場合は除く。  
注) hはコンクリートブロック段数調節寸法とする。ただし、200mm≦h≦400mmに限る。  
注) 継ぎ手部は必ずモルタルを充填すること。

## １０．柱、梁増打コンクリート補強

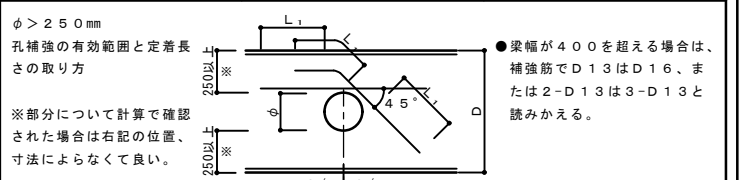
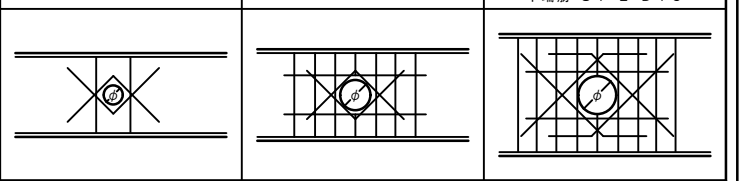
増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合わせのこと



## １１．梁貫通孔補強

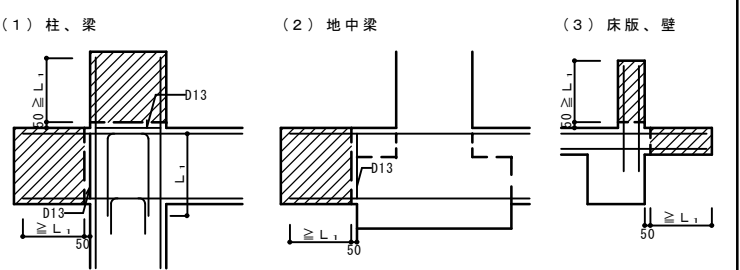


80≦φ≦100	100<φ≦150	150<φ≦250
折筋 2-(2-D13)	折筋 2-(2-D13)	折筋 4-(2-D13)
縦筋 ST 2-D13-@100	縦筋 ST 2-D13-@100	縦筋 ST 2-D13-@100
	横筋 2-(2-D13)	横筋 2-(2-D13)
		上端筋 ST 2-D13
		下端筋 ST 2-D13

(３) 既成品(使用するときには、設計者または工事監理者と打ち合わせのこと)  
●リング型  
□パイプ型  
□金網型  
□プレート型

## １２．増築予定

将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継ぎ工法を考慮して措置する。





1. 工法概要

1. 1 構成部材

① アンカーボルト  
② 注入座金  
③ Mナット  
④ ベースバックグラウト (グラウト材)  
⑤ 定着座金  
⑥ テンプレート

⑦ フレームポスト  
⑧ フレームベース  
⑨ ステコンアンカー (コンクリートアンカー)  
⑩ ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。  
(注)上記⑥～⑨は現場状況により仕様異なる場合がある。

1. 2 柱脚の定着方法概要

グラウトロート  
グラウト材  
注入座金  
注入栓 (機木等)

2. 柱

F 値 (N/mm <sup>2</sup> )	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	○
	TSC295	

3. 構成部材・寸法

3. 1 ベースプレート

●材質  
SN490B【JIS G 3136】

形状 (イ) 形状 (ハ)

3. 2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i)アンカーフレームAタイプの場合

呼び	異形部	L <sup>注1)</sup>	X	b <sup>注1)</sup>	単位 mm
d	呼び名				基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690,735	45	95,140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770,810	60	98,135	490

注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii)アンカーフレームCタイプの場合

呼び	異形部	L	X	単位 mm
d	呼び名			基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

3. 3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	A	B	(e)	単位 mm
M27	22	41	47	
M30	24	46	53	
M33	26	50	58	
M36	29	55	64	
M39	31	60	69	

3. 4 定着座金

i)アンカーフレームAタイプの場合

適用	単位 mm			
アンカーボルト	g <sub>1</sub>	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii)アンカーフレームCタイプの場合

適用	単位 mm				
アンカーボルト	g <sub>1</sub>	g <sub>2</sub>	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3. 5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

記号	適用	単位 mm				
アンカーボルト	a <sub>1</sub>	a <sub>2</sub>	c	t	d	
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3. 6 フレームベース

i)Aタイプ

単位 mm

ii)Cタイプ

単位 mm

iii)特Cタイプ

単位 mm

3. 7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ (h寸法) はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ (最低h寸法) は下表に記載の値とする。

タイプ	h寸法 (mm)
Aタイプ	300
Cタイプ※	300
特Cタイプ	300

※ 杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

4. コンクリート柱型

4. 1 形状・材質

●形状  
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。

単位 mm

●コンクリート  
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm<sup>2</sup>以上とする。

●鉄筋  
SD295 (D13,D16)  
SD345 (D19,D22)

4. 2 配筋

配筋仕様は下表による。

単位 mm

※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。  
※トップフープはダブルとし柱型上端近くに配置する。

4. 3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。  
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。

単位 mm

4. 4 特記事項

上記内容によらない場合は下記による。

採用  
□ 下表標準柱型寸法からの変更あり  
("柱型寸法最大・最小値一覧"による)  
□ 下表標準配筋仕様からの変更あり  
□ 立上り筋に頂部フックが必要

5. 工場製作 (溶接)

■組立  
●ベースプレートの中心線 (ケガキ線) に柱材軸心を合わせる。  
■溶接方法 (完全溶込み溶接)  
●完全溶込み溶接とする。(JASS6 鉄骨工事による)  
完全溶込み溶接の開先標準 (JASS6 鉄骨工事2007年版より)

図	溶接方法	適用板厚 T (mm)	板間隔 G (mm)	板間 R (mm)	開先角度 α (°)	溶接長さ	
被覆アーク溶接	6~	7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α:45	-2.5,+∞ (-5,+∞) 下向き
		9	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α:35	-2.5,+∞ (-5,+∞) 下向き
セルシールドアーク溶接	6~	6	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α:45	-2.5,+∞ (-5,+∞) 下向き
		7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α:35	-2.5,+∞ (-5,+∞) 下向き

許容差: 記号+∞は制限無しを示す。  
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差 (上段: 管理許容差、下段括弧内: 限界許容差) を示す。

■ベースプレートの予熱  
●気温 (鋼材表面温度) が5℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚 (mm)	予熱なし	予熱なし
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	t<32	予熱なし	50℃
	SN490B	32≤t≤50	予熱なし	予熱なし

※フラックス入りワイヤによるCO<sub>2</sub>ガスシールドアーク溶接の予熱温度は、低水素系被覆アーク溶接に準じる。

■検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。  
■施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

6. 工事場施工

6. 1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6. 2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト (フレーム) の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立を行う。  
●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。  
●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

図

柱心  
テンプレート  
中心線  
けがき線  
アンカーボルト

e<sub>1</sub>: 柱心とテンプレートのけがき線との許容差

標準許容差

-2 ≤ e<sub>1</sub> ≤ 2  
基準高さより誤差は  
-3 ≤ e<sub>1</sub> ≤ 10

6. 3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト (フレーム) との取り合いを考慮する。  
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6. 4 建方

●レベルモルタルはベースバックグラウト (グラウト材) を使用し、大きさは右図による。

単位 mm

6. 5 アンカーボルトの本締め (弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6. 6 ベースバックグラウト (グラウト材) の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋 (6kg) に対して、計量カップで1.0~1.1Lの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。  
●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者または施工者 (元請) の管理のもとで実施するものとする。  
●本工法のうち6.2アンカーボルト据付け及び6.6ベースバックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者 (ベースパック施工管理技術者・施工技能者) が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。  
●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

JOB NO.  
124337

2025 年 04 月

宝達志水町役場庁舎改修工事

設計

標準

図

露出型弾性固定柱脚工法設計施工標準図

縮尺

S - 05

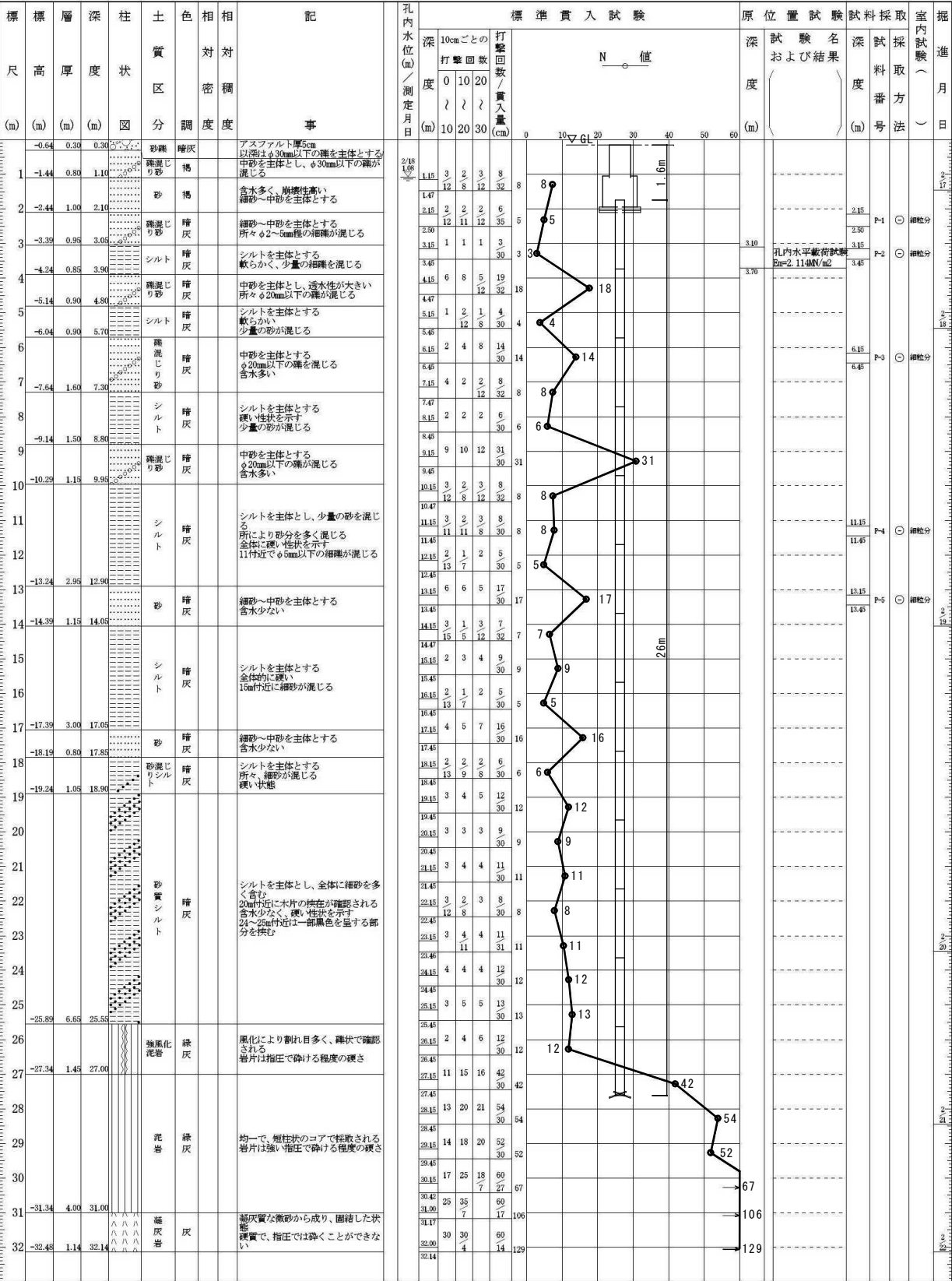
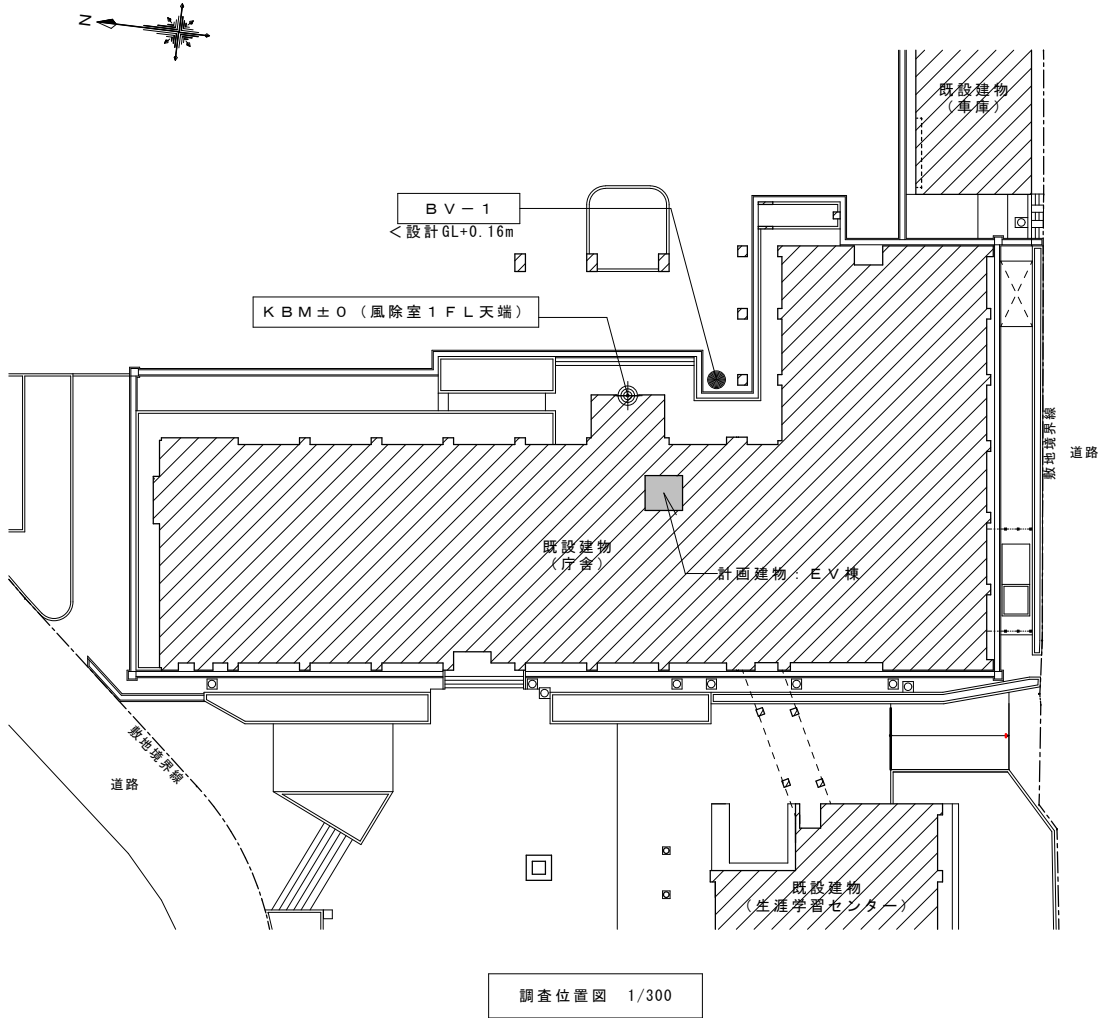




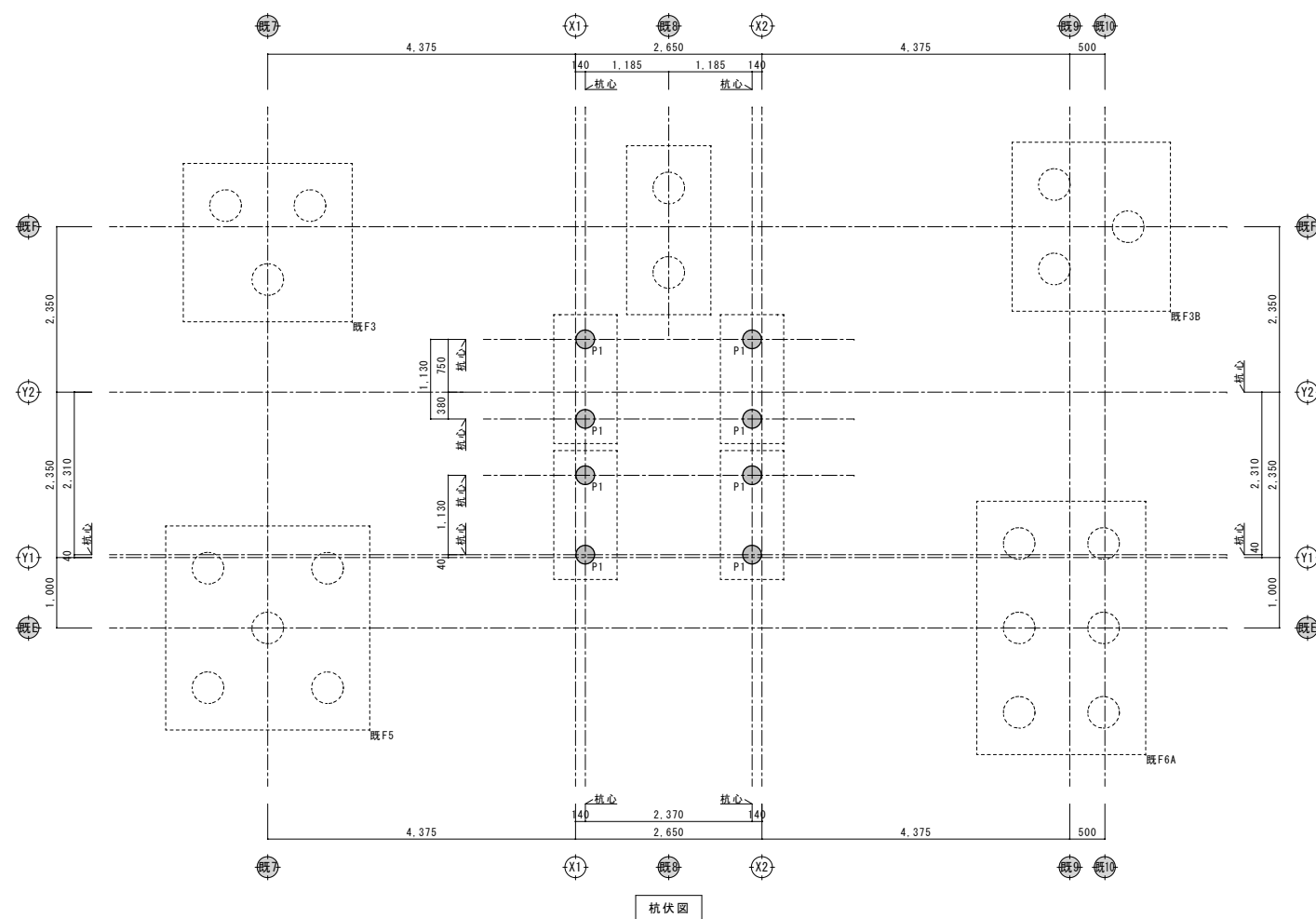
ボーリング柱状図 ※設計GL=KBM-0.50m

B V - 1 孔口標高=設計GL+0.16m  
<=IFL-0.34m>

ボーリング名	BV-1		調査位置		羽咋郡宝達志水町子浦18番地1					北緯		36° 51' 45.8"				
発注機関	宝達志水町				調査期間		令和 7 年 2 月 17 日 ~ 7 年 2 月 27 日				東経		136° 47' 51.7"			
調査業者名	株式会社カナイワ 電話 (076-244-6447)		主任技師		宮永 幸男		現代場人 理 宮永 幸男		コ 定 者		宮永 幸男		ボーリング 責任者		中野 義紀	
孔口標高	FL -0.34m	角 180° 上 270° 下 0°	方 北 270° 西 180° 南	地盤勾配 北 0° 東 90° 南 180° 西 90°	使用機種 試錐機	YBM-05		ハンマー 落下用具		半自動落下						
総掘進長	32.14m				エンジン		NFAD7		ポンプ		GP5					





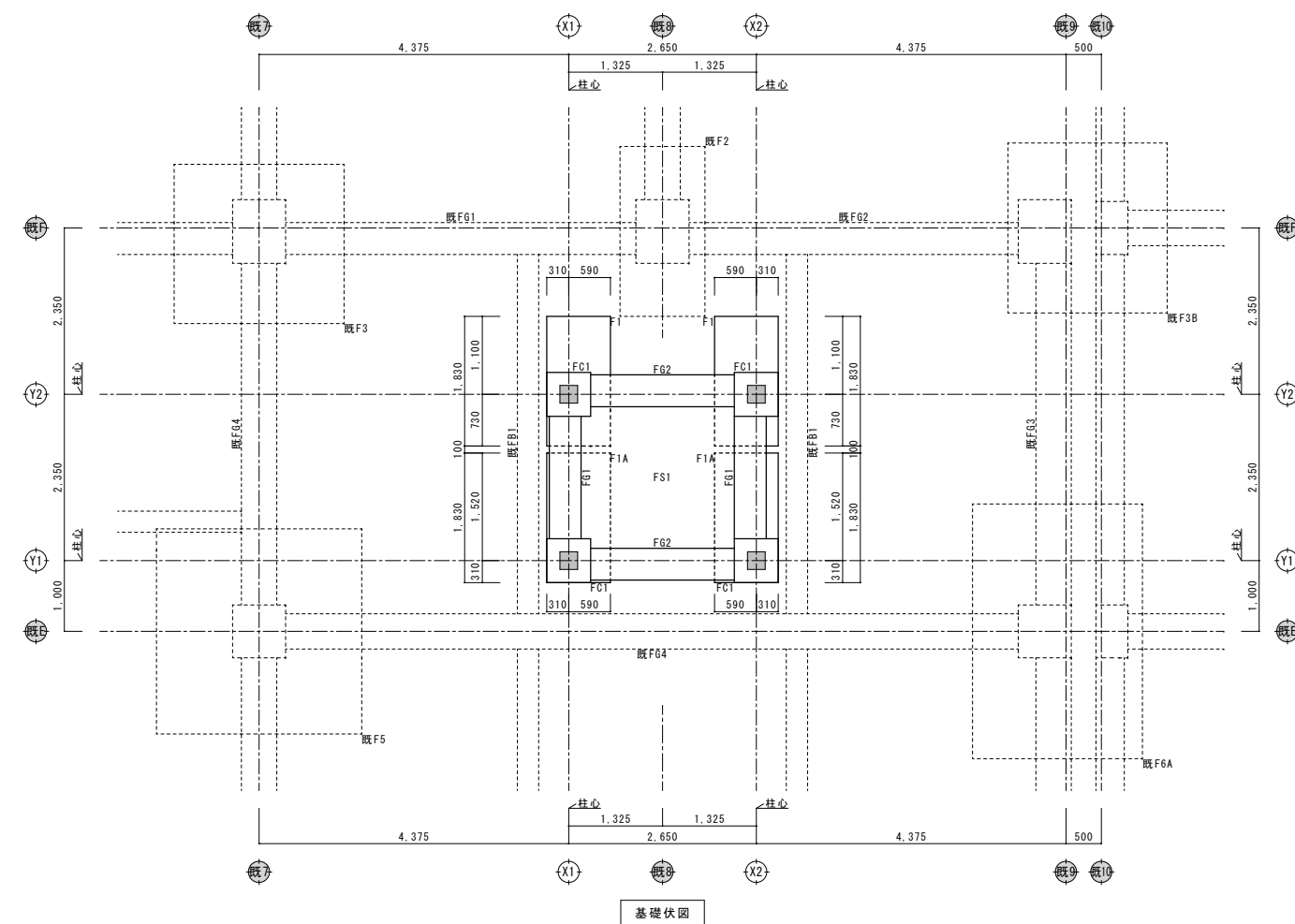
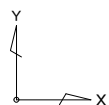


特記事項

1. 杭工法は、N-ECSパイル工法（粘土質地盤：認定番号TACP-0683、引抜き方向：GBRC性能証明 第19-24号 改2）、または同等工法以上とする。
2. 杭先端レベルは、GL-1,600mmとする。
3. 「既〇〇」は既設部材を示し、詳細は既設部材リスト参照とする。
4. 通り符号凡例
- ①：本建物で使用する通り符号
- ②：既設建物で使用する通り符号

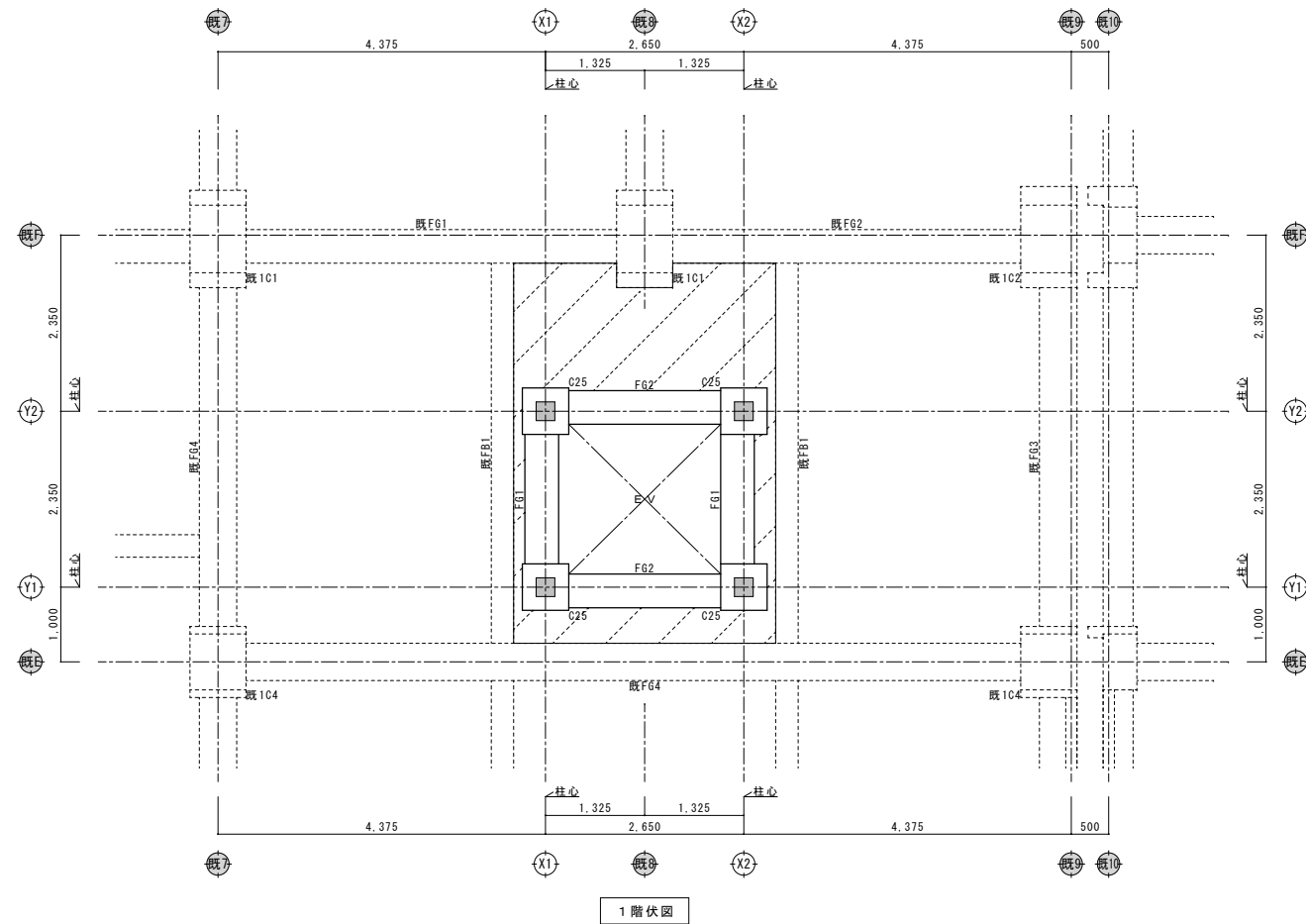
杭リスト

杭符号	基礎符号	位置	杭本体				羽根			杭設計用耐力（長期）	杭SET数	杭施工手法	
			杭径（mm）	杭厚（mm）	材質	杭長（m）	杭全長（m）	羽根径（mm）	羽根厚（mm）				材質
P 1	F 1 F 1 A	上杭	φ 2 6 7 . 4	t = 8 . 0	S T K 4 9 0	2 . 0 m	L = 2 6 . 0	φ 6 0 8 . 2	t = 3 2 . 0	S M 4 9 0 A	6 1 0 . 1 kN/SET	8 SET	無溶接継手 E C S - M J 工法 【 G B R C 性能証明 : 第 1 9 - 0 7 号 改 1
		中杭 1				2 . 0 m							
		中杭 2				2 . 0 m							
		中杭 3				2 . 0 m							
		中杭 4				2 . 0 m							
		中杭 5				2 . 0 m							
		中杭 6				2 . 0 m							
		中杭 7				2 . 0 m							
		中杭 8				2 . 0 m							
		中杭 9				2 . 0 m							
		中杭 10				2 . 0 m							
		中杭 11				2 . 0 m							
		下杭	φ 2 6 7 . 4	t = 8 . 0 t = 1 2 . 7	S T K 4 9 0	( 1 . 5 m ) ( 0 . 5 m )	2 . 0 m 特殊部工場開継						



特記事項

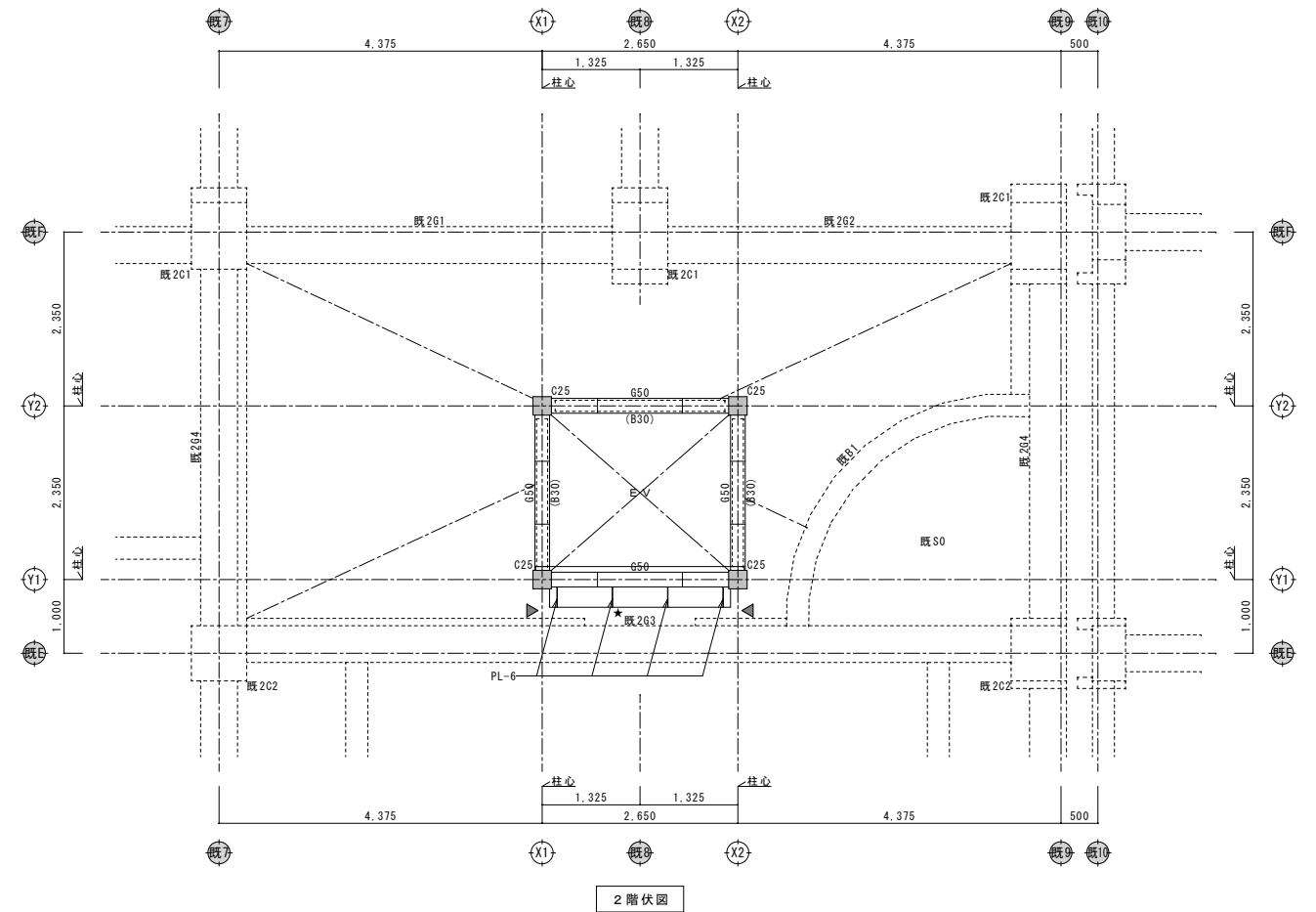
- 基礎下端レベルは、GL-1,800mmとする。
- 地中梁天端レベルは、GL±0mmとする。
- ピットスラブ天端レベルはGL-750mmとする。
- 「既〇」は既設部材を示し、詳細は既設部材リスト参照とする。
- 通り符号凡例
  - ①：本建物で使用する通り符号
  - ②：既設建物で使用する通り符号



1 階伏図

特記事項

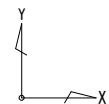
1. 地中梁天端レベルは、1FL-500mmとする。
2. は、既設RCスラブ復旧範囲を示し、雑詳細図参照とする。
3. 「既〇〇」は既設部材を示し、詳細は既設部材リスト参照とする。
4. 通り符号凡例  
 : 本建物で使用する通り符号  
 : 既設建物で使用する通り符号

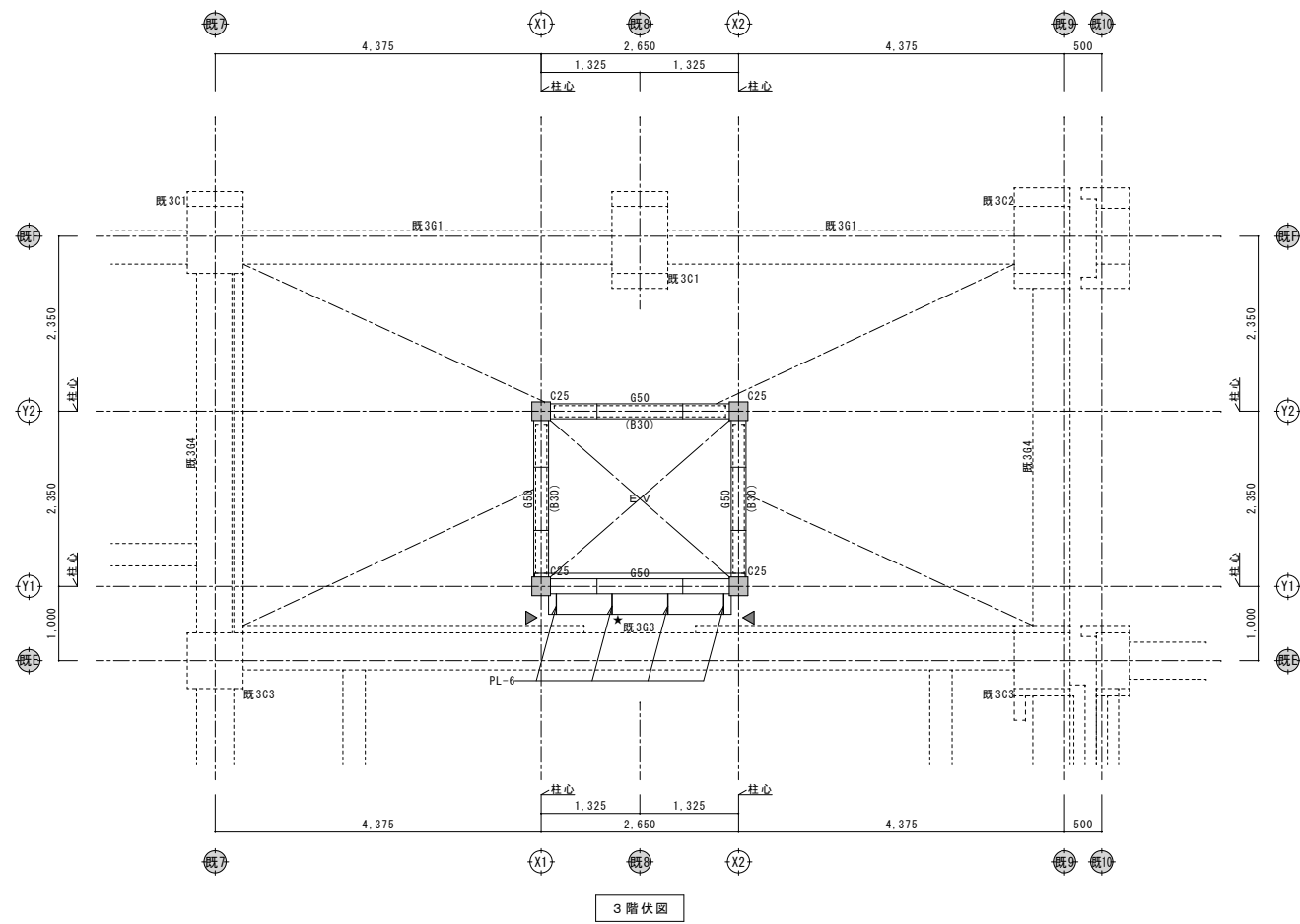


2 階伏図

特記事項

1. 2階鉄骨梁天端レベルは、2FL-150mmとする。
2. 鉄骨梁継手位置は、柱心より750mm (X・Y方向共) とする。
3. Y1通り鉄骨大梁上には、頭付スタッドボルト (φ16-@200、H=100mm) を溶接することとする。
4. ▲は、Exp. J (150mm) を示す。
5. ( )内は中間梁を示し、梁天端高さは2FL-1,850mmとする。
6. 柱継手位置は、2FL+1,000mmとする。
7. ★は雑詳細図参照とする。
8. 「既〇〇」は既設部材を示し、詳細は既設部材リスト参照とする。
9. 通り符号凡例  
 : 本建物で使用する通り符号  
 : 既設建物で使用する通り符号

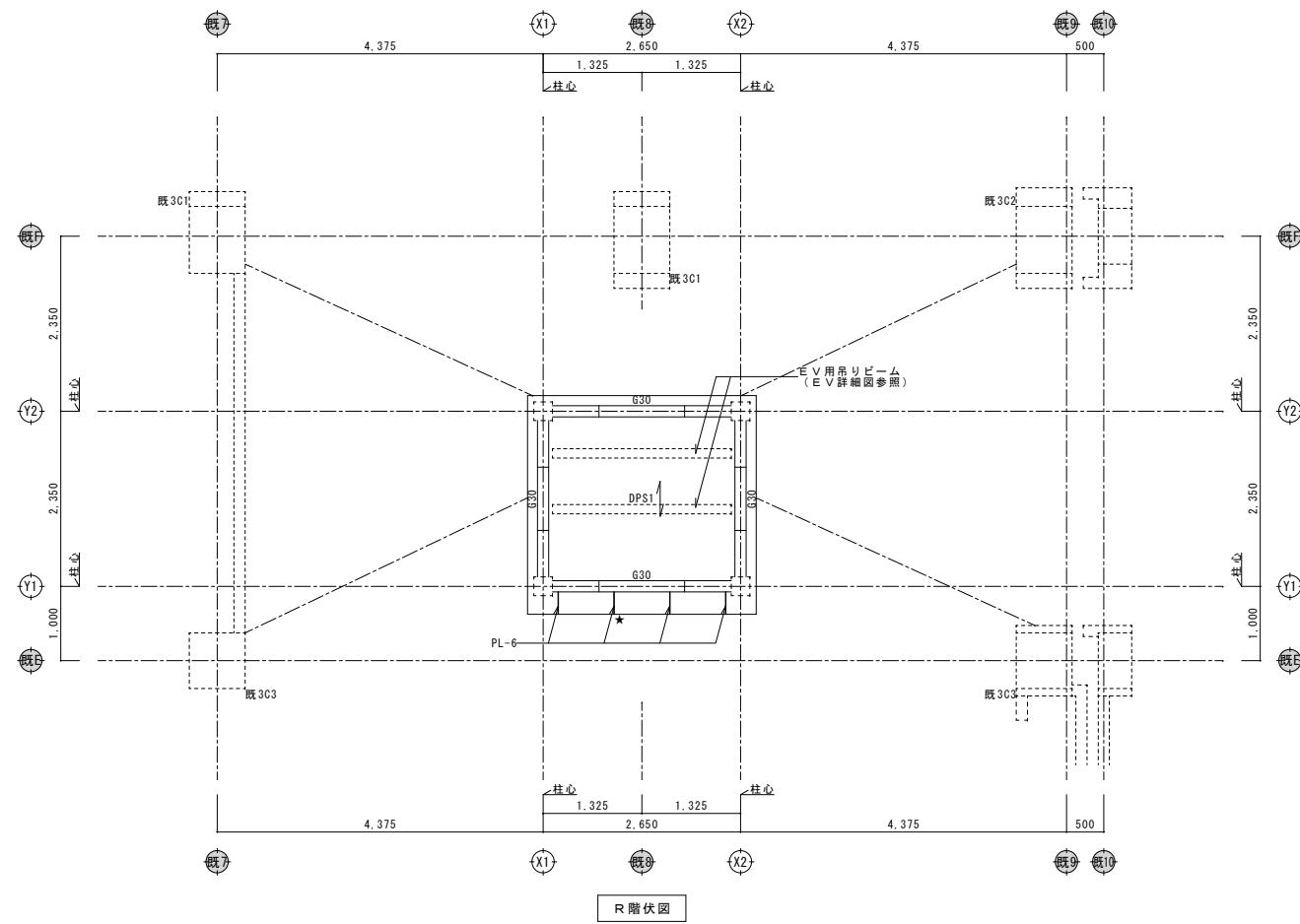




3階伏図

特記事項

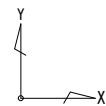
- 3階鉄骨梁天端レベルは、3FL-150mmとする。
- 鉄骨梁継手位置は、柱心より750mm (X・Y方向共) とする。
- Y1通り鉄骨大梁上には、頭付スタッドボルト (φ16-@200、H=100mm) を溶接することとする。
- ▲は、Exp. J (150mm) を示す。
- ( )内は中間梁を示し、梁天端高さは3FL-1,350mmとする。
- 柱継手位置は、3FL+1,000mmとする。
- ★は雑詳細図参照とする。
- 「既〇〇」は既設部材を示し、詳細は既設部材リスト参照とする。
- 通り符号凡例  
①: 本建物で使用する通り符号  
②: 既設建物で使用する通り符号

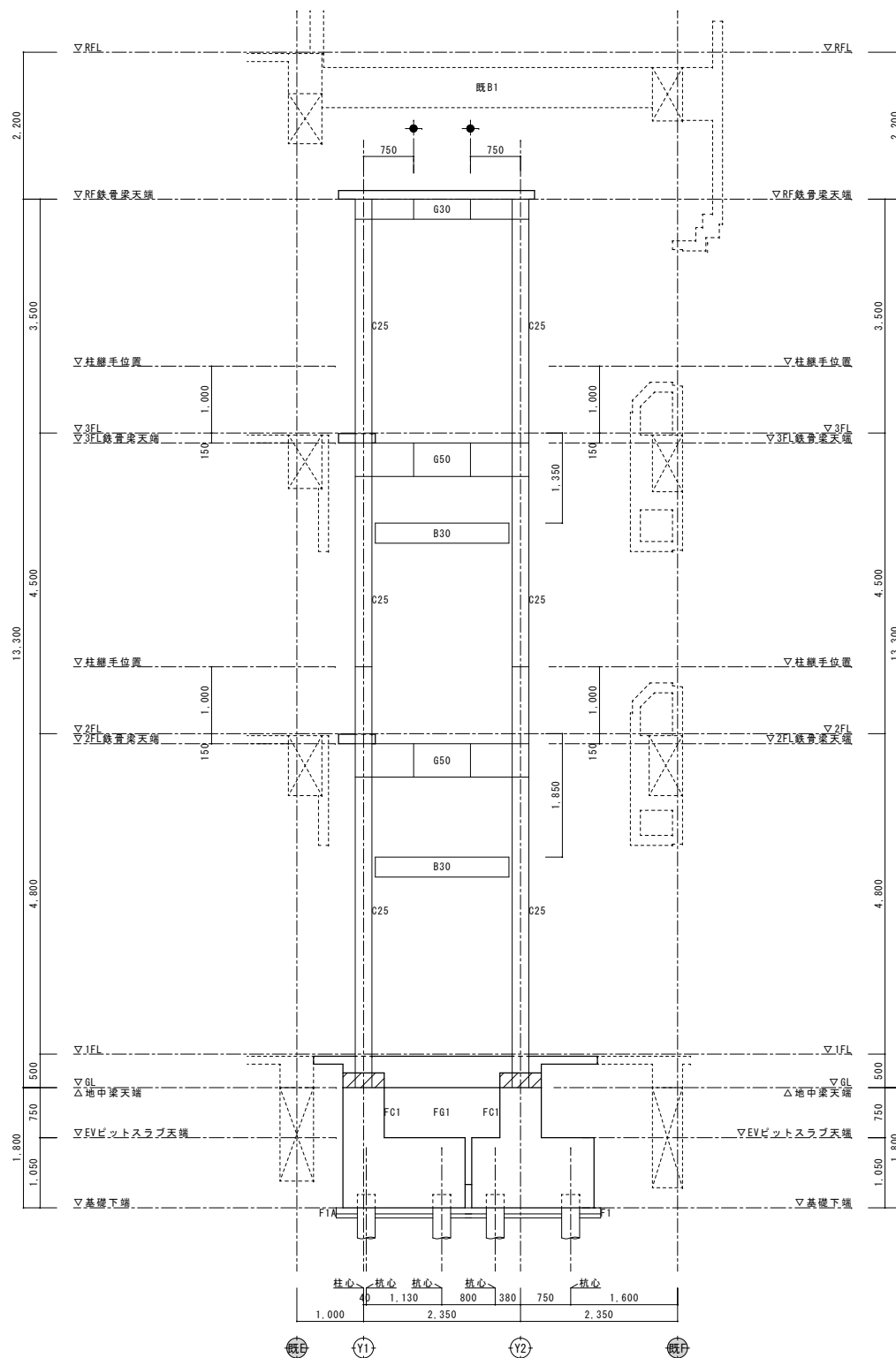


R階伏図

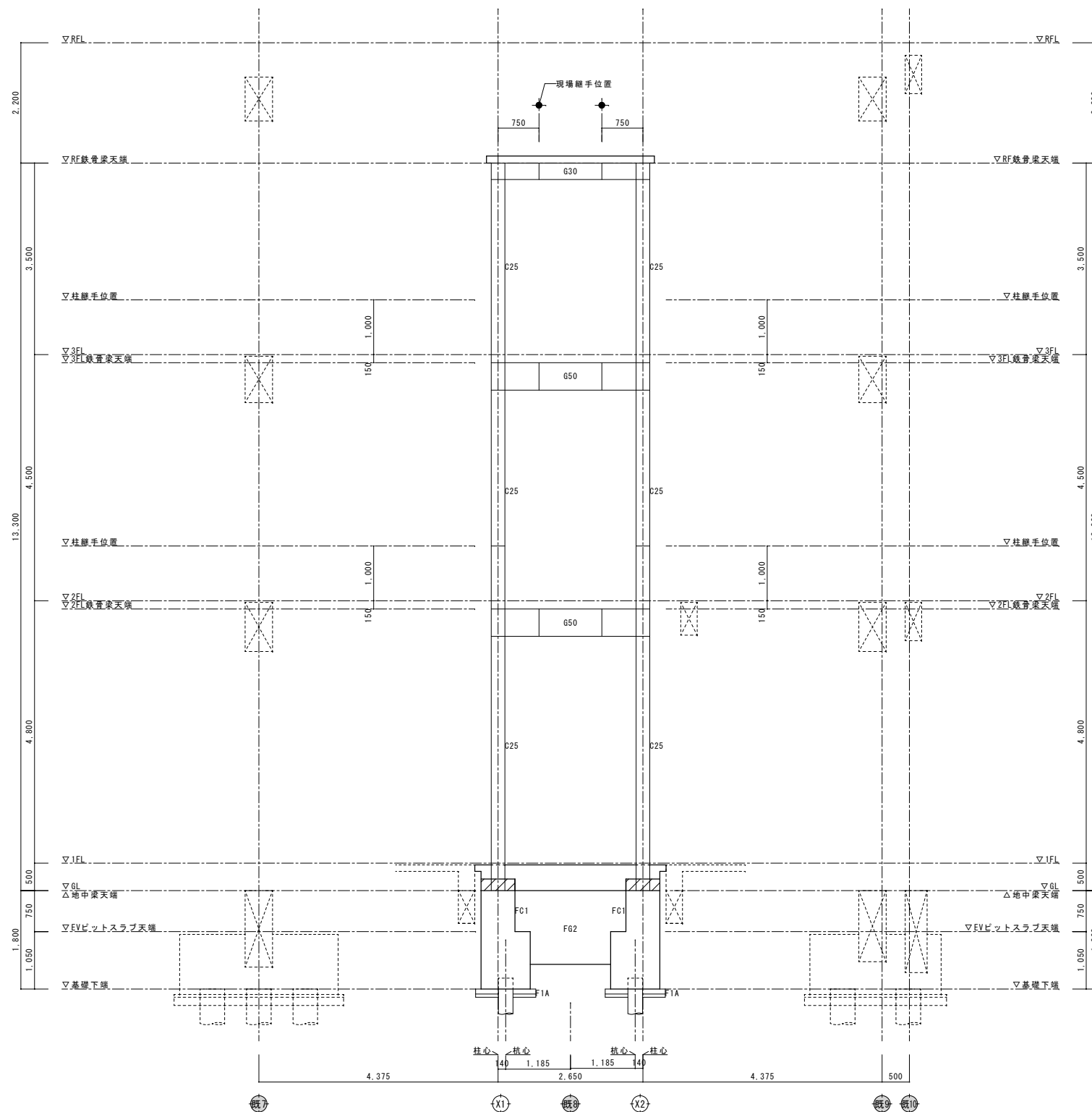
特記事項

- ← は、デッキ合流スラブ方向を示す。
- R階スラブ天端レベルは、RFL-2,070mmとする。
- R階鉄骨梁天端レベルは、RFL-2,200mmとする。
- 鉄骨梁継手位置は、柱心より750mm (X・Y方向共) とする。
- Y1通り鉄骨大梁上には、頭付スタッドボルト (φ16-@200、H=100mm) を溶接することとする。
- ★は雑詳細図参照とする。
- 「既〇〇」は既設部材を示し、詳細は既設部材リスト参照とする。
- 通り符号凡例  
①: 本建物で使用する通り符号  
②: 既設建物で使用する通り符号






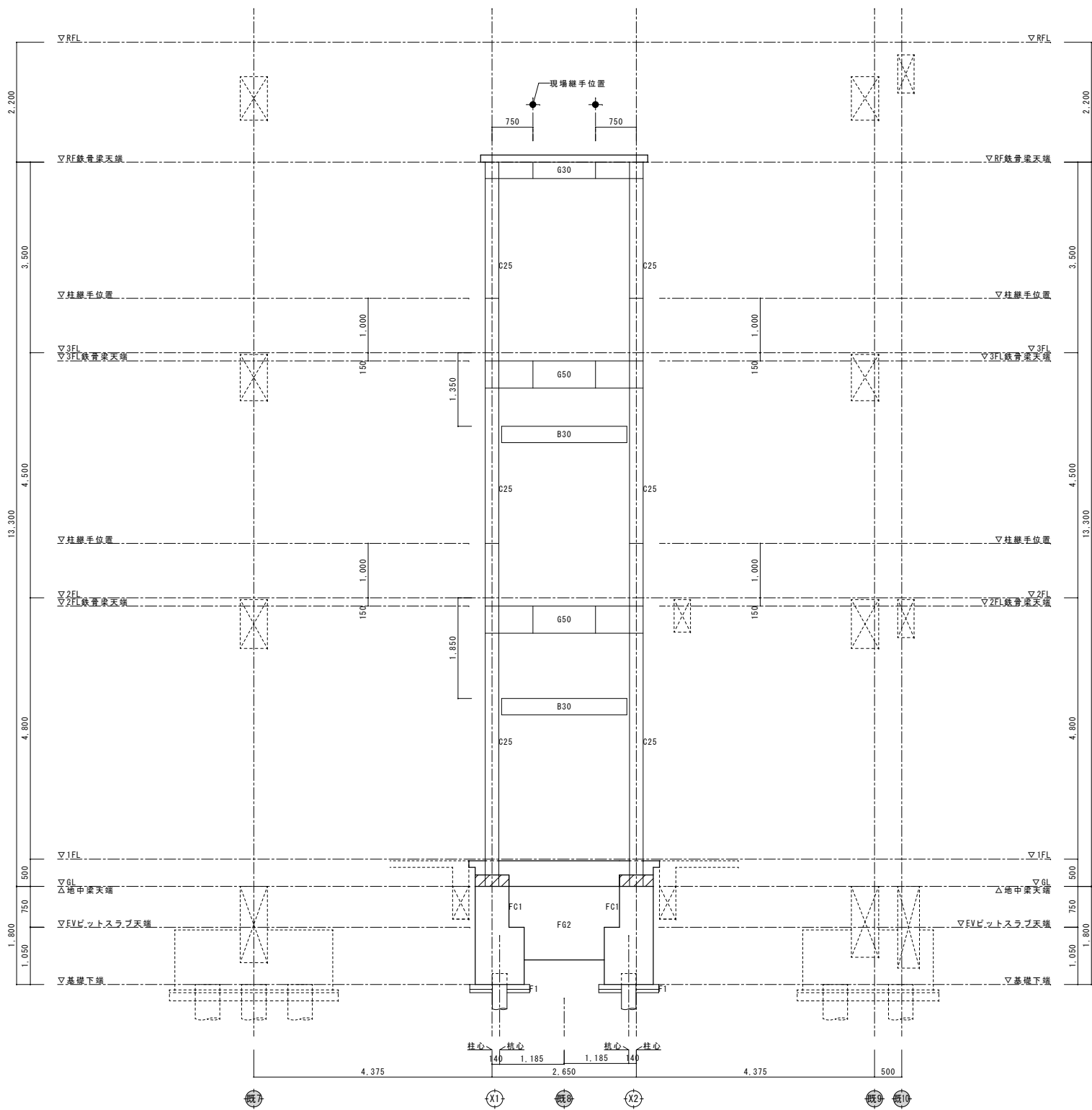


X 1・X 2 通り軸組図 1/50



Y 1 通り軸組図 1/50

- 特記事項
1.  は、基礎柱上増打部 (H=210mm) を示す。
  2. 通り符号凡例  
 : 本建物で使用する通り符号  
 : 既設建物で使用する通り符号

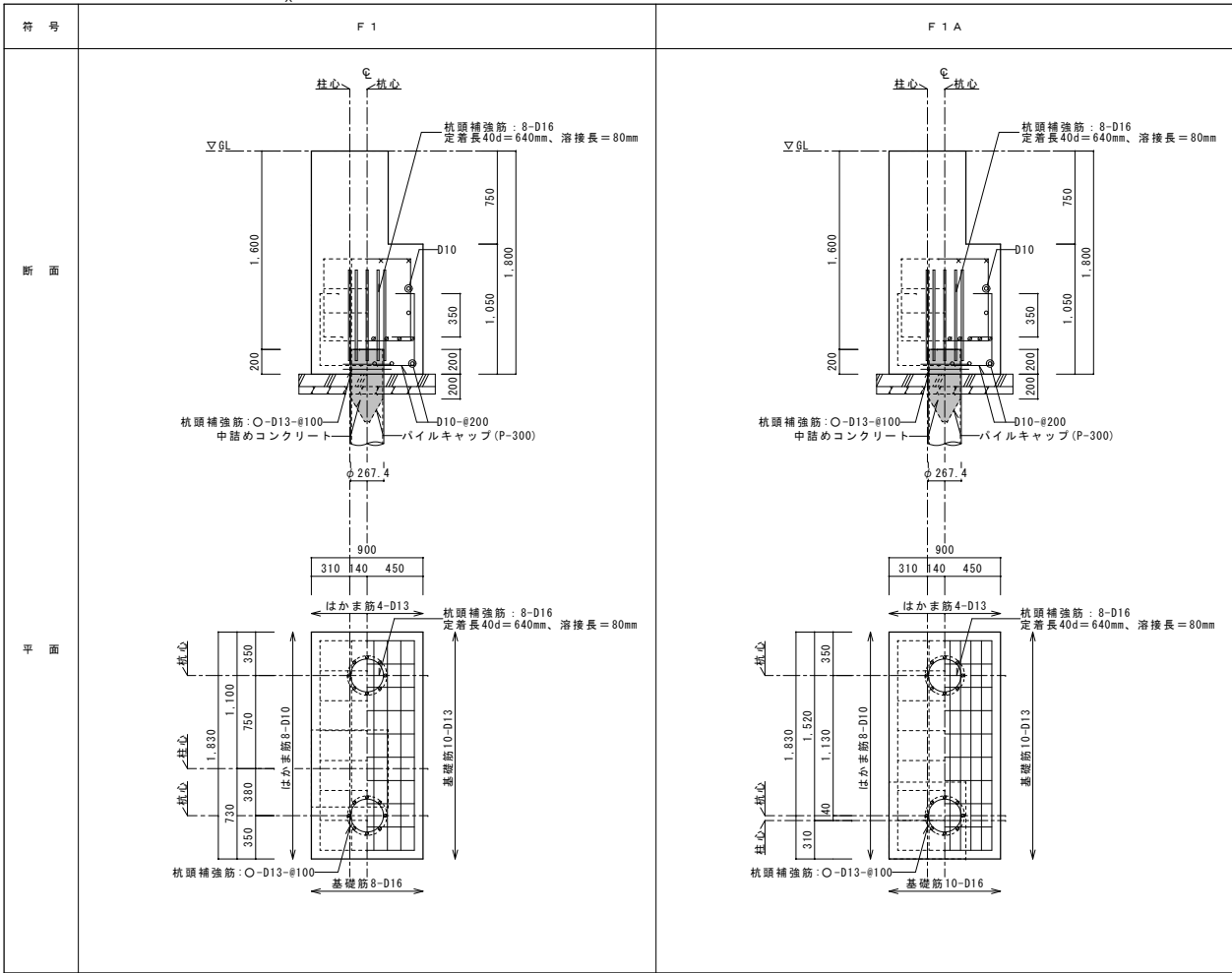


Y 2 通り軸組図 1/50

- 特記事項
- 現場継手位置は、基礎柱上増打部 (H=210mm) を示す。
  - 通り符号凡例  
○: 本建物で使用する通り符号  
●: 既設建物で使用する通り符号

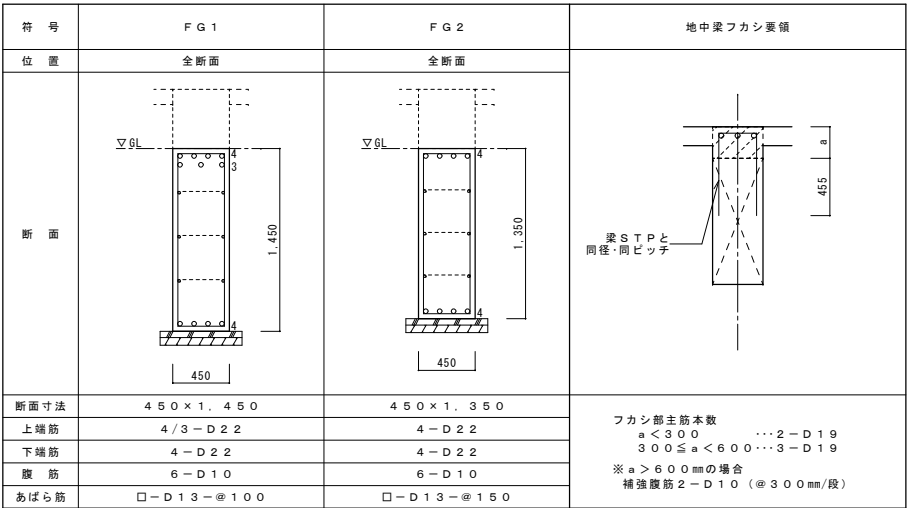
R C基礎断面リスト 1/30

※基礎かぶり厚：伏図X方向70mm、伏図Y方向84mm  
※均しCON厚=90mm、砕石厚=60mm



R C地中梁断面リスト 1/30

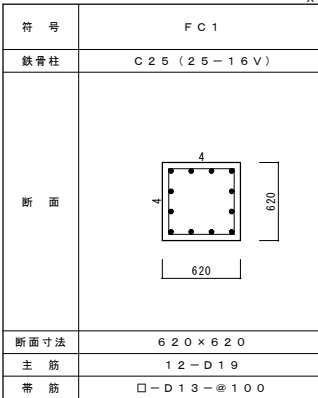
※伏図X方向かぶり厚：上端筋50mm、下端筋50mm、伏図Y方向かぶり厚：上端筋75mm、下端筋50mm  
※均しCON厚=50mm、砕石厚=60mm、幅止め筋D10-@1,000以内



R C床板断面リスト ※均しCON厚=50mm、砕石厚=60mm

符号	版厚	位置	短辺（主筋）方向	長辺（配筋）方向	備考
FS1	200	上端筋 下端筋	D13-@200 D13-@200	D13-@200 D13-@200	E Vビッドスラブ

R C基礎柱断面リスト 1/30



※トップフープ筋はダブルフープ形式とする。

共通事項  
使用材料リスト  
1) 鉄筋  
JIS G3112の規格品  
SD295 (D16以下)、SD345 (D19~D22)

記号	○	×	●	○
鉄筋径	D10	D13	D19	D22

2) コンクリート  
JIS A5308によるJIS表示許可工場で製造された普通コンクリート  
躯体CON（基礎、基礎柱、地中梁）：設計基準強度=24 スランプ=15 粗骨材=25  
躯体CON（1Fスラブ）：24-15-25  
躯体CON（上部躯体）：24-18-25  
均しCON：18-15-25  
躯体CON：S値補正分を設計基準強度に加算すること。

3) 鉄骨  
溶接部の試験：超音波探傷検査（第三者機関）  
鋼止め塗装：K5674、工場2回塗り、現場納入後タッチアップ2回塗り  
鉄骨の製作精度：（社）日本建築学会「鉄骨精度検査基準」  
ダイヤフラム板厚：接続する板厚の2サイズ以上アップとする。  
スカラップ：ノンスカラップ形式

鉄骨部材リスト

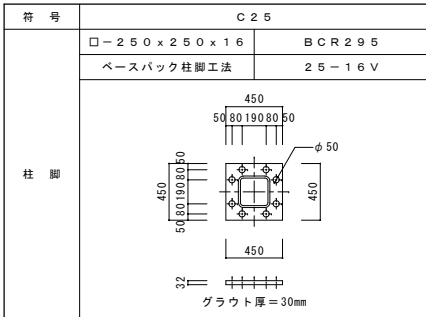
符号	部材	備考
C25	□-250×250×16 (BCR295)	・ベースバック柱脚工法25-16V ・通しダイヤフラム材質 (SN490C)

符号	部材	フランジ（※主材と同材質）	ウェブ（※主材と同材質）	H-T-B材質	備考
G50	H-500×200×10×16 (SN400B)	タイプA 2PLs-12x200x410 タイプB 4PLs-12x80x410 タイプC 2PLs-9x150x290 タイプD 4PLs-9x60x290	タイプH 60 タイプI 120	2PLs-9x320x170 2PLs-6x200x170	Y1通り大梁上：頭付スタッドボルトφ16-@200 (H=100mm)

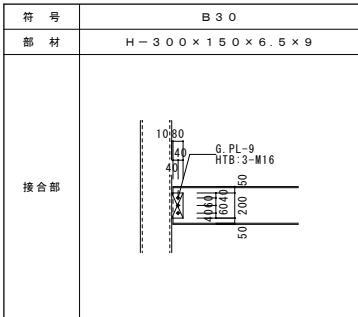
符号	部材	G.P.L	H-T-B材質	備考
B30	H-300×150×6.5×9 (SS400)	G.P.L-9 (SN400B)	3-M16	S10T

含成床版用 デッキプレート DPS1	QL-99-50 t=1.2mm (メッキ品)、または同等品以上	山上コンクリート厚=80mm ワイヤーメッシュφ6-150×150 デッキ方向：焼鉄せん溶接@600
--------------------------	----------------------------------	--

鉄骨柱脚リスト 1/30



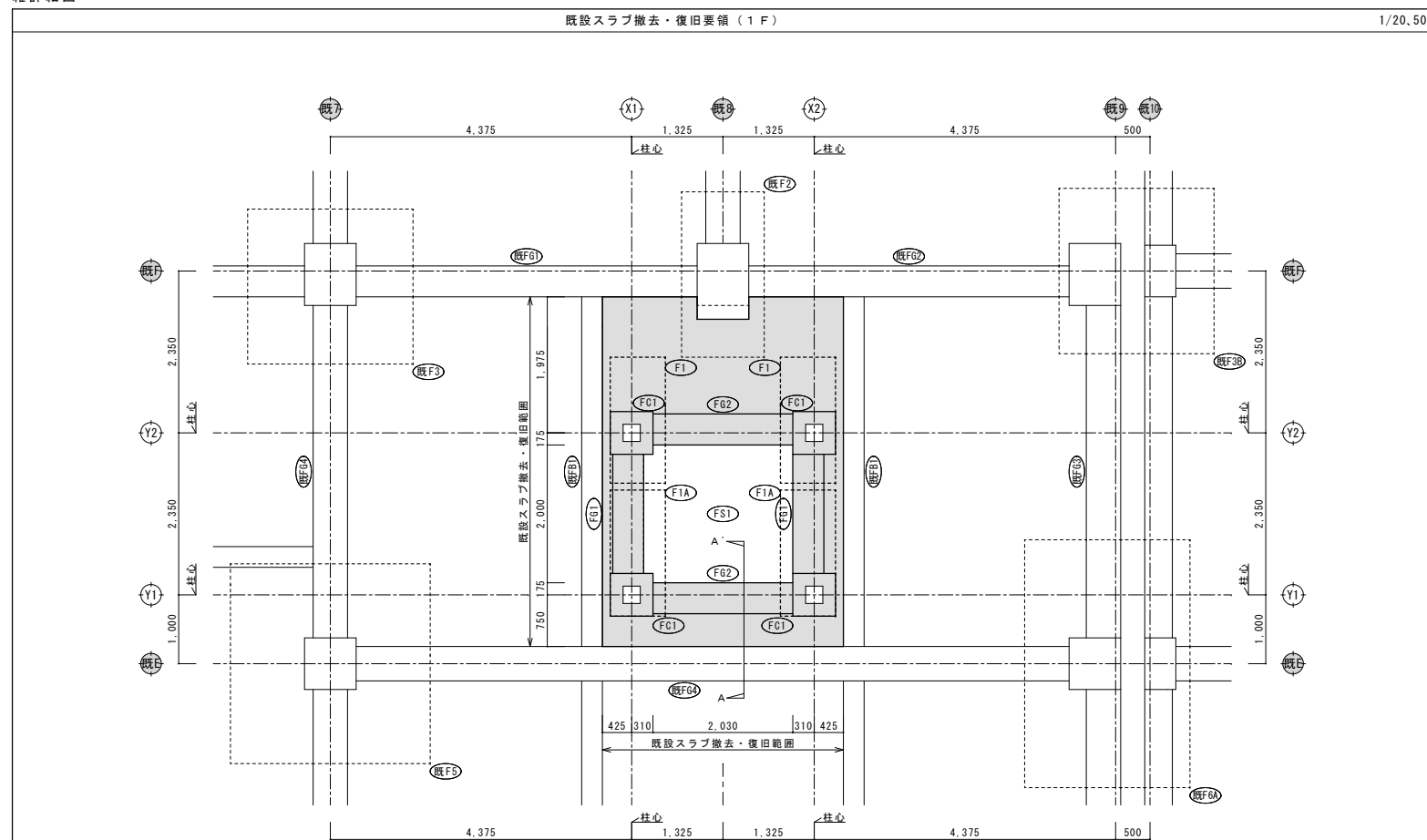
鉄骨ピン接合部リスト 1/30



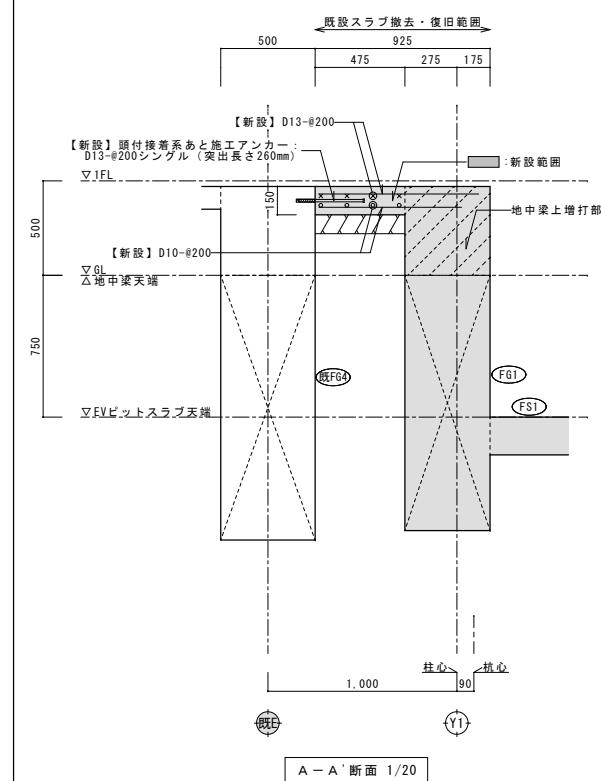
G.P.L材質：SN400B、HTB：S10T

E V鉄骨部材リスト ※各部材の詳細は、E V詳細図参照とする。

符号	部材	接合部	備考
吊り梁	H-125×125×6.5×9 (SS400)	G.P.L-6 (SN400B) HTB-2-M16 (S10T)	ファスナープレート：PL-12 (SN400B)
E V取付材	L-90×90×7 L-65×65×6 (SS400)	G.P.L-6 (SN400B) 中ボルト：2-M16 (SS400)	



基礎伏図 1/50

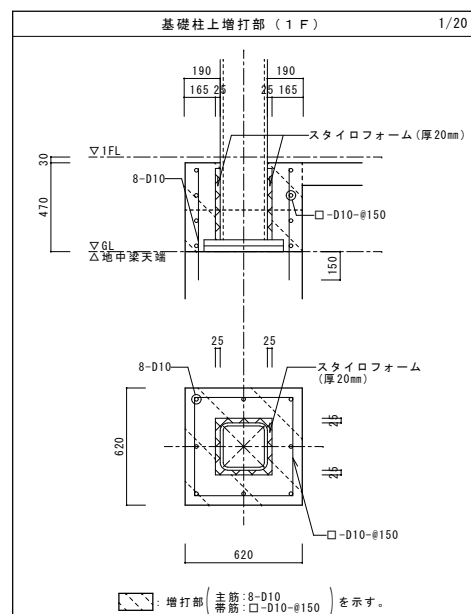


A - A' 断面 1/20

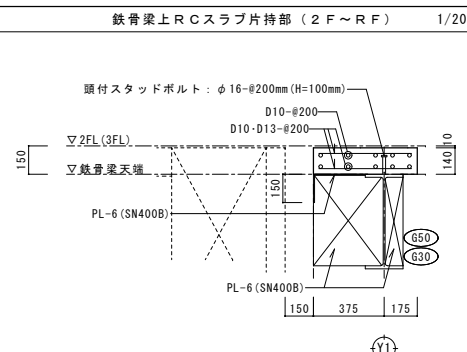
特記事項

1.  範囲は、既設スラブ撤去・復旧範囲を示す。
2. 既設スラブ復旧時においては、埋戻し土は適切に転圧を行いながら施工することとする。
3. 「既〇〇」は、既設部材を示し、既設部材リスト参照とする。
4. 通り符号凡例

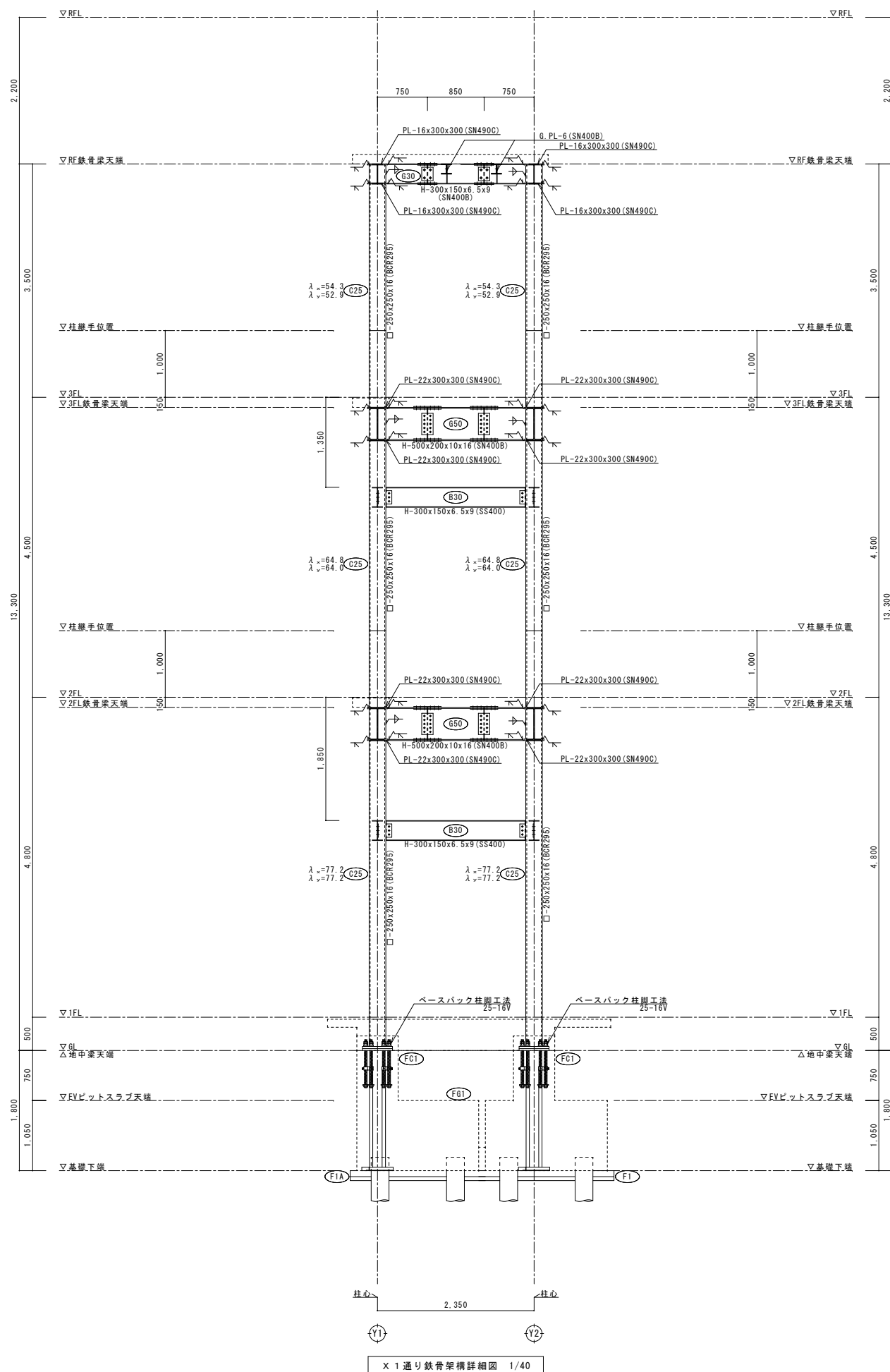
⊙：本建物で使用する通り符号  
⊙：既設建物で使用する通り符号



: 増打部 (主筋: 8-D10, 帯筋: □-D10-@150) を示す。

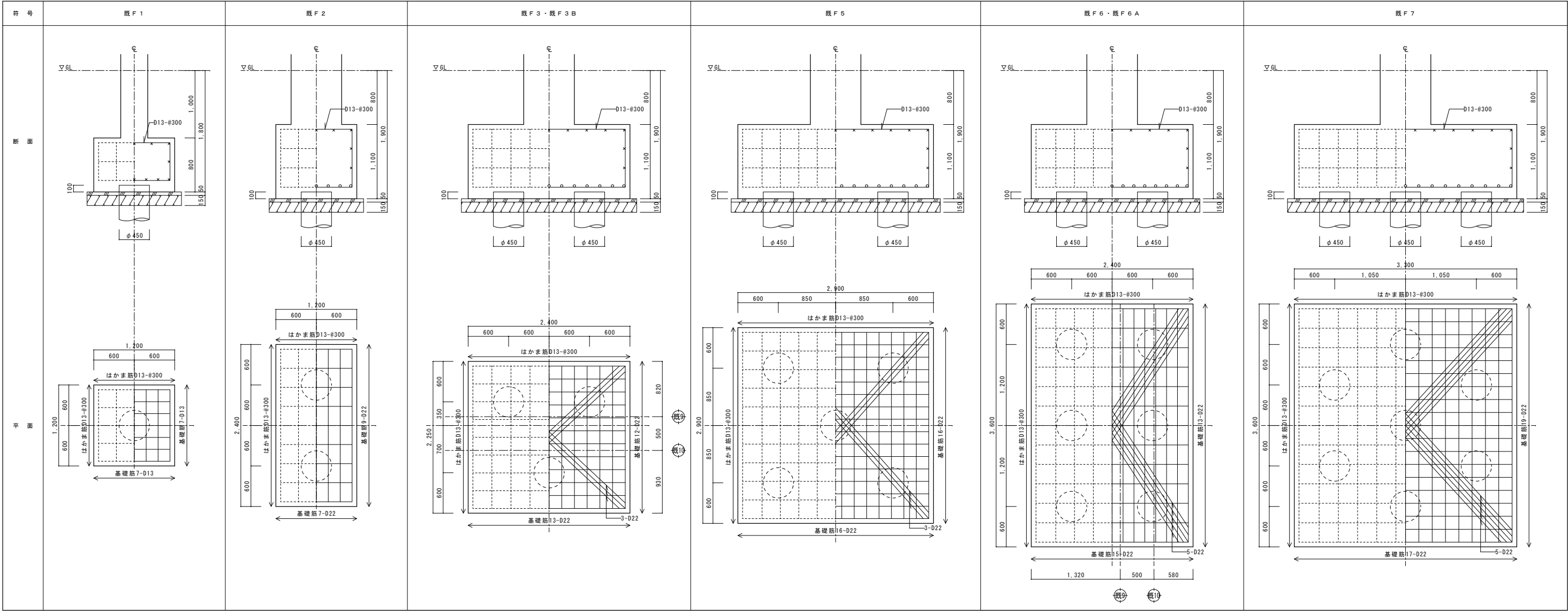


鉄骨梁上RCスラブ片持部（2F～RF）

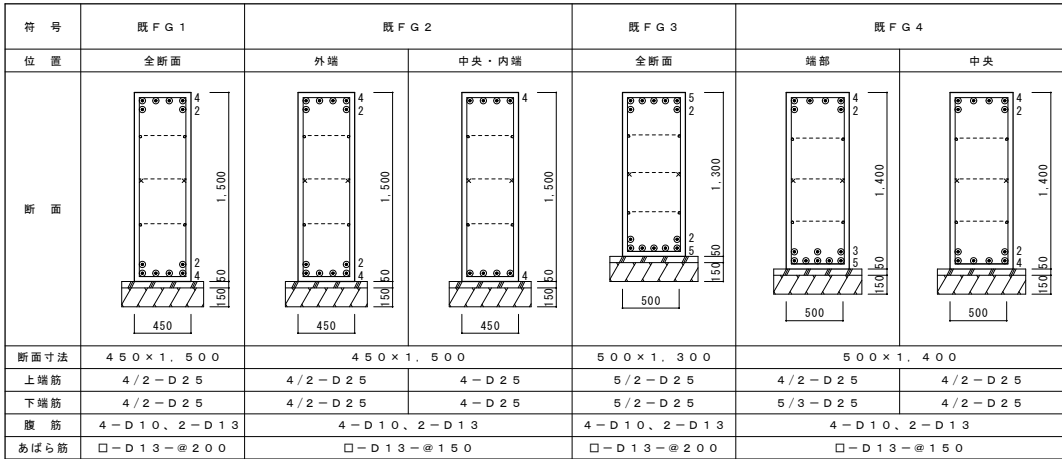


X 1 通り鉄骨架構詳細図 1/40

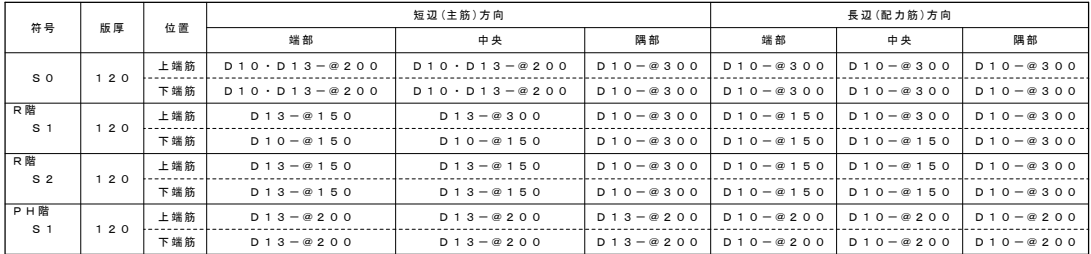
既設RC基礎断面リスト 1/30



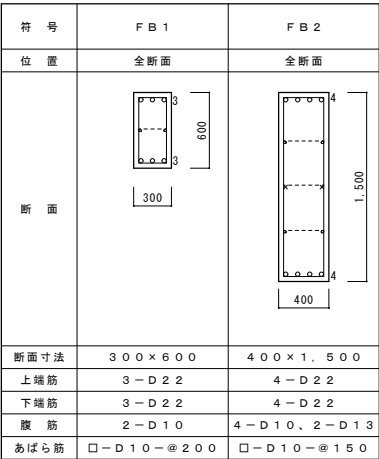
既設RC地中梁断面リスト 1/30



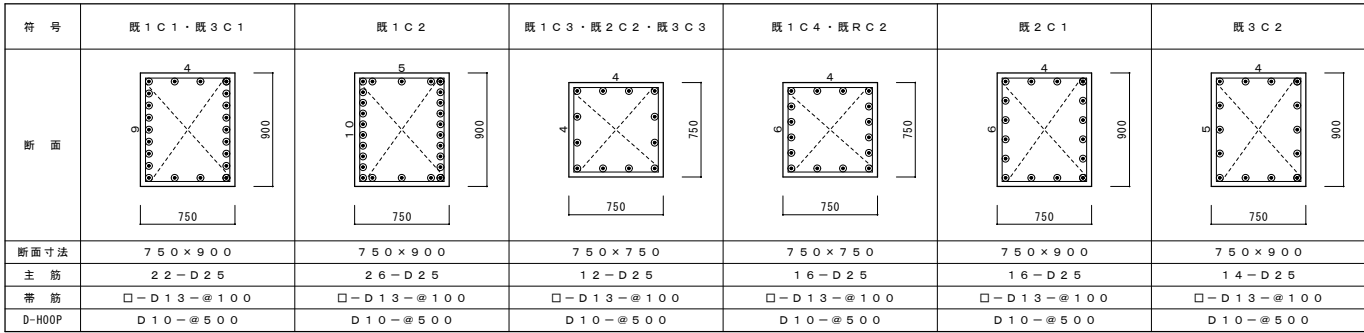
既設RC床版断面リスト



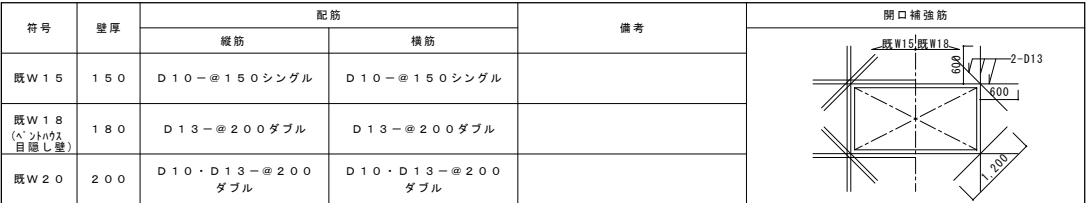
既設RC地中中小梁断面リスト 1/30



既設RC柱断面リスト 1/30



既設RC壁断面リスト





符 号	既2G1		既2G2		既2G3		既2G4	
位 置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央
断 面								
断面寸法	500×900		500×900		500×900		500×900	
上端筋	5/2-D25		5/2-D25		5/3-D25		5/2-D25	
下端筋	5/2-D25		5/2-D25		5/3-D25		5/2-D25	
腹 筋	4-D10		4-D10		4-D10		4-D10	
あばら筋	□-D13-@100		□-D13-@100		□-D13-@150		□-D13-@150	

符 号	既2G6	既3G1		既3G3		既3G4		既3G5
位 置	全断面	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断面
断 面								
断面寸法	500×1,000	450×850		500×800		500×850		500×900
上端筋	5-D25	4/2-D25	4-D25	5/2-D25	5-D25	4/2-D25	4-D25	4-D25
下端筋	5-D25	4/2-D25	4-D25	5/2-D25	5-D25	4/2-D25	4-D25	4-D25
腹 筋	4-D10	2-D10		2-D10		2-D10		4-D10
あばら筋	□-D13-@150	□-D13-@150		□-D13-@200		□-D13-@200		□-D13-@150

符 号	既RG1	既RG3		既RG4	既PG3	既PHG1	既PHG2
位 置	中央	両端	中央	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面							
断面寸法	450×800	500×800		500×850	500×750	450×700	500×1,000
上端筋	4-D25	5-D25	3-D25	4/2-D25	4-D25	4/2-D25	4/2-D25
下端筋	4-D25	5-D25	3-D25	4/2-D25	4-D25	4/2-D25	4/2-D25
腹 筋	2-D10	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10	4-D10
あばら筋	□-D10-@150	□-D13-@200		□-D13-@200	□-D13-@200	□-D10-@150	□-D13-@200

符 号	既B1	既B2	既B3	既B6		既B7	
位 置	全断面	全断面	全断面	両端	中央	両端	中央
断 面							
断面寸法	300×600	300×700	300×800	350×800		350×700	
上端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3/2-D22	3-D22	3-D22	3-D22
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3/2-D22	3-D22	3/2-D22
腹 筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10	
あばら筋	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@150	□-D10-@150		□-D10-@150	
巾止め筋	D10-@1,000	D10-@1,000	D10-@900	D10-@900		D10-@900	

工 事 仕 様 書 (電気設備)

## I. 工事概要

1. 工 事 名 称      宝達志水町役場庁舎改修工事
2. 工 事 場 所      宝達志水町 子浦 地内
3. 完 成 期 日    令和      年      月      日 （余裕期間制度試行工事適用の場合は、左記を完成日の期限とする。  
指定部分 ・ 無 ・ 有（指定期日：令和      年      月      日） 対象部分（      ）  
概成工期 ・ 無 ・ 有（令和      年      月      日）
- (1. 2.)

#### 4. 建物概要

建築物名稱	構造	階數	延面積 (㎡)	消防令別表第一	備考
役場庁舎	RC造	3 階建(地階 階.塔屋 1 階)			

5. 別契約の関連工事
- |           |            |             |            |            |
|-----------|------------|-------------|------------|------------|
| ・ 建築工事    | ・ 電気設備工事   | ・ 給排水衛生設備工事 | ・ 空調調和設備工事 | ・ 構内交換設備工事 |
| ・ 昇降機設備工事 | ・ 自家発電設備工事 | ・ 厨房機器設備工事  | ・ 屋外付帯工事   | ・ 植栽工事     |

## 6. 工事内容

宝達志水町庁舎改修工事に係る電気設備工事一式を行う。

## II. 工事仕様

1. 一般仕様

- 1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和4年版」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）令和4年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）令和4年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。
- 2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書・改修標準仕様書を適用する。
2. 特記仕様
- 章は●印のものを、特記事項で選択する項目は・印に○印の付いたものを適用する。
- 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
- 印と◎印の付いた場合は、共に適用する。

章	項 目	特 記 事 項
● 一 般 共 通 事 項	① 工事実績情報	請負金額 5, 0 0 0 千円以上の工事は工事実績情報登録を行う。(1.1.4)
	② 施工体制台帳の作成等	下請負に付する場合は、施工体制台帳を作成し、現場に備え付ける。また、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げる。(1.1.5(3))
	3 他工事との 取り合い	スリーブ、箱入れなど他工事との取り合いは、別表－1 によるものとし、施工に支障をきたさない時期までに、必要な位置、大きさ等を明示し、監督員と打ち合せる。(1.1.7)
	④ 工事の記録等	工事総合進捗表、工事日誌、工事出面報告書、打合せ記録、工事箇所図及び現況写真等を記載した工事報告書を月末ごとに提出する。(1.2.4)
	⑤ 施工条件	・ 新築工事 ○ 改修工事 ○ 執務並行改修 ・ 全館無人改修 (1.3.3) ・ 工事用車両の駐車場所等は図示による。(改1.3.3) ・ ----- ・
	6 発生材の処理等	・ 引渡しを要するもの (・ ) (1.3.9(2)) ・ 特別管理産業廃棄物 (・ ＰＣＢ使用機器 ・ 廃石綿 ・ ) ・ 現場で再利用を図るもの (・ ) ・ 再資源化を図るもの (・ 蛍光ランプ ・ コンクリート ・ アスファルト ・ 木材 ・ )
	7 再使用機材	・ 取外し後再使用するものは図示による。(改1.4.3)

●

一

共

通

事

項

8 事前調査

9 養生

10 撤去等

11 環境への配慮

12 機材の品質等

13 工事の  
創意工夫等

14 化学物質の  
濃度測定

15 中間検査

16 完成図

17 保全に関する  
資料

18 足場類

19 仮設間仕切・扉

20 仮設備

21 工事用電力等

22 監督員事務所等

P C B含有分析調査を  
石綿含有分析調査を

・ 行う（図示 箇所）  
・ 行う（図示 箇所）

・ 行わない  
・ 行わない

(改1.5.2)

1) 既存部分の養生範囲は、図示による。  
2) 養生の方法及び固定された備品・ロッカー等の移動は、図示による。

(改1.7.1)  
(改1.7.2)

1) 回収を要する機器及び配管の内容物  
2) 機器の撤去跡の壁面等の補修は、図示による。

(改1.8.1)  
(改1.8.6)

1) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品「公共工事」等は下記による。また、判断基準を満たすことを確認する。  
・ 照明制御システム  
・ 変圧器  
・ 下塗用塗料（重防食）  
2) 本工事の建物屋内で使用する揮発性有機化合物を放散する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のとおりとする。

(1.4.1(1))  
(1.4.1(2))

① JIS又はJASのF☆☆☆☆規格品  
② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品  
③ 下記表示のあるJAS規格品  
a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用  
b. 接着剤等不使用  
c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用  
d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用  
e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用  
f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用

1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。  
ただし、仮設に使用する機材は、新品に限らない。  
2) 下表に示す機材等の製造者等は次の①から⑥までの事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する評価の書面を提出して、監督員の承諾を受ける。ただし、製造者等が「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新年版）」（（一社）公共建築協会）等に記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。  
① 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。  
② 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。  
③ 安定的な供給が可能であること。  
④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。  
⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。  
⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられていること。

機 材

名 称

LED照明器具（一般屋内用に限る）

絶縁監視装置

照明制御装置

蓄電池

サージ防護デバイス（SPD）

交流無停電電源装置

可変速運転用インバータ装置

太陽光発電装置

盤類

監視カメラ装置

高圧機器

中央監視制御装置

受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。

(1.5.6)

建築物の室内空気中の濃度測定を  
測定時期、測定対象化学物質、測定方法、測定対象室、測定箇所数等は図示による。

・ 行う  
・ 行わない

(1.5.7)

中間検査の実施

・ 無  
・ 有（時期  
・ 天井地下完了時  
・ ）

(1.6.2)

原因及び製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）提出する。

(1.7.2)

保全に関する資料

保全に関する資料は次のとおり、 2 部提出する。  
①建築物等の利用に関する説明書※  
②機器取扱説明書（主要機器一覧表とも）  
③機器性能試験成績書（総合試運転報告書とも）  
④官公署届出書類  
※「建築物等の利用に関する説明書」作成の手引き  
手引きのダウンロード [http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun\\_kentikubuturiyou\\_tebiki.htm](http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_kentikubuturiyou_tebiki.htm)

(1.7.3)

内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。

(改2.2.2)

設置箇所、種別及び塗装仕上げは、図示による。

(改2.2.3)

仮設備を

・ 設ける（図示による）  
・ 設けない

(改2.14.1)

・ 既存施設に電力量計等を入れて使用できる（有償）  
・ 発電機又は北陸電力引込み等

(改2.2.4)

1) 監督員事務所を ※ 設けない  
2) 監督員事務所に設ける備品等  
・ 保護帽  
・ 墜落制止用器具  
・ 懐中電灯  
・ 書棚  
・ 黒板  
・ 長靴  
・ 合羽  
・ 机  
・ 椅子  
・ 寒暖計  
・  
3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。

(2.1.1(4))

●

一

共

通

事

項

23

快適トイレ  
(快適トイレ実施要領に基づく)

・ 設置する

・ 設置しない(別途工事で設置等)

※ 監督員へ提案・協議し、快適トイレを設置することができる

快適トイレを設置した場合は、設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。

24

工事現場の表示板

工事現場には、下記表示板を設置する。(記入例)

上段の地色は白色

文字は青色

下段の地色は青色

文字は白色

工 事 名

工 期 自 年 月 日 ～ 至 年 月 日

発注者 宝達志水町

設 計 (建築・設備委託業者名を記入)

監 理 (建築・設備委託業者名を記入)

施 工 建 築 (施工業者名を記入)

電 気 (施工業者名を記入)

機 械 (施工業者名を記入)

60cm  
～75cm

90cm

設計及び監理の欄は、実施設計及び工事監理が委託発注された場合。  
工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は角ゴシック体とする。

25

埋め戻し土

※ 根切り土の中の良質土(ただし、管の周囲は山砂)

・ 山砂

26

建設発生土の処理

・ 現場内で処理

・ 構内指示の場所に堆積

・ 構内指示の場所に敷き均し

・ 場外搬出適正処理 (「再生資源利用促進計画書及び実施書」を監督員に提出のこと。)

※ 指定(想定)搬出先

受入場所：

受入時間帯： 時 分 ～ 時 分

仮置き等：

27

塗装

次の金属露出配管(亜鉛めっき面を含む)は、塗装を行う。

○ 屋外 ○ 屋内 ○ 居室 ・ 機械室 )

28

はつり

1) 放射線透過検査を ・ 行う ※ 行わない(但し、鉄筋探査は行う。)

2) 配管貫通部の穴開けは、ダイヤモンドカッターとし、場所・口径は図示による。

3) 溝はつまり深さは、図示による。

4) 防水箇所の貫通処理方法は図示による。

29

あと施工アンカー

1) 埋込み配管等の探査の範囲及び方法は、図示による。

2) 施工後確認試験(引張試験)を ・ 行う ( 箇所) ・ 行わない

30

県内産材料

宝達志水町建設工事標準請負契約約款(以下「請負契約約款」という。)第6条の2第7項により、調達する工事材料は石川県産するように努めることについて、工事着手前に使用材料確認願いを提出する。

31

材料検査

請負契約約款第13条第2項に定める監督員の検査を受けて使用する工事材料は次のとおり。

○ 受変電機器 ・ 自家発電装置 ・ 照明器具類 ・ 配電盤類 ・ 避雷針

・ 通信機器 ・ 構内交換機器 ・ 接地材料 ・

32

工事写真等の記録

1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領(令和3年改定)」による。

2) 請負契約約款第14条第3項に定める工事写真は次のとおり。

・ 地中埋設配管部 ・ 機器の基礎及びアンカーボルト埋設部 ・ 塗装工程

・ 接地極埋設部 ○ 天井、トレンチ内の隠えい箇所 ・ 躯体内隠えい部

3) 区分による規格、枚数、部数は次による。

区 分	大きさ(mm)	撮 影 枚 数	部数	備 考
着工前	100×148程度	監督員の指示による	1部	工事期間中は現場事務所に整理保管し、
工事中	85×115程度	監督員の指示による	1部	工事完成時に提出する。
完成時	100×148程度	監督員の指示による	1部	A4用紙に整理したもの

4) 完成写真の撮影は、次による。 ・ 建築写真撮影業者 ※ 建築写真撮影業者以外

5) 写真はA4版用紙に順序よく貼付又は印刷し、説明事項を記入して提出する。

6) 中間検査又は監督員の指示により、手直しを命じられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添付し提出する。

33

部分払いの対象工事材料

請負契約約款第37条第1項に定める部分払の対象とする工事材料は次のとおり。

・ 機器 ・ 盤 ・ 配管、配線 ・

34

火災保険等

請負契約約款第49条に定める火災保険等は次のとおり。(加入期間は着工日より引渡日まで)

※ 組立保険 ・ 建設工事保険

章		項		目		特										記										事										項																																												
●	一般共通事項	35	耐震施工	次に示す事項を除き、すべて独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」による。 (2-2. 1. 13(2)～(4)) 1) 機器の設計用標準水平震度及び耐震クラスは図示による。図示がなければ次による。 <table><tr><th rowspan="3">設置場所</th><th colspan="2">耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）</th></tr><tr><th>特定の施設</th><th>一般の施設</th></tr><tr><th>・ 耐震クラス S</th><th>・ 耐震クラス A</th></tr><tr><td>上層階、屋上及び塔屋</td><td>2. 0</td><td>1. 5 &lt; 2. 0 &gt;</td></tr><tr><td>中間階</td><td>1. 5</td><td>1. 0 &lt; 1. 5 &gt;</td></tr><tr><td>一階及び地下階</td><td>1. 0 ( 1. 5 )</td><td>1. 0</td></tr></table> 注1 設置場所の区分は、機器等を支持する床部分により適用し、天井面（上階床）より支持する機器等は直上階を適用する。 注2 上層階は、2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。 注3 ( ) 内の値は水槽類（受水槽、高置水槽、消火関係水槽、オイルタンク等）、< > 内の値は防振支持の機器（防振材・防振装置を介して設置される機器）に適用する。 2) 地域係数は1. 0とする。 3) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1／2とし水平地震力と同時に働くものとする。 4) 1 k N以下の軽微な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し据付け又は取付けを行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。																										設置場所	耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）		特定の施設	一般の施設	・ 耐震クラス S	・ 耐震クラス A	上層階、屋上及び塔屋	2. 0	1. 5 < 2. 0 >	中間階	1. 5	1. 0 < 1. 5 >	一階及び地下階	1. 0 ( 1. 5 )	1. 0																																			
				設置場所	耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）																																																																											
					特定の施設	一般の施設																																																																										
					・ 耐震クラス S	・ 耐震クラス A																																																																										
				上層階、屋上及び塔屋	2. 0	1. 5 < 2. 0 >																																																																										
				中間階	1. 5	1. 0 < 1. 5 >																																																																										
				一階及び地下階	1. 0 ( 1. 5 )	1. 0																																																																										
				③⑥	電気工事士	500kW以上の自家用電気工作物においては第一種電気工事士により施工を行うように努める。																																																																										
						③⑦	電線本数・管路等	分電盤、制御盤、端子盤等の二次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は機能性を優先し、図面と多少相違しても差し支えない。ただし、相違する場合は監督員の承諾を受ける。また、機械室の露出配線は、金属管にて施工し、全長にわたって接地線を設ける。																																																																								
								③⑧	名札の義務	請負金額10,000千円以上の元請工事の現場代理人及び主任（監理）技術者は顔写真付き名札を常時着用する。下記の寸法等は、参考であり、社員証等に替えることができる。 <table><tr><td>55mm</td><td>18mm</td><td>2mm</td><td>13mm</td><td>42mm</td><td>2mm</td><td>30mm</td><td>2mm</td><td>91mm</td></tr><tr><td colspan="8">〇〇建設株式会社証</td></tr><tr><td colspan="4">氏名 △ △ 太 郎</td><td colspan="4">(顔写真)</td></tr><tr><td colspan="4">発行日 令和 年 月 日</td><td colspan="4">カラー写真</td></tr><tr><td colspan="4">代表者 □□ 謹一</td><td colspan="4">貼 付</td></tr><tr><td colspan="4">代表印</td><td colspan="4">貼 付</td></tr></table>																										55mm	18mm	2mm	13mm	42mm	2mm	30mm	2mm	91mm	〇〇建設株式会社証								氏名 △ △ 太 郎				(顔写真)				発行日 令和 年 月 日				カラー写真				代表者 □□ 謹一				貼 付				代表印			
55mm	18mm	2mm	13mm							42mm	2mm	30mm	2mm	91mm																																																																		
〇〇建設株式会社証																																																																																
氏名 △ △ 太 郎										(顔写真)																																																																						
発行日 令和 年 月 日										カラー写真																																																																						
代表者 □□ 謹一										貼 付																																																																						
代表印										貼 付																																																																						
③⑨	退職金共済制度	受注者は建設業退職金共済制度に加入し、本工事の掛金収納書を工事請負契約締結後1ヵ月以内に監督員を通じて発注者に提出する。また、現場事務所に適用標識（シール）を掲示する。																																																																														
		④⑩	過積載等の防止	1) 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませない。 2) さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませない。 3) 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長しないようにする。 4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずる。 5) 建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにする。 6) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和42年8月2日法律第131号。以下「法」という。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進する。 7) 1) から6) につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導する。																																																																												
				41	景観への配慮	本工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく下記の事業であり、景観に配慮した施工に努める。 ・ 重点事業 ・ 一般事業																																																																										
						42	総合評価方式における技術提案	「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく、「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。履行にあたり疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議する。																																																																								
								④③	電子納品	※ 行う（「電子納品仕様書」による。） ・ 行わない 電子納品仕様書 1 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。 ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。 <table><tr><th colspan="2">名 称</th></tr><tr><td colspan="2">営繕工事電子納品要領（令和3年改定）</td></tr><tr><td colspan="2">官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和4年改定）</td></tr></table> 基準・要領類のダウンロード <a href="http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html">http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html</a> 2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にCD-R、DVD-R又はBD-Rで1部納品する。 3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。 工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。																										名 称		営繕工事電子納品要領（令和3年改定）		官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和4年改定）																																								
										名 称																																																																						
										営繕工事電子納品要領（令和3年改定）																																																																						
										官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和4年改定）																																																																						

章		項		目		特										記										事										項													
●	一般共通事項	44	公共事業労務費調査の協力	受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。工期経過後においても同様とする。 ① 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をする。 ② 調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力する。 ③ 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行う。 ④ 下請負に付する場合には、当該下請工事受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む）が前各号と同様の義務を負う旨を定める。																																													
				④⑤	事故の補償	受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）																																											
						1	照明用ポール	内蔵する開閉器 ※ なし（取付板のみ） ・ 配線用遮断器 ・ カットアウトスイッチ (1. 4. 2(14))																																									
								○	2	分電盤等	1) キャビネット材質、仕上げ ・ 鋼板製指定色塗装 ・ 鋼板製溶融亜鉛めっき (1. 7. 3) ・ ステンレス鋼板製指定色塗装 ・ 2) 電力量計 ・ 検定付 ・ 無検定 (1. 7. 6)																																						
											電	3	電気自動車用充電装置	・ 急速充電装置 ・ 普通充電装置（定格電圧 ・ 100V ・ 200V) (1. 14. 1)																																			
														4	電線の接続	・ 高圧ケーブルの端末処理を行う場合は、被覆の伸縮対策を施す。 (2. 1. 1)																																	
																力	5	配管引込部	地盤変位への対応 ※ 小規模 ・ 中規模 ・ 大規模 (2. 1. 13(5))																														
																			6	導入線	長さ1m以上の通線しない配管には 1. 2mm以上の樹脂被覆鉄線を挿入する。 (2. 2. 9(3))																												
																					7	管の埋設深さ	埋設深さは原則として、構内道路、高圧ケーブル、幹線ケーブルは（・ 60cm ・ cm）、その他は（・ 30cm ・ cm）とする。 (2. 12. 2)																										
																							8	標識シート等	1) 地中配線に標識シート（倍折）を敷設する。 (2. 12. 4) 2) 埋設標（・ コンクリート製 ・ 樹脂製 ・ 鉄製）・ 要（図示箇所） ・ 不要 (2. 12. 5)																								
9	雷保護接地極	・ 板状 ・ 垂直 ・ 水平 ・ 環状 ・ 網状 ・ 構造体利用 (2. 17. 4)																																															
		10	施工の試験	1) 構造体利用等の接地極における接地抵抗測定の時期及び回数（ ） (2. 18. 2) 2) 一般照明の照度測定を ・ 行う（改修は対象室の改修前後） ・ 行わない (改2. 1. 1)																																													
				●	受変電設備	1	キュービクル式配電盤等																		1) キャビネット材質、仕上げ及び電力量計は、電力設備の分電盤等による。 (1. 1. 3) (1. 1. 5) 2) 温度上昇性能試験を ・ 行う ※ 行わない (1. 9. 1)																								
								2	交流遮断器	操作方式 ・ 手動ばね操作方式 ・ 電気操作方式 (1. 1. 6(1))																																							
										3	高圧進相コンデンサ等	1) 進相コンデンサ絶縁方式 ・ 油入 ・ モールド ・ ガス（SF6を除く） (1. 1. 6(3)) 2) 直列リアクトル絶縁方式 ・ 油入 ・ モールド (1. 1. 6(4))																																					
												○	電力貯蔵設備	1	交流無停電電源装置										・ 常時インバータ給電方式 ・ ラインインタラクティブ方式 ・ 常時商用給電方式 (2. 2. 1) 停電補償時間 分 (2. 2. 7)																								
																2	電力平準化用蓄電装置	1) 機能（電力平準機能、電力補償機能及び放電停止機能）は図示による。 (2. 3. 1(2)) 2) 蓄電池 ※ リチウム二次電池 ・ 鉛蓄電池 ・ (2. 3. 5(1)) 3) 蓄電池の容量、期待寿命、充放電回数及び放電時間は図示による。 (2. 3. 5(2))																															
																		○	ディーゼル発電装置	運転時間 時間 (1. 1. 1(5))																													
																				2	太陽光発電装置	1) 自立運転を ・ 行う ・ 行わない (1. 7. 1(3)) 2) 太陽電池アレイの公称出力は、図示による。 (1. 7. 2(2))																											
																						3	その他	1) 燃料油の種別及び配管等材料は、図示による。 (1. 1. 7. 1) (1. 1. 8) 2) 系統連系を ・ する ・ しない (1. 4. 1(㊦)) 等																									
○	通信・情報設備																							1	端子盤等	キャビネット材質及び仕上げは、電力設備の分電盤等による。 (1. 4. 2)																							
		2	機器仕様																							詳細機器仕様は、図示による。 (1. 5. 1) 等																							
				3	標識シート等	標識シート等は、電力設備の標識シート等による。 (2. 11. 3) (2. 11. 4)																																											
						4	テレビ共同受信設備	受信調査を ・ 行う（ チャンネル） ・ 行わない (2. 19. 3)																																									
								○	中央監視制御設備	1	警報盤															信号の伝送方式は、図示による。 (1. 2. 1)																							
												2	記録装置	印字方式は、図示による。 (1. 4. 4)																																			

章		項		目		特										記										事										項																																																									
○	その他	1	接地極	接地極の材料は下記による。なお接地棒EB(14φ)の長さは 1,500mm以上とし、10φは、W=30 L=900mm以上、14φはW=40 L=1,200mm以上 としともよい。 <table><tr><th>接 地 の 種 類</th><th>記 号</th><th>接地抵抗値</th><th>接 地 極</th></tr><tr><td>・ 共 同 接 地</td><td>E<sub>A</sub> E<sub>B</sub> E<sub>C</sub> E<sub>D</sub></td><td>Ω 以下</td><td>・ EB (14φ) × 3 連－ 組 ・ EP－900 × 1</td></tr><tr><td>・ 共 同 接 地</td><td>E<sub>A</sub> E<sub>C</sub> E<sub>D</sub></td><td>Ω 以下</td><td>・ EB (14φ) × 3 連－ 組 ・ EP－900 × 1</td></tr><tr><td>・ A 種</td><td>E<sub>A</sub></td><td>10 Ω 以下</td><td>・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1</td></tr><tr><td>・ B 種</td><td>E<sub>B</sub></td><td>Ω 以下</td><td>・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1 ・ EB (14φ) × 3 連－ 組</td></tr><tr><td>・ C 種</td><td>E<sub>C</sub></td><td>10 Ω 以下</td><td>・ EP－900 × 1 EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)</td></tr><tr><td>・ D 種</td><td>E<sub>D</sub></td><td>100 Ω 以下</td><td>EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)</td></tr><tr><td>・ D 種 ELCB用</td><td>E<sub>D</sub> ELCB</td><td>100 Ω 以下</td><td>・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1</td></tr><tr><td>・ 高圧避雷器</td><td>E<sub>LH</sub></td><td>10 Ω 以下</td><td>・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1</td></tr><tr><td>・ 低圧避雷器</td><td>E<sub>LL</sub></td><td>10 Ω 以下</td><td>・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1</td></tr><tr><td>・ 雷保護設備</td><td>E<sub>L</sub></td><td>50 Ω 以下</td><td>・ EB (14φ) × 2 連－ 2 組 ・ EP－600 × 2</td></tr><tr><td>・ 構造体接地</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 交換機用</td><td>E<sub>t</sub></td><td>Ω 以下</td><td>EB (14φ) × 3 連－ 組 ・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1</td></tr><tr><td>・ 通信用</td><td>E<sub>At</sub></td><td>10 Ω 以下</td><td>EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)</td></tr><tr><td>・ 通信用</td><td>E<sub>Dt</sub> E<sub>Da</sub></td><td>100 Ω 以下</td><td>EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)</td></tr><tr><td>・ 測定用</td><td>E<sub>o</sub></td><td></td><td>EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)</td></tr></table>																										接 地 の 種 類	記 号	接地抵抗値	接 地 極	・ 共 同 接 地	E <sub>A</sub> E <sub>B</sub> E <sub>C</sub> E <sub>D</sub>	Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 組 ・ EP－900 × 1	・ 共 同 接 地	E <sub>A</sub> E <sub>C</sub> E <sub>D</sub>	Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 組 ・ EP－900 × 1	・ A 種	E <sub>A</sub>	10 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1	・ B 種	E <sub>B</sub>	Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1 ・ EB (14φ) × 3 連－ 組	・ C 種	E <sub>C</sub>	10 Ω 以下	・ EP－900 × 1 EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)	・ D 種	E <sub>D</sub>	100 Ω 以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)	・ D 種 ELCB用	E <sub>D</sub> ELCB	100 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1	・ 高圧避雷器	E <sub>LH</sub>	10 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1	・ 低圧避雷器	E <sub>LL</sub>	10 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1	・ 雷保護設備	E <sub>L</sub>	50 Ω 以下	・ EB (14φ) × 2 連－ 2 組 ・ EP－600 × 2	・ 構造体接地				・ 交換機用	E <sub>t</sub>	Ω 以下	EB (14φ) × 3 連－ 組 ・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1	・ 通信用	E <sub>At</sub>	10 Ω 以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)	・ 通信用	E <sub>Dt</sub> E <sub>Da</sub>	100 Ω 以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)	・ 測定用	E <sub>o</sub>		EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)
				接 地 の 種 類	記 号	接地抵抗値	接 地 極																																																																																						
				・ 共 同 接 地	E <sub>A</sub> E <sub>B</sub> E <sub>C</sub> E <sub>D</sub>	Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 組 ・ EP－900 × 1																																																																																						
				・ 共 同 接 地	E <sub>A</sub> E <sub>C</sub> E <sub>D</sub>	Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 組 ・ EP－900 × 1																																																																																						
				・ A 種	E <sub>A</sub>	10 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1																																																																																						
				・ B 種	E <sub>B</sub>	Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1 ・ EB (14φ) × 3 連－ 組																																																																																						
				・ C 種	E <sub>C</sub>	10 Ω 以下	・ EP－900 × 1 EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)																																																																																						
				・ D 種	E <sub>D</sub>	100 Ω 以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)																																																																																						
				・ D 種 ELCB用	E <sub>D</sub> ELCB	100 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1																																																																																						
				・ 高圧避雷器	E <sub>LH</sub>	10 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1																																																																																						
・ 低圧避雷器	E <sub>LL</sub>	10 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1																																																																																										
・ 雷保護設備	E <sub>L</sub>	50 Ω 以下	・ EB (14φ) × 2 連－ 2 組 ・ EP－600 × 2																																																																																										
・ 構造体接地																																																																																													
・ 交換機用	E <sub>t</sub>	Ω 以下	EB (14φ) × 3 連－ 組 ・ EB (14φ) × 3 連－ 2 組 ・ EP－900 × 1																																																																																										
・ 通信用	E <sub>At</sub>	10 Ω 以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)																																																																																										
・ 通信用	E <sub>Dt</sub> E <sub>Da</sub>	100 Ω 以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)																																																																																										
・ 測定用	E <sub>o</sub>		EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)																																																																																										

JOB NO.  
124337

2025 年 03 月

宝達志水町役場庁舎改修工事

設計

・

・

標 題

工事仕様書（電気設備） 2

縮 尺

N・S

図 番

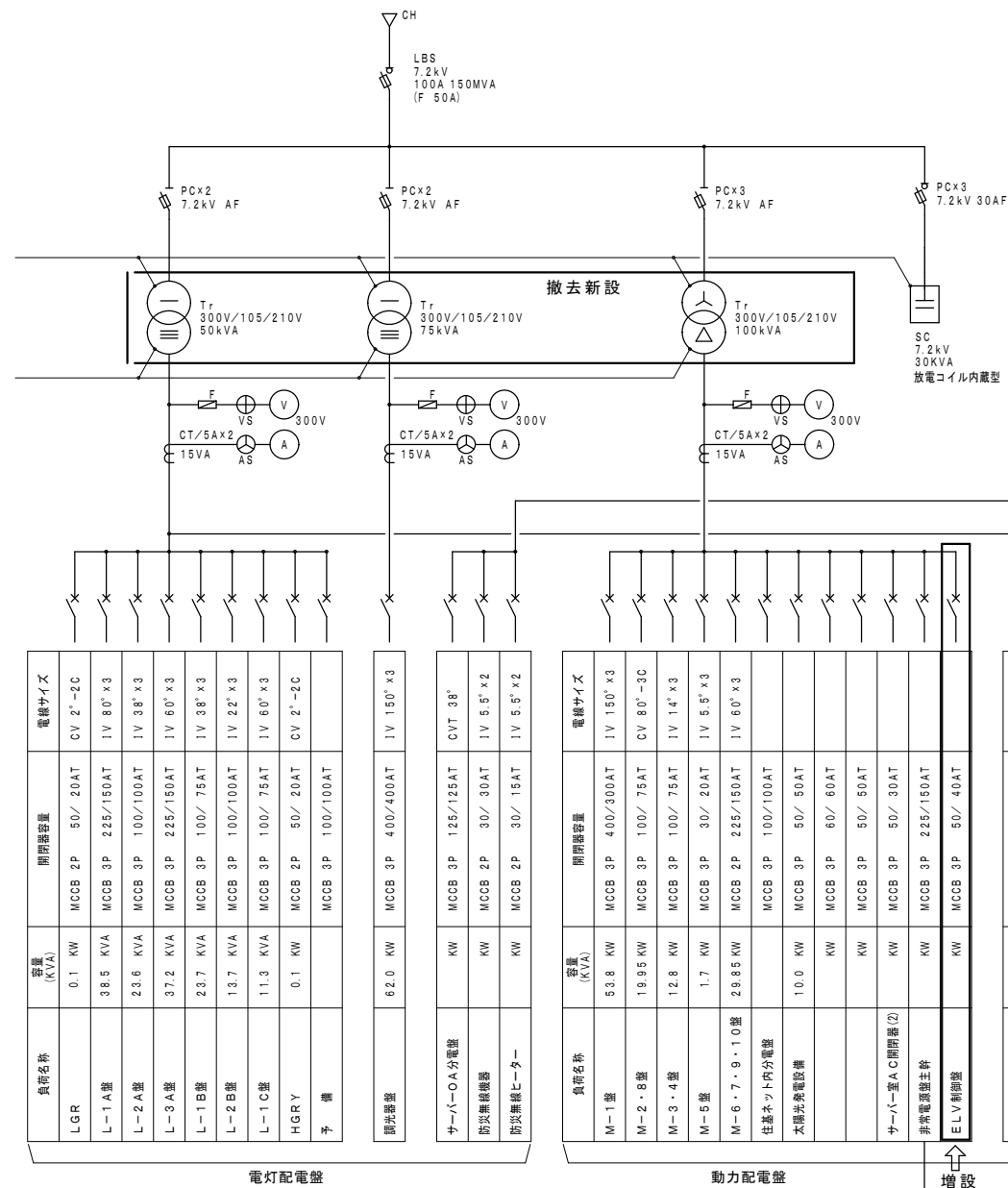
E－02

章		項 目		特 記 事 項	
●	①	いしかわ週休 2日工事	工事現場において週休2日に取り組む「いしかわ週休2日工事」（以下、「週休2日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。 なお、週休2日の工事の定義(様式)等については、石川県土木部監理課技術管理室HPの「いしかわ週休2日工事 実施要領」を参照すること。 (1) 当初設計において、月単位の週休2日（4週8休相当）にかかる補正係数を乗じている。 (2) 受注者は、工事現場に週休2日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。 (3) 受注者は、現場着手前に週休2日の計画工程を休日取得〔計画〕表を作成し、監督員に提出・共有すること。 (4) 受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得〔計画〕表を修正し、監督員に提出・共有すること。 (5) 受注者は、工期最終日まで、に、休日取得〔実績〕表を記入し、監督員に提出すること。 (6) 分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。 (7) 発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、月単位の週休2日（4週8休相当）に満たない場合は、通期の週休2日（4週8休相当）の補正に減額するものとし、通期の週休2日（4週8休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。 なお、週休2日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。		
	②	余裕期間制度 試行工事	1) 適用 ・ 対象 ※ 対象外  2) 余裕期間制度対象工事の内容 (1) 本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。 (2) 受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。 (3) 受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。 (4) 工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。 (5) 受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。 (6) 受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。 (7) 受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。 (8) 受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。 (9) 余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。 (10) その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。  (着工日の期限) 契約締結日から起算して〇ヶ月以内		
	3	イメージアップ 看板	・ 設置する ・ 設置しない（別途工事で設置等） ※ 監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする）  【参考図】 <div><div><div>野立型（大） H1400×W1100</div><div>野立型（小） H1400×W550</div><div>壁掛型 H750×W900</div></div><div><div><div>未来への夢 「石川をつくる」</div><div></div><div>未来への夢「石川をつくる」 みんなでつくろう石川</div></div><div><div>未来への夢 「石川をつくる」</div><div></div><div>みんなで つくろう 石川</div></div><div><div>未来への夢「石川をつくる」 みんなでつくろう石川</div></div></div> (注) 看板のデザインは監督員に確認すること</div>		
	4	情報共有 システム	石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。 <a href="https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html">https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html</a> ・ 利用する（発注者指定型） ※ 現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）		

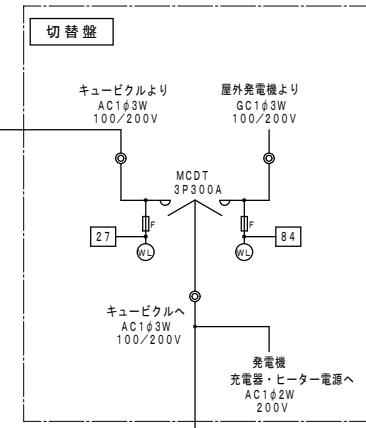
章		項 目		特 記 事 項	

JOB NO. 124337	2025 年 03 月	宝達志水町役場庁舎改修工事	設計	・	・	標 題	工事仕様書（電気設備） 3	縮 尺	N・S	図 番	E - 03
-------------------	-------------	---------------	----	---	---	--------	---------------	--------	-----	--------	--------

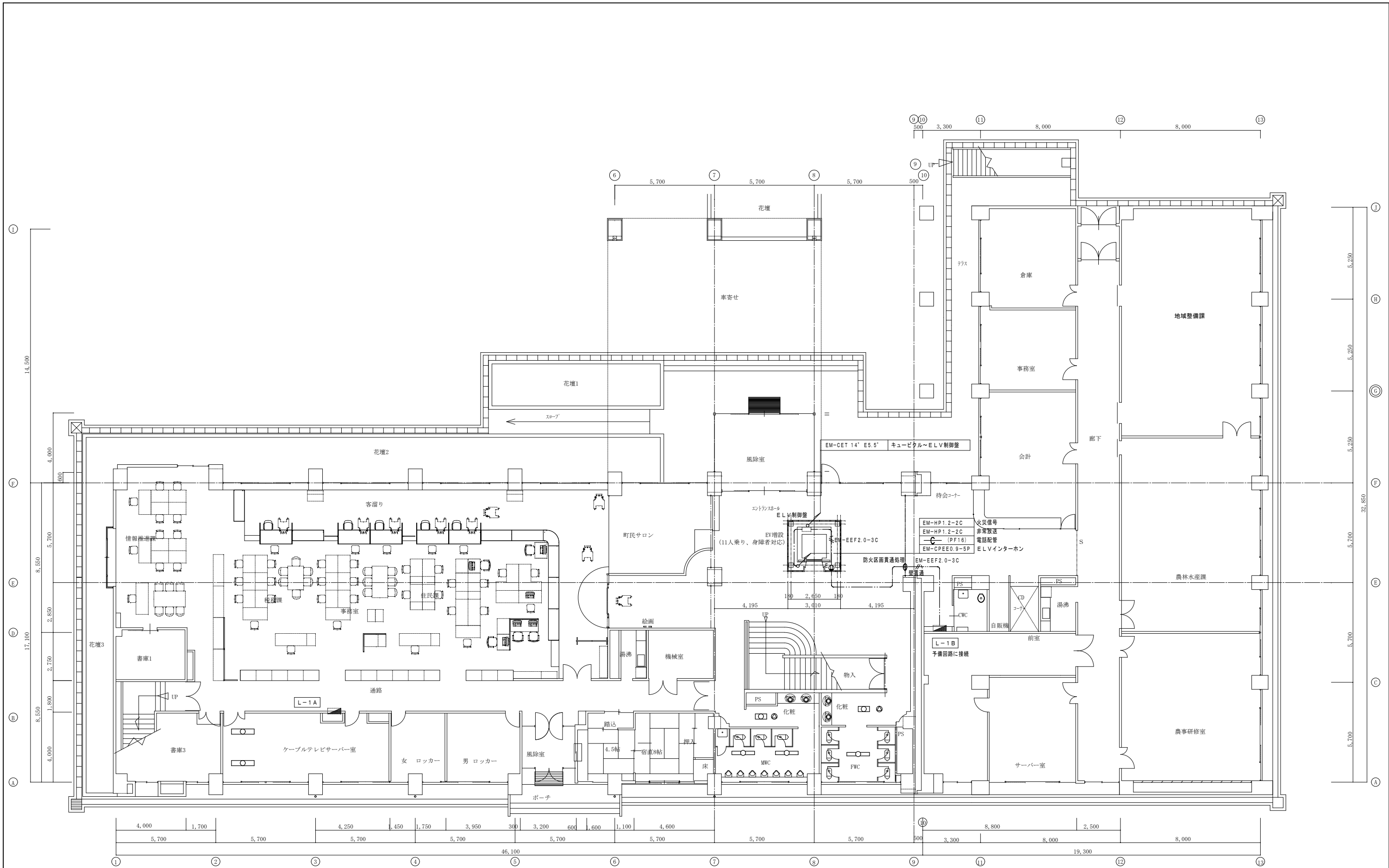
屋内キュービクル単線結線図



発電機  
3φ3W38.0KVA



- キュービクル改修内容
- ・変圧器1φ3W50KVAの撤去新設を行う。
  - ・変圧器1φ3W75KVAの撤去新設を行う。
  - ・変圧器3φ3W100KVAの撤去新設を行う。
  - ・動力配電盤に開閉器MCCB3P50A/40A（ELV制御盤）を増設する。
  - ・変圧器はトッランナーとする。
  - ・撤去した変圧器の適正処分を行うこと。
  - ・変圧器 微量PCB入り（検査済）
  - ・工事の日程については監督員、電気主任技術者らと事前に打合せを行い、停電日、停電時間、仮設内容を検討すること。
  - ・なお、停電時・復電時は、電気主任技術者の立会いを求めること。

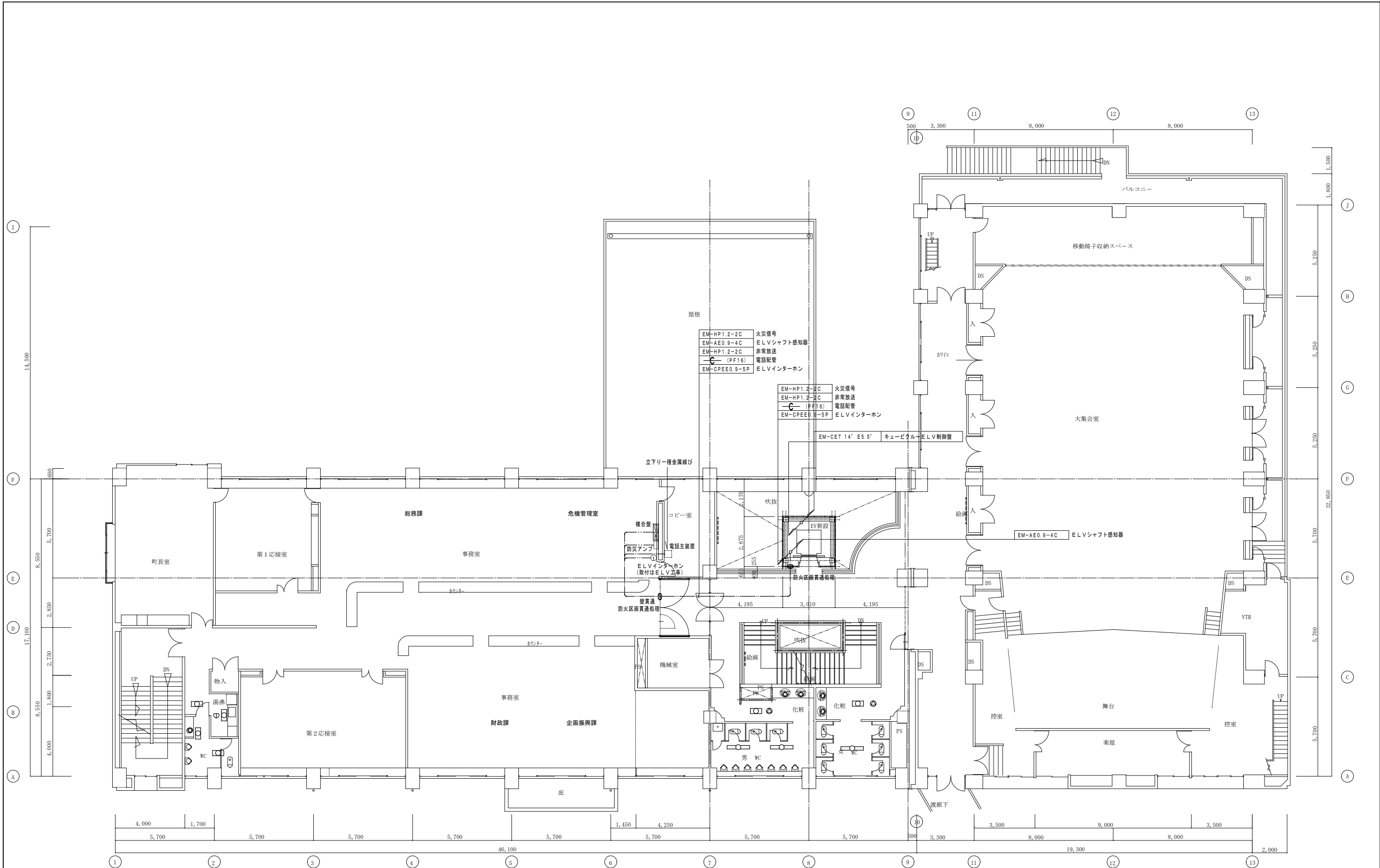


ケーブルテレビサーバー室			
LED照明器具			
FL40W×2灯相当	埋込	取外し取付	2

1階平面図 1/100

男子便所			
LED照明器具			
FL20W×2灯相当	埋込	取外し取付	1
FL40W×1灯相当	直付	取外し取付	2
ダウンライト	取外し取付	取外し取付	2
非常放送スピーカ	埋込	取外し取付	1

女子便所			
LED照明器具			
FL20W×2灯相当	埋込	取外し取付	1
FL40W×1灯相当	直付	取外し取付	1
ダウンライト	取外し取付	取外し取付	2
非常放送スピーカ	埋込	取外し取付	1



便所前通路			
LED照明器具			
FL20W×2灯相当	埋込	取外し取付	1

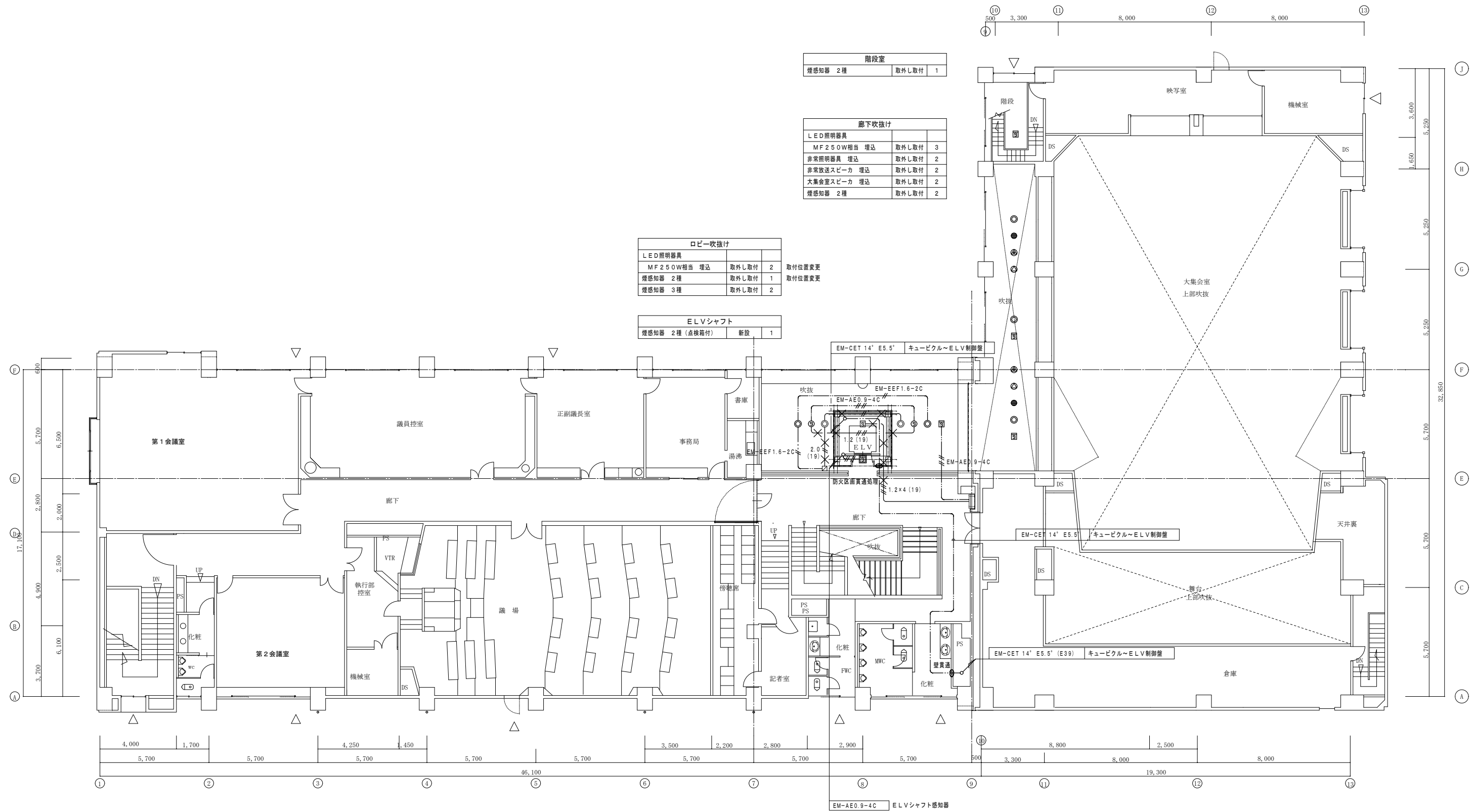
湯沸し室			
LED照明器具			
FL20W×2灯相当	直付	取外し取付	1
定温式スポット型感知器		取外し取付	1

便所			
LED照明器具			
FL20W×2灯相当	埋込	取外し取付	2
ダウンライト		取外し取付	1

2階平面図 1/100

男子便所			
LED照明器具			
FL20W×2灯相当	埋込	取外し取付	1
FL40W×1灯相当	直付	取外し取付	2
ダウンライト		取外し取付	2
非常放送スピーカ	埋込	取外し取付	1

女子便所			
LED照明器具			
FL20W×2灯相当	埋込	取外し取付	1
FL40W×1灯相当	直付	取外し取付	1
ダウンライト		取外し取付	2
非常放送スピーカ	埋込	取外し取付	1



階段室		
煙感知器 2種	取外し取付	1

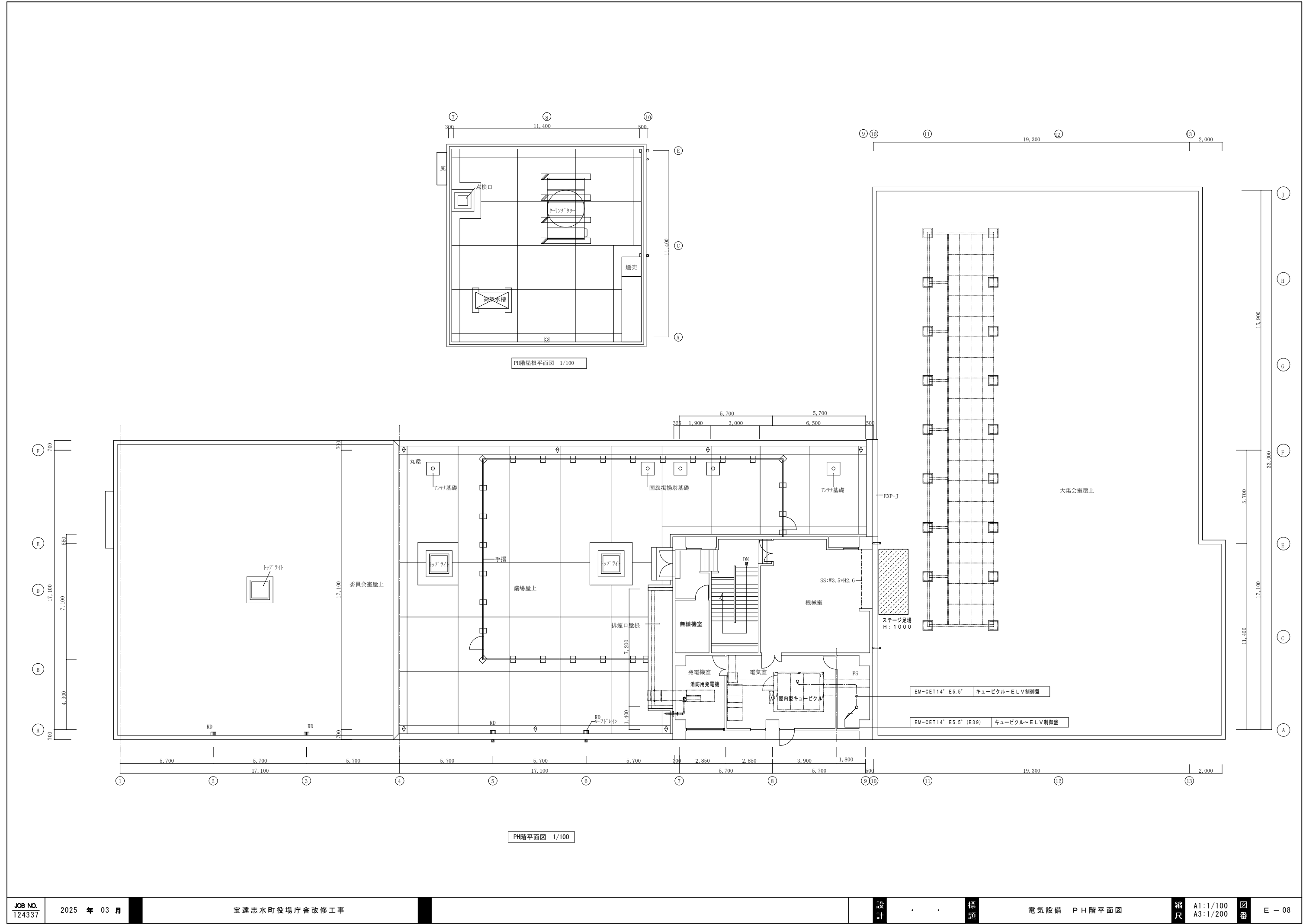
廊下吹抜け		
LED照明器具		
MF250W相当 埋込	取外し取付	3
非常照明器具 埋込	取外し取付	2
非常放送スピーカ 埋込	取外し取付	2
大集会室スピーカ 埋込	取外し取付	2
煙感知器 2種	取外し取付	2

ロビー吹抜け		
LED照明器具		
MF250W相当 埋込	取外し取付	2
煙感知器 2種	取外し取付	1
煙感知器 3種	取外し取付	2

E L Vシャフト		
煙感知器 2種 (点検箱付)	新設	1

3階平面図 1/100





工 事 仕 様 書 （機械設備）

I. 工 事 概 要

1. 工 事 名 称 宝達志水町役場庁舎改修工事
2. 工 事 場 所 宝達志水町 子浦地内
3. 完 成 期 日 令和 年 月 日（余裕期間制度試行工事適用の場合は、左記を完成日の期限とする。）  
指定部分 ・ 無 ・ 有（指定期日：令和 年 月 日） 対象部分（ ）  
概成工期 ・ 無 ・ 有（令和 年 月 日） (1. 2. 1 (6))
4. 建 物 概 要

建 物 名 称	構 造	階 数	延面積（㎡）	消防令別表第一	備 考
役場庁舎	RC造	3 階建(地階 階. 塔屋 1 階)			

5. 別契約の関連工事  
・ 建築工事 ・ 電気設備工事 ・ 給排水衛生設備工事 ・ 空調和設備工事 ・ 構内交換設備工事  
・ 昇降機設備工事 ・ 自家発電設備工事 ・ 厨房機器設備工事 ・ 屋外付帯工事 ・ 植栽工事  
・ ・ ・
6. 工 事 内 容  
宝達志水町庁舎改修工事に係る機械設備工事一式を行う。

II. 工 事 仕 様

1. 一 般 仕 様  
1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和4年版」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）令和4年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和4年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。  
2) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書・改修標準仕様書を適用する。
2. 特 記 仕 様  
章は●印の付いたものを、特記事項で選択する項目は・印に○印の付いたものを適用する。  
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。  
○印と※印の付いた場合は、共に適用する。

章	項 目	特 記 事 項
● 一 般 事 項	① 工事実績情報	請負金額 5, 0 0 0 千円以上の工事は工事実績情報登録を行う。(1. 1. 4)
	② 施工体制台帳の作成等	下請負に付する場合は、施工体制台帳を作成し、現場に備え付ける。また、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げる。(1. 1. 5 (3))
	③ 他工事との取り合い	スリーブ、箱入れなど他工事との取り合いは、別表－1 によるものとし、施工に支障をきたさない時期までに、必要な位置、大きさ等を明示し、監督員と打ち合わせる。(1. 1. 7)
	④ 工事の記録等	工事総合進捗表、工事日誌、工事出面報告書、打合せ記録、工事箇所図及び現況写真等を記載した工事報告書を毎月 1 5 日及び月末ごとに提出する。(1. 2. 4)
	⑤ 施工条件	・ 新築工事 ○ 改修工事 ○ 執務並行改修 ・ 全館無人改修 (1. 3. 3) ・ 工事用車両の駐車場所等は図示による。(改1. 3. 3) ・ 工事の施工に当たり病院当局との協議を行い、作業日、作業時間の調整を行うこと。
	6 発生材の処理等	・ 騒音、安全対策を行うこと。 ・ 引渡しを要するもの（ ・ ） (1. 3. 9 (2)) ・ 特別管理産業廃棄物（ ・ 廃石綿（エルボ保温、パッキン） ・ ） ・ 現場で再利用を図るもの（ ・ ） ・ 再資源化を図るもの（ ・ コンクリート ・ アスファルト ・ 木材 ・ ）
	7 再使用機材	・ 取外し後再使用するものは図示による。(改1. 4. 3)

章	項 目	特 記 事 項																				
● 一 般	8 事前調査	石綿含有分析調査を ・ 行う（図示 箇所） ・ 行わない (改1. 5. 2)																				
	9 養生	1) 既存部分の養生範囲は、図示による。(改3. 1. 1) 2) 養生の方法及び固定された備品・ロッカー等の移動は、図示による。(改3. 2. 1)																				
	10 撤去等	1) 回収を要する機器及び配管の内容物 ・ 冷媒 ・ 吸収液 ・ 廃油 (改4. 1. 1(3)) 2) 石綿の撤去は、図示による。(改4. 1. 2(4)) 3) 機器の撤去跡の壁面等の補修は、図示による。(改4. 2. 4)																				
	⑪ 環境への配慮	1) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品「公共工事」等は下記による。また、判断基準を満たすことを確認する。(1. 4. 1(1)) ・ 吸収冷温水機 ・ 水蓄熱式空調機器 ・ 送風機 ・ ポンプ ・ ガスエンジンヒートポンプ式空調和機 ・ 下塗用塗料（重防食） ○ 大便器 ○ 自動洗浄装置及びその組込み小便器 ・ 自動水栓 2) 本工事の建物屋内で使用する揮発性有機化合物を放散する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のとおりとする。(1. 4. 1(2)) ① JIS又はJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用																				
	⑫ 機材の品質等	1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。 ただし、仮設に使用する機材は新品に限らない。(1. 4. 2(1)) 2) 機器類の能力、容量等は図示された数値以上とする。 3) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失は、原則として図示された数値以下とする。 4) 下表に示す機材等の製造者等は次の①から⑥までの事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する評価の書面を提出して、監督員の承諾を受ける。ただし、製造者等が「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新年版）」（（一社）公共建築協会）等に記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ②生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。																				
	⑬ 一級技能士の適用	<table><tr><th colspan="4">機 材 名 称</th></tr><tr><td>ボイラー</td><td>空調調和機</td><td>ポンプ類</td><td>タンク</td></tr><tr><td>温水発生機</td><td>空気清浄装置</td><td>ダクト付属品</td><td>消火装置</td></tr><tr><td>冷凍機</td><td>全熱交換器</td><td>自動制御</td><td>厨房機器</td></tr><tr><td>冷却塔</td><td>送風機類</td><td>衛生器具ユニット</td><td>鉄製製ふた</td></tr></table> ○ 配管(建築配管) ・ 建築板金(ダクト製作及び取付け) (1. 5. 2(1)) ○ 熱絶縁施工(保温保冷工事) ・ 厨房設備施工(厨房機器据付け及び整備) ・ 冷凍空調調和機器施工(冷凍機、パッケージ形空調調和機据付け、整備及び冷媒配管)	機 材 名 称				ボイラー	空調調和機	ポンプ類	タンク	温水発生機	空気清浄装置	ダクト付属品	消火装置	冷凍機	全熱交換器	自動制御	厨房機器	冷却塔	送風機類	衛生器具ユニット	鉄製製ふた
	機 材 名 称																					
	ボイラー	空調調和機	ポンプ類	タンク																		
	温水発生機	空気清浄装置	ダクト付属品	消火装置																		
	冷凍機	全熱交換器	自動制御	厨房機器																		
	冷却塔	送風機類	衛生器具ユニット	鉄製製ふた																		
	⑭ 工事の創意工夫等	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。(1. 5. 7) 建築物の室内空気中の濃度測定を ・ 行う ・ 行わない (1. 5. 8) 測定時期、測定対象化学物質、測定方法、測定対象室、測定箇所数等は図示による。																				
15 化学物質の濃度測定	中間検査の実施 ○ 無 ・ 有（時期 ・ 天井下地完了時 ・ ） (1. 6. 2)																					
⑯ 中間検査	原図及び製本（等倍 1 部、A 3 縮小 2 部）提出する。(1. 7. 2)																					
⑰ 完成図	保全に関する資料は次のとおり、 2 部提出する。(1. 7. 3) ①建築物等の利用に関する説明書※ ②機器取扱説明書（主要機器一覧表とも） ③機器性能試験成績書（総合試運転調整報告書とも） ④官公署届出書類 ※「建築物等の利用に関する説明書」作成の手引き 手引きのダウンロード <a href="http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_kentikubuturiyou_tebiki.htm">http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_kentikubuturiyou_tebiki.htm</a>																					
18 保全に関する資料	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。(改2. 2. 1)																					
19 足場類	○ 既存施設に量水器等を設けて使用できる（有償） ・ 水道局引込み等 (改2. 2. 2)																					
⑳ 工事用水等	設置箇所、種別及び塗装仕上げは、図示による。(改2. 2. 3)																					
21 仮設間仕切・扉																						
● 共 通 事 項	① 総合試運転調整	下記の項目の測定報告書(測定箇所は監督員の指示による)を提出する。(1. 3. 3) ○ 風量調整 ・ 水量調整 ・ 室内外空気の温湿度の測定 ○ 室内気流及びじんあいの測定 ・ 騒音の測定 ・ 振動の測定 ・ 飲料水の水質測定（ ・ 11項目 箇所 ・ 16項目 箇所） ・ 雑用水の水質測定（建築物環境衛生管理基準による。）																				

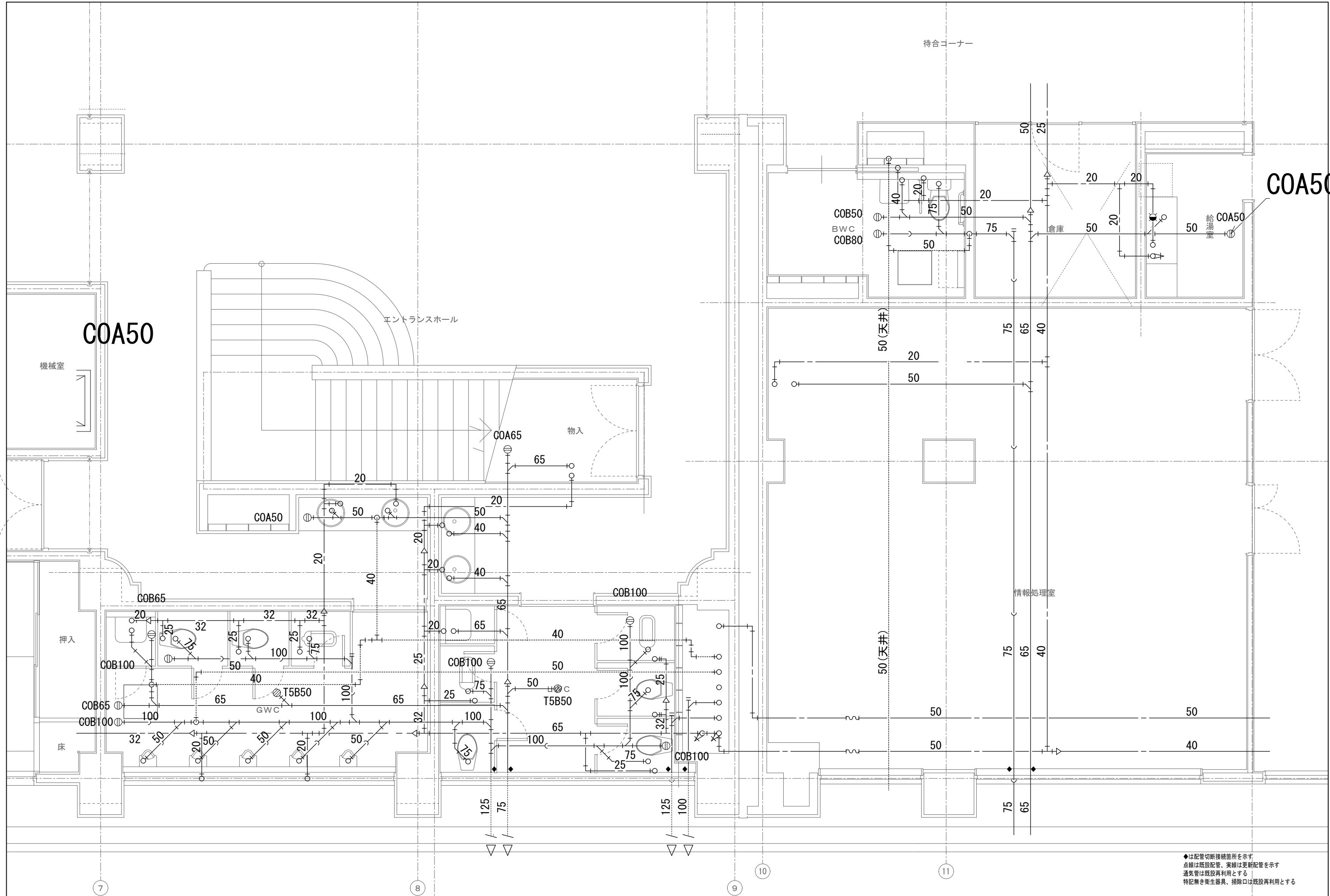
章	項 目	特 記 事 項																							
●	② 配管等	1) 仕切弁はJIS又はJV（○ 5K ・ 10K（水道直結等の図示部分））とする。（2. 2. 1） 2) 絶縁継手の取付け箇所は、図示による。（2. 2. 12） 3) 建物導入部の変位吸収方法は次による。ただし、排水及び通気配管を除く。（2. 4. 1(3)） 標準図（ ・ (a)フレキシブルジョイント ・ (b) ・ (c) ）による。（2. 5. 7(1)） 4) 呼び径60Su以下のステンレス鋼管は、（ ・ プレス ・ 拡管 ・ ）接合とする。 5) ポリエチレン管の接合方法は、（○ 電気融着 ・ メカニカル）とする。（2. 5. 10(2)） 6) 溶接部の非破壊検査を ・ 行う ・ 行わない（2. 5. 15. 12(9)） 7) 地中埋設標の設置箇所は、図示による。（2. 7. 1(8)） 8) 埋設表示用テープ（倍折）を土被り150mm程度の深さに埋設する。（2. 7. 1(9)） 9) 埋設深さは、図示が無い場合、車両道路（ ・ 60cm ・ ）、 その他（ ・ 30cm ・ ）以上とする。（2. 7. 2）																							
	3 防凍保温	屋外露出部（給水管、消火管、膨張管、冷温水管、弁類を含む）は 防凍保温を行い、保温材の厚さは配管の呼び径25mm以下のものは50mm以上、それ以外は40mm以上とする。（3. 1. 6）																							
	4 塗装	下記の垂鉛めっきを施した露出ダクト及び露出配管は、塗装を行わない。（3. 2. 1. 1） ・ 機械室（エレベーター機械室） ・ 電気室（自家発電室） ・ 倉庫 ・																							
	5 吊り及び支持金物の防錆	多湿トレンチ内等の吊り金物、支持金物類は溶融亜鉛めっき処理又はステンレス鋼製とする。（3. 2. 2. 1）																							
	⑥ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける[ ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号(20㎡程度) ]（4. 1. 1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ ・																							
	7 快適トイレ（快適トイレ実施要領に基づく）	3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。 ・ 快適トイレを設置する ・ 快適トイレを設置しない（別途工事で設置等） ※ 監督員へ提案・協議し、快適トイレを設置することができる 快適トイレを設置した場合は、設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。																							
	⑧ 工事現場の表示板	工事現場には、下記表示板を設置する。（記入例）（4. 1. 1(9)） <table><tr><td>上段の地色は白色 文字は青色</td><td><table><tr><th colspan="2">工 事 名</th></tr><tr><td>工 期</td><td>自 年 月 日～至 年 月 日</td></tr><tr><td>発注者</td><td>宝達志水町 総務課</td></tr><tr><td>設 計</td><td>（建築・設備委託業者名を記入）</td></tr><tr><td>監 理</td><td>（建築・設備委託業者名を記入）</td></tr><tr><td>施 工</td><td>建 築（施工業者名を記入）</td></tr><tr><td></td><td>電 気（施工業者名を記入）</td></tr><tr><td></td><td>機 械（施工業者名を記入）</td></tr><tr><td colspan="2">この工事は、週休 2 日に取り組んでいます</td></tr></table></td><td rowspan="2">60cm ～75cm</td></tr><tr><td>下段の地色は青色 文字は白色</td><td></td></tr></table> <div>90cm</div>	上段の地色は白色 文字は青色	<table><tr><th colspan="2">工 事 名</th></tr><tr><td>工 期</td><td>自 年 月 日～至 年 月 日</td></tr><tr><td>発注者</td><td>宝達志水町 総務課</td></tr><tr><td>設 計</td><td>（建築・設備委託業者名を記入）</td></tr><tr><td>監 理</td><td>（建築・設備委託業者名を記入）</td></tr><tr><td>施 工</td><td>建 築（施工業者名を記入）</td></tr><tr><td></td><td>電 気（施工業者名を記入）</td></tr><tr><td></td><td>機 械（施工業者名を記入）</td></tr><tr><td colspan="2">この工事は、週休 2 日に取り組んでいます</td></tr></table>	工 事 名		工 期	自 年 月 日～至 年 月 日	発注者	宝達志水町 総務課	設 計	（建築・設備委託業者名を記入）	監 理	（建築・設備委託業者名を記入）	施 工	建 築（施工業者名を記入）		電 気（施工業者名を記入）		機 械（施工業者名を記入）	この工事は、週休 2 日に取り組んでいます		60cm ～75cm	下段の地色は青色 文字は白色	
	上段の地色は白色 文字は青色	<table><tr><th colspan="2">工 事 名</th></tr><tr><td>工 期</td><td>自 年 月 日～至 年 月 日</td></tr><tr><td>発注者</td><td>宝達志水町 総務課</td></tr><tr><td>設 計</td><td>（建築・設備委託業者名を記入）</td></tr><tr><td>監 理</td><td>（建築・設備委託業者名を記入）</td></tr><tr><td>施 工</td><td>建 築（施工業者名を記入）</td></tr><tr><td></td><td>電 気（施工業者名を記入）</td></tr><tr><td></td><td>機 械（施工業者名を記入）</td></tr><tr><td colspan="2">この工事は、週休 2 日に取り組んでいます</td></tr></table>	工 事 名		工 期	自 年 月 日～至 年 月 日	発注者	宝達志水町 総務課	設 計	（建築・設備委託業者名を記入）	監 理	（建築・設備委託業者名を記入）	施 工	建 築（施工業者名を記入）		電 気（施工業者名を記入）		機 械（施工業者名を記入）	この工事は、週休 2 日に取り組んでいます		60cm ～75cm				
	工 事 名																								
	工 期	自 年 月 日～至 年 月 日																							
発注者	宝達志水町 総務課																								
設 計	（建築・設備委託業者名を記入）																								
監 理	（建築・設備委託業者名を記入）																								
施 工	建 築（施工業者名を記入）																								
	電 気（施工業者名を記入）																								
	機 械（施工業者名を記入）																								
この工事は、週休 2 日に取り組んでいます																									
下段の地色は青色 文字は白色																									
9 埋め戻し土	設計及び監理の欄は、実施設計及び工事監理が委託発注された場合。 工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は角ゴシック体とする。 ※ 根切り土の中の良質土（ただし、管の周囲は山砂） ・ 山砂（4. 2. 1(4)）																								
10 建設発生土の処理	・ 現場内で処理（4. 2. 1(4)） ・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構内指示の場所に敷き均し ・ 場外搬出適正処理（「再生資源利用促進計画書及び実施書」を監督員に提出のこと。） ※ 指定（想定）搬出先 受入場所： 受入時間帯： 時 分～ 時 分 仮置き等：																								
通	⑪ はつり	1) 放射線透過検査を ・ 行う ※ 行わない（但し、鉄筋探索は行う。）（改4. 1. 2） 2) 配管貫通部の穴開けは、ダイヤモンドカッターとし、場所・口径は図示による。（改4. 1. 3） 3) 既設基礎の解体、撤去後の床補修は、図示による。（改4. 1. 5）																							
	⑫ あと施工アンカー	1) 埋込み配管等の探査の範囲及び方法は、図示による。（改5. 2. 1） 2) 施工後確認試験（引張試験）を ○ 行う ・ 行わない（改5. 2. 3）																							
	⑬ 県内産材料	志賀町建設工事標準請負契約約款（以下「請負契約約款」という。）第 6 条の 2 第 7 項により、調達する工事材料は石川県産とするように努めることについて、工事着手前に使用材料確認願いを提出する。																							
	⑭ 材料検査	請負契約約款第 1 3 条第 2 項に定める監督員の検査を受けて使用する工事材料は次のとおり。 ・ 熱源機器 ・ 空調機器 ・ ポンプ類 ・ ダクト及び付属品 ○ 衛生器具 ・ タンク類 ・ 消火機器 ・ 合併処理槽 ・ 厨房機器 ・ 除湿器 ・ ・																							
	⑮ 工事写真等の記録	1) 国土交通省大臣官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領（令和 3 年改定）」による。																							

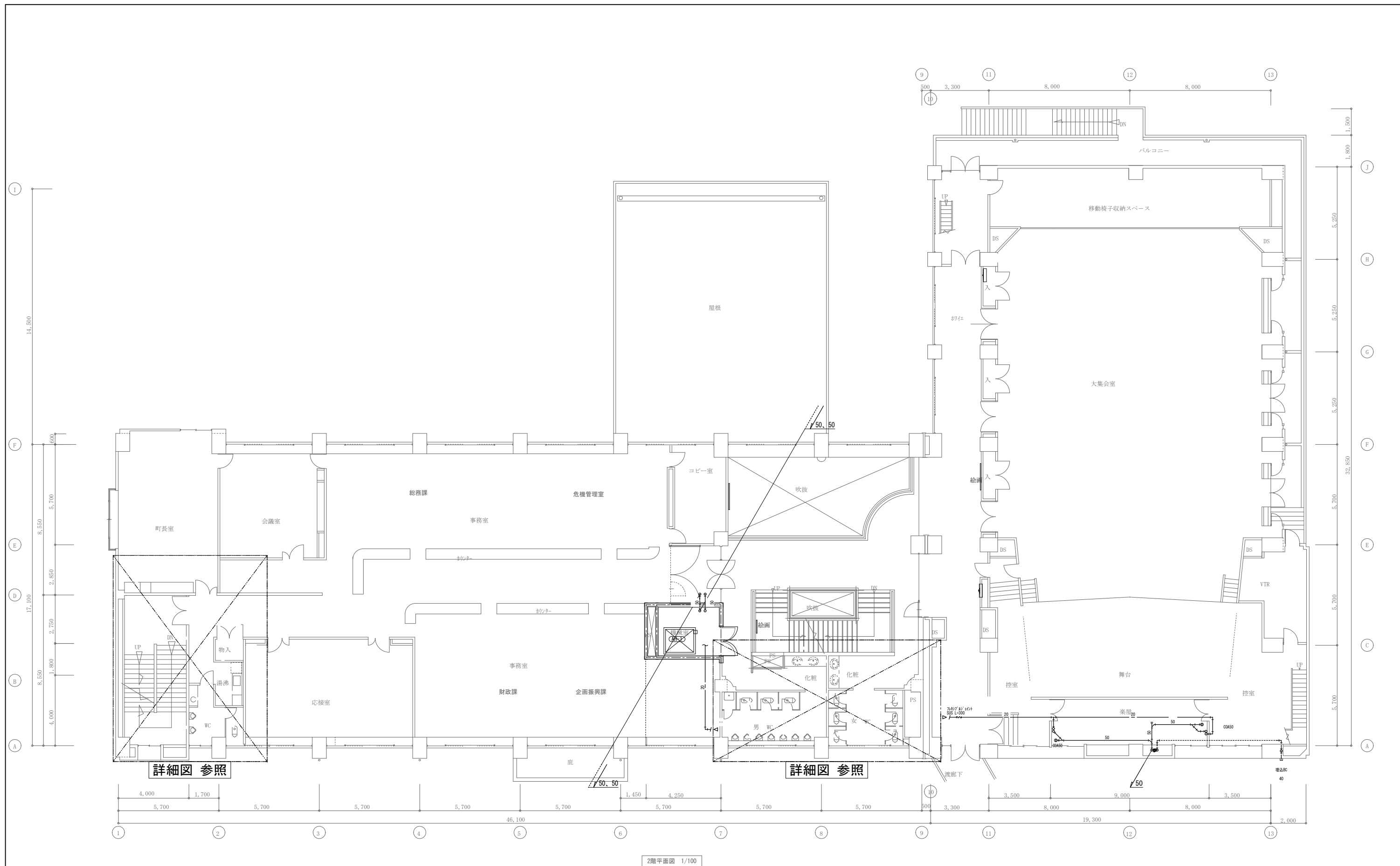
章	項 目	特 記 事 項																																																																													
共 通		2) 請負契約約款第 1 4 条第 3 項に定める工事写真は次のとおり。 ・ 地中埋設配管部                      ・ 機器の基礎及びアンカーボルト埋設部                      ・ 塗装工程 ○ 保温工程                      ○ 天井、トレンチ内の隠ぺい箇所                      ・ 躯体スリーブ 3) 区分による規格、枚数、部数は次による。 <table><tr><th>区 分</th><th>大 き さ (mm)</th><th>撮 影 枚 数</th><th>部 数</th><th>備 考</th></tr><tr><td>着工前</td><td>100×148程度</td><td>監督員の指示による</td><td>1 部</td><td>工事期間中は現場事務所に整理保管し、</td></tr><tr><td>工事中</td><td>85×115程度</td><td>監督員の指示による</td><td>1 部</td><td>工事完成時に提出する。</td></tr><tr><td>完成時</td><td>100×148程度</td><td>監督員の指示による</td><td>1 部</td><td>A 4 用紙に整理したもの</td></tr></table> 4) 完成写真の撮影は、次による。                      ・ 建築写真撮影業者                      ※ 建築写真撮影業者以外 5) 写真は A 4 用紙に順序よく貼付又は印刷し、説明事項を記入して提出する。 6) 中間検査又は監督員の指示により、手直しを命じられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添付し提出する。 請負契約約款第 3 7 条第 1 項に定める部分払の対象とする工事材料は次のとおり。 ・ 機器                      ・ 器具                      ・ 配管                      ・ 請負契約約款第 4 9 条に定める火災保険等は次のとおり。（加入期間は着工日より引渡日まで） ※ 組立保険                      ・ 建設工事保険 次に示す事項を除き、すべて独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針 2 0 1 4 年版」による。 (3-2.1.1(5)) 1) 機器の設計用標準水平震度及び耐震クラスは図示による。図示がなければ次による。 <table><tr><th rowspan="2">設置場所</th><th colspan="2">耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）</th></tr><tr><th>特定の施設</th><th>一般の施設</th></tr><tr><td></td><td>・ 耐震クラス S</td><td>○ 耐震クラス A</td></tr><tr><td>上層階、屋上及び塔屋</td><td>2. 0</td><td>1. 5 &lt; 2. 0 &gt;</td></tr><tr><td>中間階</td><td>1. 5</td><td>1. 0 &lt; 1. 5 &gt;</td></tr><tr><td>一階及び地下階</td><td>1. 0 ( 1. 5 )</td><td>1. 0</td></tr></table> 注1 設置場所の区分は、機器等を支持する床部分により適用し、天井面（上階床）より支持する機器等は直上階を適用する。 注2 上層階は、2～6 階建の場合は最上階、7～9 階建の場合は上層 2 階、10～12 階建の場合は上層 3 階、13 階建以上の場合は上層 4 階とする。 注3 ( ) 内の値は水槽類（受水槽、高置水槽、消火関係水槽、オイルタンク等）、< > 内の値は防振支持の機器（防振材・防振装置を介して設置される機器）に適用する。 2) 地域係数は 1. 0 とする。 3) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の 1／2 とし水平地震力と同時に働くものとする。 4) 1 k N 以下の軽微な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し据付け又は取付けを行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。 請負金額 1 0, 0 0 0 千円以上の元請工事の現場代理人及び主任（監理）技術者は顔写真付き名札を常時着用する。下記寸法等は、参考であり、社員証等に替えることができる。 <table><tr><td>56mm</td><td>17mm</td><td colspan="2">〇〇建設㈱社員証</td><td>40mm</td></tr><tr><td>18mm</td><td>10mm</td><td>氏名 △ △ 太 郎</td><td>(顔写真)</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>発行日 令和 年 月 日</td><td>カラー写真</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>代表者 □ □ 建一</td><td>貼 付</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>代表印</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2mm</td><td>13mm</td><td>42mm</td><td>2mm</td><td>30mm</td></tr><tr><td colspan="5">91mm</td></tr><tr><td>2mm</td><td></td><td></td><td></td><td>2mm</td></tr></table>	区 分	大 き さ (mm)	撮 影 枚 数	部 数	備 考	着工前	100×148程度	監督員の指示による	1 部	工事期間中は現場事務所に整理保管し、	工事中	85×115程度	監督員の指示による	1 部	工事完成時に提出する。	完成時	100×148程度	監督員の指示による	1 部	A 4 用紙に整理したもの	設置場所	耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）		特定の施設	一般の施設		・ 耐震クラス S	○ 耐震クラス A	上層階、屋上及び塔屋	2. 0	1. 5 < 2. 0 >	中間階	1. 5	1. 0 < 1. 5 >	一階及び地下階	1. 0 ( 1. 5 )	1. 0	56mm	17mm	〇〇建設㈱社員証		40mm	18mm	10mm	氏名 △ △ 太 郎	(顔写真)				発行日 令和 年 月 日	カラー写真				代表者 □ □ 建一	貼 付				代表印			2mm	13mm	42mm	2mm	30mm	91mm					2mm				2mm
	区 分	大 き さ (mm)	撮 影 枚 数	部 数	備 考																																																																										
	着工前	100×148程度	監督員の指示による	1 部	工事期間中は現場事務所に整理保管し、																																																																										
	工事中	85×115程度	監督員の指示による	1 部	工事完成時に提出する。																																																																										
	完成時	100×148程度	監督員の指示による	1 部	A 4 用紙に整理したもの																																																																										
	設置場所	耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）																																																																													
		特定の施設	一般の施設																																																																												
		・ 耐震クラス S	○ 耐震クラス A																																																																												
	上層階、屋上及び塔屋	2. 0	1. 5 < 2. 0 >																																																																												
	中間階	1. 5	1. 0 < 1. 5 >																																																																												
一階及び地下階	1. 0 ( 1. 5 )	1. 0																																																																													
56mm	17mm	〇〇建設㈱社員証		40mm																																																																											
18mm	10mm	氏名 △ △ 太 郎	(顔写真)																																																																												
		発行日 令和 年 月 日	カラー写真																																																																												
		代表者 □ □ 建一	貼 付																																																																												
		代表印																																																																													
2mm	13mm	42mm	2mm	30mm																																																																											
91mm																																																																															
2mm				2mm																																																																											
	⑳ 退職金共済制度	受注者は建設業退職金共済制度に加入し、本工事の掛金収納書を工事請負契約締結後 1 ヶ月以内に監督員を通じて発注者に提出する。また、現場事務所に適用標識（シール）を掲示する。																																																																													
	㉑ 過積載等の防止	1) 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませない。 2) さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませない。 3) 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長しないようにする。 4) 取引関係のあるダンプカー事業車が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずる。 5) 建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにする。 6) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和 4 2 年 8 月 2 日法律第 1 3 1 号。以下「法」という。）の目的に鑑み、法第 1 2 条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進する。 7) 1) から 6) につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導する。 本工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく下記の事業であり、景観に配慮した施工に努める。                      ・ 重点事業                      ○ 一般事業 「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく、「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。履行にあたり疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議する。 ※ 行う（「電子納品仕様書」による。）                      ・ 行わない 電子納品仕様書 1 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。 ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。 <table><tr><th>名 称</th></tr><tr><td>営繕工事電子納品要領（令和 3 年改定）</td></tr><tr><td>官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和 4 年改定）</td></tr></table> 基準・要領類のダウンロード <a href="http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html">http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html</a>	名 称	営繕工事電子納品要領（令和 3 年改定）	官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和 4 年改定）																																																																										
名 称																																																																															
営繕工事電子納品要領（令和 3 年改定）																																																																															
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和 4 年改定）																																																																															
	㉒ 景観への配慮																																																																														
	㉓ 総合評価方式における技術提案																																																																														
	㉔ 電子納品																																																																														

章	項 目	特 記 事 項					
●  共 通 事 項	25 公共事業労務費 調査の協力	2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別に C D－R、D V D－R又は B D－R で 1 部納品する。 3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。 工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。 受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、 次の各号に掲げる協力をしなければならない。工期経過後においても同様とする。 ① 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をする。 ② 調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、 その実施に協力する。 ③ 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台 帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行う。 ④ 下請負に付する場合には、当該下請工事受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請 負人を含む）が前各号と同様の義務を負う旨を定める。					
	26 事故の補償	受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任を もって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）					
●  空  気  調 和  設  備	1 煙道	ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。 (1. 1. 2)					
	2 冷媒	パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。 (1. 7. 5. 15)					
	3 ダクト	1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト (1. 14. 3. 1～2) ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の 1 ランク厚いものを使用する。 (1. 14. 3. 5) 消音内貼りを施すチャンバーは、図示による。 (1. 14. 6. (1))					
	4 チャンバー						
	5 風量測定口	取り付け位置は、図示による。 (2. 2. 5. 5)					
	6 基礎	防振基礎は、図示による。 (2. 1. 1 (3))					
	⑦ 配管材料	1) 冷温水管 ○ 配管用炭素鋼鋼管(白) ・ (2-2. 1. 2. 1) 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管(PB) ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管(黒) ※ 配管用炭素鋼鋼管(黒) (2-2. 1. 2. 2) 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管(黒) ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管(黒) 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管(PLS(PE1H)) 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管(PLV) 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管 (2-2. 1. 2. 4) 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管(白) (2-2. 1. 2. 6) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)					
	⑧ 伸縮管継手	7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管(白) とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。 (2-2. 2. 7. 1)					
	9 瞬間流量計	・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。 (2-2. 3. 8)					
	10 保温	1) 還りダクト（R A ダクト）の保温範囲は図示による。 (2-3. 1. 4) 2) 外気取入れダクト（O A ダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁 1 m 以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm 厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。 <table><tr><td>屋内露出</td><td>・ カラー亜鉛鉄板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>○ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr></table>	屋内露出	・ カラー亜鉛鉄板	・ 保温化粧ケース	屋外露出	○ ステンレス鋼板
屋内露出	・ カラー亜鉛鉄板	・ 保温化粧ケース					
屋外露出	○ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース					
11 冷媒(フロン類) の回収	1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出 抑制法」の対象となっている機器 (改2. 4. 3) ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用のエアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票(家電リサクル券)」の写しを提出する。						
○ 自 動 制 御 設 備	1 システム構成	図示による。 (1. 1. 1 (2))					
	2 電源装置	無停電電源装置は、図示による。 (1. 4. 2. 9) (1. 5. 1) (2. 3. 1)					
	3 電気計装用配線	原則、配線は E M ケーブル等とし、天井隠ぺい部は、図示がなければケーブル配線とする。					
● 給 排 水 衛 生 設 備	1 水栓	水抜栓を使用する系統の水栓は、固定こま式とする。台所流し用水栓は泡沫式とする。 (1. 1. 6)					
	2 量水器	1) ・ 親メーター（ ・ 貸与品 ・ 買取 ） ・ 子メーター（ ・ 買取 ・ ） (2-2. 2. 16) 2) 量水器樹 ・ 水道事業者指定品（ ・ 貸与品 ・ 買取 ） ・ 標準図 M C 形 (1. 8. 4) 水中ケーブルの長さは、図示による。 (1. 2. 7)					
	3 汚水用 水中ポンプ						
	4 タンクの保温	ステンレス鋼板製タンクの保温を ・ 行う ・ 行わない (1. 4. 2. 4) (1. 4. 2. 5)					

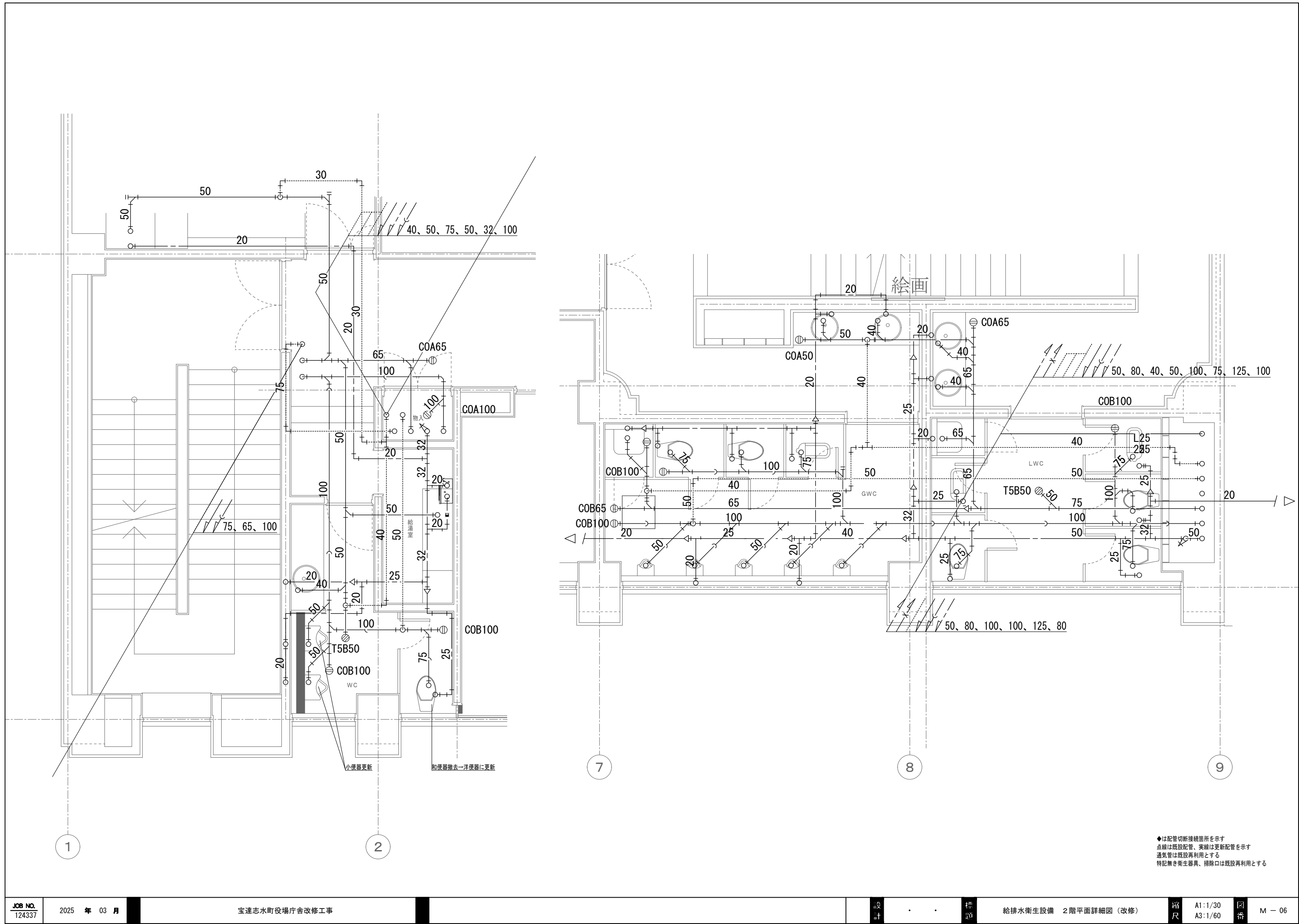
章	項 目	特 記 事 項																																																																																																																																											
● 給 排 水 衛 生 設 備	5 緊急遮断弁装置	受水槽、高架水槽に設ける緊急遮断弁装置は、図示による。(2-2. 2. 22)																																																																																																																																											
	⑥ 配管材料	1) 給水管 一般 ○ ポリ粉体ライニング鋼管(PB) ○ 水道給水用ポリエチレン管（堅管部） ・ 厨房、浴室等のシンダー内配管はポリ粉体ライニング鋼管(PD) (2-2. 1. 2. 5) 地中 ・ ポリ粉体ライニング鋼管(PD) ・ ステンレス鋼鋼管 ・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) ・ 水道用ポリエチレン管 引込管（直結部分）は水道事業者指定のものとし、図示による。加入負担金は別途 2) 給湯管（膨張管及び補給水タンクよりボイラーなどへの補給水管を含む。） ・ 銅管（壁又は床埋設は、被覆鋼管又は保温付被覆鋼管としてもよい。） ・ ステンレス鋼鋼管 ・ 耐熱性塩化ビニルライニング鋼管 3) 消火管 一般 ・ 配管用炭素鋼鋼管(白) 地中 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(VS) 4) 排水管 屋内 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 耐火二層管(VP) (2-2. 1. 2. 6) ・ リサイクル発泡三層管(RF-VP) ・ 耐火二層管(RF-VP) 屋外 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) 圧送 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 5) 通気管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 耐火二層管(VP) ・ リサイクル発泡三層管(RF-VP) ・ 耐火二層管(RF-VP)																																																																																																																																											
	7 洗面器等の排水 管	洗面器及び手洗器に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップとする。(2-2. 4. 8)																																																																																																																																											
	8 満水試験継手	取付け位置は、図示による。(2-2. 9. 4)																																																																																																																																											
	○ ガ ス 設 備	1 配管材料 1) 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管(白) (2-1. 1) (3. 1. 1) 2) 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管(PLS(PE1H)) ・ ガス用ポリエチレン管 3) 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管(PLV) ・ 配管用炭素鋼鋼管(白) 2 メーター ・ 親メーター（ ・ 買取 ・ ） ・ 子メーター（ ・ 買取 ・ ） (2. 1. 7) (3. 1. 3. 4) 3 ガス漏れ警報器 ・ 本工事（図示による） ・ 別途工事 (2. 1. 3) (3. 1. 3. 6) 4 その他 ガス遮断装置、漏洩検知装置、電気防食措置、ポンベの転倒防止措置は、図示による。																																																																																																																																											
○ 浄 化 槽 設 備	1 配管材料等 1) マンホールふた ・ ボルトロック式 ・ メーカー標準ロック式 (2. 1. 27) 2) 管材や弁類は、図示による。(2. 1. 30) 2 山留め 山留め壁 ・ 要（図示による。） ・ 不要 (2. 2. 1 (㊦)) 3 維持管理 工事引渡後6ヶ月間は受注者が維持管理を行い、7条検査を受検し、その報告を行う。(2. 2. 2)																																																																																																																																												
(別表－1) 他工事との取り合い																																																																																																																																													
<table><tr><th colspan="3">工 事 内 容</th><th>機械</th><th>電気</th><th>建築</th><th>備 考</th></tr><tr><td rowspan="4">開口部</td><td rowspan="2">はり、床、壁の貫通部（RC造）</td><td>スリーブ、仮枠、穴埋共</td><td>●</td><td></td><td></td><td>S造は建築</td></tr><tr><td>補 強 筋</td><td></td><td></td><td>●</td><td>建築図面に図示</td></tr><tr><td rowspan="2">天井、壁の切り込み</td><td>ボ ー ド 類 切 込 み</td><td>●</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>下 地 補 強</td><td></td><td></td><td>●</td><td>建築図面に図示</td></tr><tr><td colspan="3">外部取付ガラリ（ダクト、チャンパの接続用フランジを含む）</td><td></td><td></td><td>●</td><td>建築図面に図示</td></tr><tr><td colspan="3">レンジフードファン、フード（取付枠共）及び流し台（排水トラップ共）</td><td></td><td></td><td>●</td><td></td></tr><tr><td colspan="3">洗面所、手洗所等の大型鏡、はめ込型洗面器用カウンター及び身障者用手すり</td><td></td><td></td><td>●</td><td></td></tr><tr><td colspan="3">下流し、足洗い場及び玄関の排水</td><td>●</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="3">床、天井、壁の点検口及び床下水槽のマンホール蓋</td><td></td><td></td><td>●</td><td>建築図面に図示</td></tr><tr><td colspan="3">屋内外設備（受水槽、ポンプ等）の基礎</td><td></td><td></td><td>●</td><td>建築図面に図示</td></tr><tr><td colspan="3">屋上設備の基礎</td><td></td><td></td><td>●</td><td>建築図面に図示</td></tr><tr><td colspan="3">地下油タンク室等のコンクリート工事</td><td></td><td></td><td>●</td><td>建築図面に図示</td></tr><tr><td colspan="3">油サービスタクの防油堤</td><td></td><td></td><td>●</td><td></td></tr><tr><td colspan="3">ボイラーの煙突及びプロパンボンベ庫（既製のものは機械）</td><td></td><td></td><td>●</td><td></td></tr><tr><td colspan="3">実験台（陶器製流し、化学水栓、ガス栓及びコンセント共付属品を含む）</td><td></td><td></td><td>●</td><td></td></tr><tr><td colspan="3">実験台への配管及び配管接続</td><td>●</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">電気配線</td><td colspan="2">機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）</td><td>●</td><td></td><td></td><td>二次側</td></tr><tr><td colspan="2">機器付属の制御盤への電源供給の配管配線</td><td></td><td>●</td><td></td><td>一次側</td></tr><tr><td colspan="2">制御盤と動力盤間の電源供給及び操作回路の渡り配管配線</td><td></td><td>●</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線</td><td></td><td>●</td><td></td><td></td></tr></table>			工 事 内 容			機械	電気	建築	備 考	開口部	はり、床、壁の貫通部（RC造）	スリーブ、仮枠、穴埋共	●			S造は建築	補 強 筋			●	建築図面に図示	天井、壁の切り込み	ボ ー ド 類 切 込 み	●				下 地 補 強			●	建築図面に図示	外部取付ガラリ（ダクト、チャンパの接続用フランジを含む）					●	建築図面に図示	レンジフードファン、フード（取付枠共）及び流し台（排水トラップ共）					●		洗面所、手洗所等の大型鏡、はめ込型洗面器用カウンター及び身障者用手すり					●		下流し、足洗い場及び玄関の排水			●				床、天井、壁の点検口及び床下水槽のマンホール蓋					●	建築図面に図示	屋内外設備（受水槽、ポンプ等）の基礎					●	建築図面に図示	屋上設備の基礎					●	建築図面に図示	地下油タンク室等のコンクリート工事					●	建築図面に図示	油サービスタクの防油堤					●		ボイラーの煙突及びプロパンボンベ庫（既製のものは機械）					●		実験台（陶器製流し、化学水栓、ガス栓及びコンセント共付属品を含む）					●		実験台への配管及び配管接続			●				電気配線	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）		●			二次側	機器付属の制御盤への電源供給の配管配線			●		一次側	制御盤と動力盤間の電源供給及び操作回路の渡り配管配線			●			機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線			●		
工 事 内 容			機械	電気	建築	備 考																																																																																																																																							
開口部	はり、床、壁の貫通部（RC造）	スリーブ、仮枠、穴埋共	●			S造は建築																																																																																																																																							
		補 強 筋			●	建築図面に図示																																																																																																																																							
	天井、壁の切り込み	ボ ー ド 類 切 込 み	●																																																																																																																																										
		下 地 補 強			●	建築図面に図示																																																																																																																																							
外部取付ガラリ（ダクト、チャンパの接続用フランジを含む）					●	建築図面に図示																																																																																																																																							
レンジフードファン、フード（取付枠共）及び流し台（排水トラップ共）					●																																																																																																																																								
洗面所、手洗所等の大型鏡、はめ込型洗面器用カウンター及び身障者用手すり					●																																																																																																																																								
下流し、足洗い場及び玄関の排水			●																																																																																																																																										
床、天井、壁の点検口及び床下水槽のマンホール蓋					●	建築図面に図示																																																																																																																																							
屋内外設備（受水槽、ポンプ等）の基礎					●	建築図面に図示																																																																																																																																							
屋上設備の基礎					●	建築図面に図示																																																																																																																																							
地下油タンク室等のコンクリート工事					●	建築図面に図示																																																																																																																																							
油サービスタクの防油堤					●																																																																																																																																								
ボイラーの煙突及びプロパンボンベ庫（既製のものは機械）					●																																																																																																																																								
実験台（陶器製流し、化学水栓、ガス栓及びコンセント共付属品を含む）					●																																																																																																																																								
実験台への配管及び配管接続			●																																																																																																																																										
電気配線	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）		●			二次側																																																																																																																																							
	機器付属の制御盤への電源供給の配管配線			●		一次側																																																																																																																																							
	制御盤と動力盤間の電源供給及び操作回路の渡り配管配線			●																																																																																																																																									
	機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線			●																																																																																																																																									



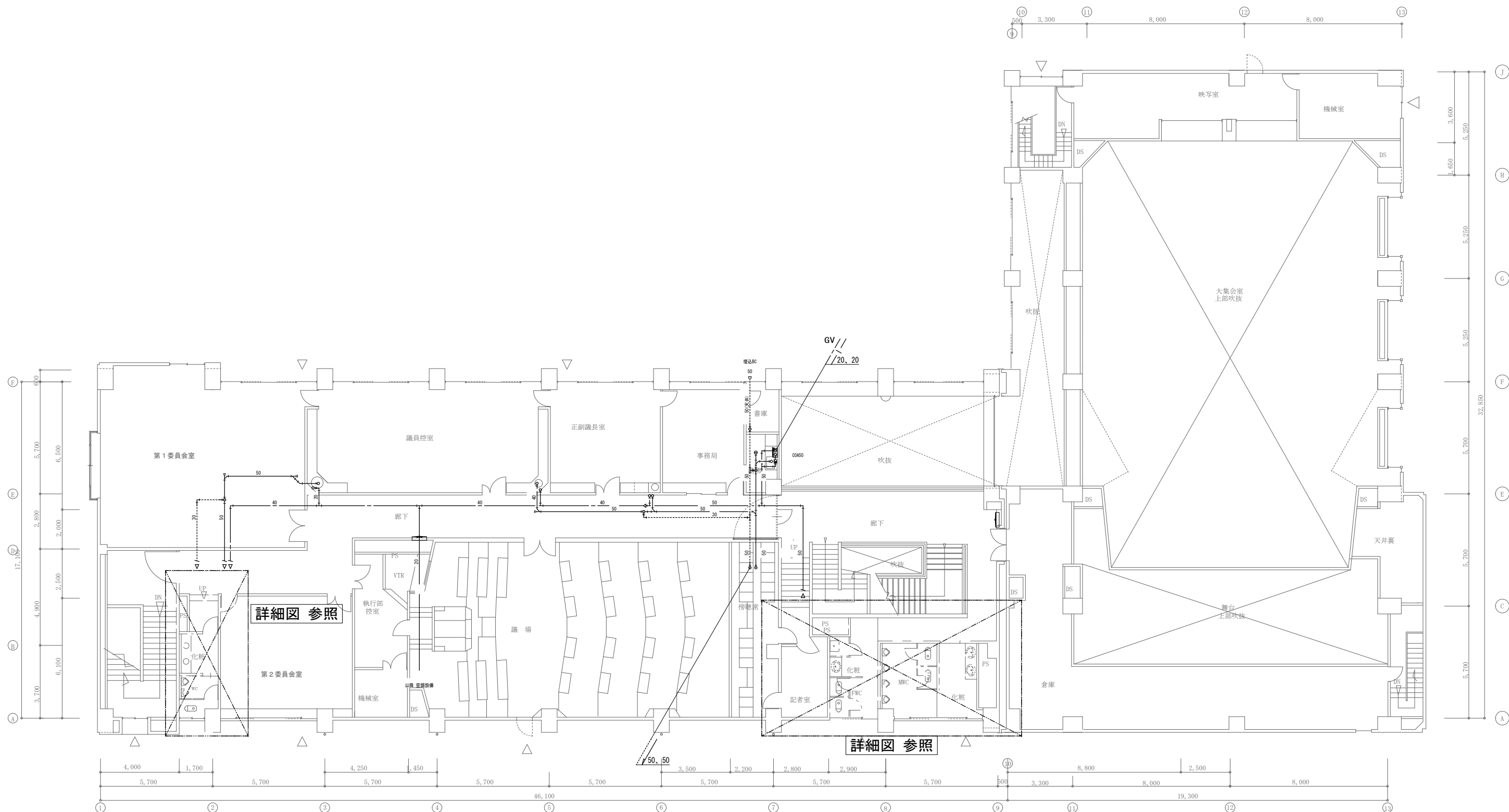




◆は配管切断接続箇所を示す  
点線は既設配管、実線は更新配管を示す  
通気管は既設再利用とする  
特記無き衛生器具、掃除口は既設再利用とする







3階平面図 1/100

◆は配管切断接続箇所を示す  
点線は既設配管、実線は更新配管を示す  
通気管は既設再利用とする  
特記無き衛生器具、掃除口は既設再利用とする



